総合病院水戸協同病院 総合内科専門研修プログラム

令和7年5月作成版

内容

1.理念・使命・特性	3
2.募集専攻医数【整備基準 27】	5
3.専門知識・専門技能とは	6
4.専門知識・専門技能の習得計画	6
5.プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13,14】	9
6.リサーチマインドの養成計画【整備基準 6,12,30】	9
7.学術活動に関する研修計画【整備基準 12】	9
8.コア・コンピテンシーの研修計画【整備基準 7】	10
9.地域医療における施設群の役割【整備基準 11,28】	10
10.地域医療に関する研修計画【整備基準 28,29】	11
11.内科専攻医研修(モデル)【整備基準 16】	11
12.専攻医の評価時期と方法【整備基準 17,19~22】	12
13.専門研修管理委員会の運営計画【整備基準 34,35,37~39】	14
14.プログラムとしての指導者研修(FD)の計画【整備基準 18,43】	15
15.専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)【整備基準 40】	16
16.内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48~51】	16
17.専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】	17
18.内科専門研修の休止・中断,プログラム移動,プログラム外研修の条件【整備基準 33】	17
19.総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム施設群	
研修期間	18
総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム施設群研修施設	19
専門研修施設群の構成要件【整備基準 25】	22
専門研修施設(連携施設・特別連携施設)の選択	22
専門研修施設群の地理的範囲【整備基準 26】	22
20 総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム管理委員会	64

1.理念・使命・特性

理念【整備基準1】

- 1) 本プログラムは、茨城県県央医療圏の中心的な急性期病院である筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター・総合病院水戸協同病院(以下、水戸協同病院)を基幹施設として、茨城県県央医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を経て茨城県の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるよう教育します。 市中病院に大学の教育センターが駐在するという指導体制により、市中病院と大学病院のそれぞれの研修の良さを活かしたプログラムとなっています。全内科統合システム「水戸協同方式」という診療体制により、内科医にとって優れた研修環境を提供しています。
- 2) 初期臨床研修を修了した内科専攻医は、本プログラム専門研修施設群での3年間(基幹施設計2年間+連携・特別連携施設計1年間)に、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します.内科領域全般の診療能力とは、臓器別の内科系サブスペシャルティ分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力です.また、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力です.内科の専門研修では、幅広い疾患群を順次、経験してゆくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮する経験とが加わることに特徴があります.そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察を含めて記載し、複数の指導医による指導を受けることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することを可能とします.

使命【整備基準 2】

- 1) 茨城県県央医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として、1) 高い倫理観を持ち、2) 最新の標準的医療を実践し、3) 安全な医療を心がけ、4) プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し、臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います.
- 2) 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も、内科専門医は常に自己研鑽を続け、最新の情報を学び、新しい技術を修得し、標準的な医療を安全に提供し、疾病の予防、早期発見、早期治療に努め、自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて、地域住民、日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います。
- 3) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を 行います.
- 4) 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究、基礎研究を実際に行う契機となる 研修を行います.

- 1) 本プログラムは、茨城県県央医療圏の中心的な急性期病院である水戸協同病院を基幹施設として、茨城県県央医療圏、近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます.研修期間は基幹施設 2 年間+連携施設・特別連携施設 1 年間の 3 年間になります.
- 2)総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラムでは、症例をある時点で経験するということだけではなく、主担当医として、入院から退院〈初診・入院~退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。</u>そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。
- 3) 基幹施設である水戸協同病院は、茨城県県央医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核であります.一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所(在宅訪問診療施設などを含む)との病診連携も経験できます.また、筑波大学附属病院水戸地域医療教育センターを設置し、民間病院の中に国立大学の教育システムを導入して、筑波大学の教員である医師が共同で診療・教育を行っています.
- 4) 基幹施設である水戸協同病院+連携施設・特別連携施設での2年間(専攻医2年修了時)で、「研修手帳(疾患群項目表)」に定められた70疾患群のうち、少なくとも通算で45疾患群、120症例以上を経験し、専攻医登録評価システム(J-OSLER)に登録できます。そして、専攻医2年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる29症例の病歴要約を作成できます(総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム指導者マニュアル P.5 別表1「各年次到達目標」参照).
- 5)総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、専門研修 2~3 年目の計 1 年間、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践します.
- 6) 基幹施設である水戸協同病院での計 2 年間と専門研修施設群での計 1 年間(専攻医 3 年修了時)で、「研修手帳(疾患群項目表)」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 56 疾患群、160 症例以上を経験し、専攻医登録評価システム(J-OSLER)に登録できます。可能な限り、「研修手帳(疾患群項目表)」に定められた 70 疾患群、200 症例以上の経験を目標とします(総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム指導者マニュアル P.5 別表 1 「各年次到達目標」参照).

内科専門医の使命は、1)高い倫理観を持ち、2)最新の標準的医療を実践し、3)安全な医療を心がけ、4)プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです.内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが、それぞれの場に応じて、

- 1) 地域医療における内科領域の診療医(かかりつけ医)
- 2) 内科系救急医療の専門医
- 3) 病院での総合内科の専門医
- 4) 総合内科的視点を持ったサブスペシャリストに合致した役割を果たし、地域住民、国民の信頼を獲得します.それぞれのキャリア形成やライフステージ、あるいは医療環境によって、求められる内科専門医像は単一でなく、その環境に応じて役割を果たすことができる、必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります.

総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム施設群での研修終了後はその成果として、内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養とジェネラルなマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材を育成します。そして、茨城県県央医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します。また、希望者はサブスペシャルティ領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも、本施設群での研修が果たすべき成果です。

2.募集専攻医数【整備基準 27】

下記 1) ~7) により、総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラムで募集可能な内科専攻医数は 1 学年 8 名とします.

- 1) 水戸協同病院内科専門研修プログラム専攻医は 2024 年 4 月現在、3 学年併せて 9 名で 1 学年 2~5 名の 実績があります.
- 2) 剖検体数は 2023 年度 7 体です.

表.水戸協同病院内科系·救急分野別診療実績(2015年)

	入院患者数(人/年)	
総合内科		300
消化器		660
循環器		865
内分泌・代謝		375
腎臓		180
呼吸器		645
血液		85
神経		485
膠原病・アレルギー		135
感染症		255
救急		936

- 3) 血液, 膠原病, アレルギー領域の入院患者は少なめですが, 外来患者診療を含め, 1 学年 8 名に対し十分な症例を経験可能です.
- 4) 11 領域の専門医が少なくとも 1 名以上在籍しています (P.19 「総合病院水戸協同病院総合内科専門研修 プログラム施設群」参照).

- 5) 1 学年 8 名までの専攻医であれば、専攻医 2 年修了時に「研修手帳(疾患群項目表)」に定められた 45 疾患群、120 症例以上の診療経験と 29 病歴要約の作成は達成可能です.
- 6) 連携施設・特別連携施設には、高次機能・専門病院 16 施設、地域基幹病院 5 施設および地域医療密着型病院 2 施設、計 23 施設あり、専攻医のさまざま希望・将来像に対応可能です.
- 7) 専攻医 3 年修了時に「研修手帳(疾患群項目表)」に定められた少なくとも 56 疾患群, 160 症例以上の診療経験は達成可能です.

3.専門知識・専門技能とは

1) 専門知識【整備基準 4】 [「内科研修カリキュラム項目表」参照]

専門知識の範囲(分野)は、「総合内科」、「消化器」、「循環器」、「内分泌」、「代謝」、「腎臓」、「呼吸器」、「血液」、「神経」、「アレルギー」、「膠原病および類縁疾患」、「感染症」、ならびに「救急」で構成されます。

「内科研修カリキュラム項目表」に記載されている,これらの分野における「解剖と機能」,「病態生理」,「身体診察」,「専門的検査」,「治療」,「疾患」などを目標(到達レベル)とします.

2) 専門技能【整備基準 5】 [「技術·技能評価手帳」参照]

内科領域の「技能」は、幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた、医療面接、身体診察、検査結果の解釈、ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します.さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他のサブスペシャルティ専門医へのコンサルテーション能力とが加わります.これらは、特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません.

4.専門知識・専門技能の習得計画

1) 到達目標【整備基準 8~10】 (総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム指導者マニュアル P.5 別表 1「各年次到達目標」参照) 主担当医として「研修手帳(疾患群項目表)」に定める全 70 疾患群 を経験し、200 症例以上経験することを目標とします.

内科領域研修を幅広く行うため、内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性があります.そこで、専門研修(専攻医)年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定します.

o専門研修(専攻医)1年:

- •症例:「研修手帳(疾患群項目表)」に定める 70 疾患群のうち,少なくとも 20 疾患群,60 症例以上を経験し,専攻医登録評価システム(J-OSLER)にその研修内容を登録します.以下,全ての専攻医の登録状況については担当指導医の評価と承認が行われます.
 - •専門研修修了に必要な病歴要約を 10 症例以上記載して J-OSLER に登録します.
- •技能:研修中の疾患群について,診断と治療に必要な身体診察,検査所見解釈,および治療方針 決定を指導医,サブスペシャルティ上級医とともに行うことができます.
- ・態度:専攻医自身の自己評価と指導医、サブスペシャルティ上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います.

o専門研修(専攻医)2年:

- •症例:「研修手帳(疾患群項目表)」に定める 70 疾患群のうち,通算で少なくとも 45 疾患群, 120 症例以上の経験をし,専攻医登録評価システム(J-OSLER)にその研修内容を登録します.
 - ●専門研修修了に必要な病歴要約をすべて記載して J-OSLER への登録を終了します.

•技能:研修中の疾患群について,診断と治療に必要な身体診察,検査所見解釈,および治療方針 決定を指導医,サブスペシャルティ上級医の監督下で行うことができます.

・態度:専攻医自身の自己評価と指導医、サブスペシャルティ上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います.専門研修(専攻医)1年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします.

o専門研修(専攻医)3年:

- •症例:主担当医として「研修手帳(疾患群項目表)」に定める全 70 疾患群を経験し, 200 症例以上経験することを目標とします.修了認定には,主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計160 症例以上(外来症例は 1 割まで含むことができます)を経験し,専攻医登録評価システム(JOSLER)にその研修内容を登録します.
 - 専攻医として適切な経験と知識の修得ができることを指導医が確認します。
- •既に専門研修 2 年次までに登録を終えた病歴要約は、日本内科学会病歴要約評価ボード(仮称)による査読を受けます.査読者の評価を受け、形成的により良いものへ改訂します.但し、改訂に値しない内容の場合は、その年度の受理(アクセプト)を一切認められないことに留意します.
- •技能:内科領域全般について,診断と治療に必要な身体診察,検査所見解釈,および治療方針決定を自立して行うことができます.
- ・態度:専攻医自身の自己評価と指導医、サブスペシャルティ上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回行って態度の評価を行います.専門研修(専攻医)2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします.

また,内科専門医としてふさわしい態度,プロフェッショナリズム,自己学習能力を修得している か否かを指導医が専攻医と面談し,さらなる改善を図ります.

専門研修修了には、すべての病歴要約 29 症例の受理と、少なくとも 70 疾患群中の 56 疾患群以上で計 160 症例以上の経験を必要とします.専攻医登録評価システム(J-OSLER)における研修ログへの登録と指 導医の評価と承認とによって目標を達成します.

総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラムでは、「研修カリキュラム項目表」の知識、技術・技能修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は3年間(基幹施設計2年間+連携・特別連携施設計1年間)とするが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を1年単位で延長します.一方でカリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的にサブスペシャルティ領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修を開始させます.

内科領域の専門知識は、広範な分野を横断的に研修し、各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます.内科領域を 70 疾患群(経験すべき病態等を含む)に分類し、それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します(下記 1) ~5)参照).この過程によって専門医に必要な知識、技術・技能を修得します.代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します.また、自らが経験することのできなかった症例については、カンファレンスや自己学習によって知識を補足します.これらを通じて、遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします.

- ①内科専攻医は、担当指導医もしくはサブスペシャルティの上級医の指導の下、主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて、内科専門医を目指して常に研鑽します。主担当医として、入院から退院〈初診・入院~退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。
- (2) 定期的(毎週1回)に開催する各診療科あるいは内科合同カンファレンスを通じて、担当症例の

病態や診断過程の理解を深め、多面的な見方や最新の情報を得ます.また、プレゼンターとして情報 検索およびコミュニケーション能力を高めます.

- (3)総合内科外来(初診を含む)を少なくとも週1回,1年以上担当医として経験を積みます.
- ④救急外来(平日夜間、休日)で内科領域の救急診療の経験を積みます。
- ⑤当直医として病棟急変などの経験を積みます.
- ⑥必要に応じて、サブスペシャルティ診療科検査を担当します.

3) 臨床現場を離れた学習【整備基準 14】

- 1) 内科領域の救急対応, 2) 最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解, 3) 標準的な医療安全や感染対策に関する事項, 4) 医療倫理, 医療安全, 感染防御, 臨床研究や利益相反に関する事項, 5) 専攻医の指導・評価方法に関する事項, などについて, 以下の方法で研鑽します.
 - ①毎朝開催するモーニングカンファレンス
 - (2)週1回開催するグランドカンファレンス (総回診)
 - (3) 週2回開催するレクチャー
 - (4) 定期的(それぞれ毎週1回程度)に開催する各診療科でのカンファレンス、レクチャー
 - ⑤医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会(基幹施設 2020 年度実績感染 2 回、医療安全 2 回)
 - ⑥CPC、マクロ CPC (基幹施設 2019 年度実績 14 回, 2018 年度実績 12 回) を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます.
 - (7)研修施設群合同カンファレンス (2022 年度実績年 2 回開催)
 - (8)地域連携カンファレンス(基幹施設年2回), 茨城県内科学会(年3回)
 - (9)JMECC 受講(基幹施設: 2022 年度開催実績 2 回)
 - ※内科専攻医は必ず専門研修1年もしくは2年までに1回受講します.
 - 何内科系学術集会(下記「7.学術活動に関する研修計画」参照)
 - ①各種指導医講習会, JMECC 指導者講習会など

「研修カリキュラム項目表」では、知識に関する到達レベルを A (病態の理解と合わせて十分に深く知っている) と B (概念を理解し、意味を説明できる) に分類、技術・技能に関する到達レベルを A (複数回の経験を経て、安全に実施できる、または判定できる) , B (経験は少数例だが、指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる,または判定できる) , C (経験はないが、自己学習で内容と判断根拠を理解できる) に分類、さらに、症例に関する到達レベルを A (主担当医として自ら経験した), B (間接的に経験している(実症例をチームとして経験した、または症例検討会を通して経験した), C (レクチャー、セミナー、学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した) と分類しています. (「研修カリキュラム項目表」参照)

自身の経験がなくても自己学習すべき項目については、以下の方法で学習します.

- (1)内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信
- ②日本内科学会雑誌にある MCQ
- ③日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題など
- 5) 研修実績および評価を記録し、蓄積するシステム【整備基準 41】 専攻医登録評価システム(J-OSLER) を用いて、以下を Web ベースで日時を含めて記録します.

- •専攻医は全70疾患群の経験と200症例以上を主担当医として経験することを目標に、通算で最低56疾患群以上160症例の研修内容を登録します.指導医はその内容を評価し、合格基準に達したと判断した場合に承認を行います.
- •専攻医による逆評価を入力して記録します.
- •全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し、専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボード(仮称)によるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を受理(アクセプト)されるまでシステム上で行います.
- •専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します.
- ●専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等(例: CPC, 地域連携カンファレンス, 医療倫理・医療安全・感染対策講習会)の出席をシステム上に登録します.

5.プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13,14】

総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム施設群でのカンファレンスの概要は,施設ごとに実績を記載した(P.19「総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム施設群」参照).

プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である水戸協同病院研修管理委員会が把握し、定期的に E-mail などで専攻医に周知し、出席を促します。

6.リサーチマインドの養成計画【整備基準 6,12,30】

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず,これらを自ら深めてゆく姿勢です。この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となります。総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム施設群は基幹施設,連携施設,特別連携施設のいずれにおいても,

- 患者から学ぶという姿勢を基本とする.
- ② 科学的な根拠に基づいた診断、治療を行う(EBM; evidence based medicine).
- ③ 最新の知識,技能を常にアップデートする(生涯学習).
- (4) 診断や治療の evidence の構築・病態の理解につながる研究を行う.
- ⑤ 症例報告を通じて深い洞察力を磨く.といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養します.

併せて,

- ① 初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う.
- ② 後輩専攻医の指導を行う.
- ③ メディカルスタッフを尊重し、指導を行う.

を通じて、内科専攻医としての教育活動を行います.

7.学術活動に関する研修計画【整備基準 12】

総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム施設群は基幹病院,連携病院,特別連携病院のいずれにおいても,

- (1)内科系の学術集会や企画に年2回以上参加します(必須).
- ※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPC および内科系サブスペシャ

ルティ学会, ACP 日本支部, 茨城県内科学会の学術講演会・講習会を推奨します.

- (2)日本農村医学会学術総会,関東農村医学会学術総会での発表を推奨します.
- (3)経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行います.
- ④ 臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います.を通じて、科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします.

内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者2件以上行います.

なお、専攻医が、社会人大学院などを希望する場合でも、総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します.

8.コア・コンピテンシーの研修計画【整備基準7】

「コンピテンシー」とは観察可能な能力で、知識、技能、態度が複合された能力です。これは観察可能であることから、その習得を測定し、評価することが可能です。その中で共通・中核となる、コア・コンピテンシーは倫理観・社会性です。

総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム施設群は基幹施設,連携施設,特別連携施設のいずれにおいても指導医,サブスペシャルティ上級医とともに下記1)~10)について積極的に研鑽する機会を与えます.

プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である水戸協同病院研修管理委員会が把握し、定期的に E-mail などで専攻医に周知し、出席を促します.

内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得します.

- ①患者とのコミュニケーション能力
- ② 患者中心の医療の実践
- ③患者から学ぶ姿勢
- (4)自己省察の姿勢
- (5)医の倫理への配慮
- (6)医療安全への配慮
- ⑦公益に資する医師としての責務に対する自律性(プロフェッショナリズム)
- (8)地域医療保健活動への参画
- (9)他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
- (10)後輩医師への指導

※教える事が学ぶ事につながる経験を通し、先輩からだけではなく後輩、医療関係者からも常に学ぶ 姿勢を身につけます.

9.地域医療における施設群の役割【整備基準 11,28】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です.総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム施設群研修施設は茨城県県央医療圏、近隣医療圏の医療機関から構成されています.

水戸協同病院は、茨城県県央医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核です.一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所(在宅訪問診療施設などを含む)との病診連携も経験できます.また、臨床研究や症例報告などの学術活動の

素養を身につけます.

連携施設,特別連携施設には,内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し,地域医療や全人的医療を 組み合わせて,急性期医療,慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的 に,高次機能・専門病院,および地域医療密着型病院で構成しています.

高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます.地域基幹病院では、水戸協同病院と異なる環境で、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します.また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます.

地域医療密着型病院では、地域に根ざした医療・高次機能病院への搬送の判断などを中心とした診療 経験を研修します.

総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム施設群(P.19)は、茨城県県央医療圏・近隣医療圏の医療機関から構成しています。

10.地域医療に関する研修計画【整備基準 28,29】

総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラムでは、症例をある時点で経験するということだけではなく、主担当医として、入院から退院〈初診・入院~退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としています。

総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラムでは、主担当医として診療・経験する患者を通じて、高次病院や地域病院との病病連携や診療所(在宅訪問診療施設などを含む)との病診連携も経験できます。

11.内科専攻医研修(モデル)【整備基準 16】

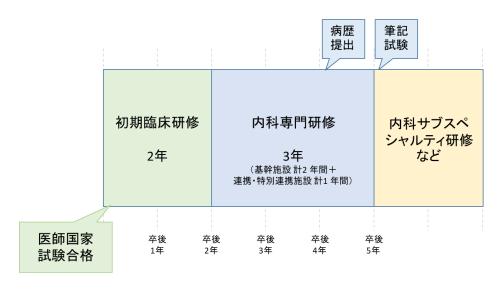


図1.総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム(概念図)

3 年間の研修の間に、基幹施設である水戸協同病院内科・救急科での研修の他、連携施設・特別連携施設で計 1 年間研修します. 専攻医1年目の秋に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価 (内科専門研修評価)などを基に、専門研修(専攻医)2年目以後の研修診療科、研修施設を調整し決定します。専門研修(専攻医)3年目に病歴提出を終えます。(図1).なお、研修達成度によってはサブスペシャルティ研修も可能です(個々人により異なります).

※研修スケジュールの例(ローテーション重点コース)

	4~6 月	7~9 月	10~12 月	1~3月
1年目	救急	総合診療科(総合内科))	
2年目	循環器内科	内分泌代謝・糖 尿病内科	選択科① (連携施設)	選択科② (連携施設)
3年目	選択科③ (連携施設)	選択科4 (連携施設)	総合診療科	感染症科

※研修スケジュールの例 (総合内科重点コース)

	4~6月	7~9 月	10~12 月	1~3月
1年目	総合診療科(総合内科	斗)		救急
2年目	選択科① 選択科② (連携施設)		呼吸器内科	腎臓内科
3年目	総合内科 (連携施設)		総合診療科・チーフレジ	デント (基幹施設)

※研修スケジュールの例(サブスペシャルティ重点コース)

	4~6月	7~9月	10~12 月	1~3月
1年目	救急	総合診療科(総合内科)		
2年目	腎臓内科	内分泌代謝・糖尿病 内科	選択科① (連携施設)	選択科② (連携施設)
3年目	循環器内科(連携施設	굣)	循環器内科 (基幹施設)	

※研修スケジュールの例(サブスペシャルティ重点コース)

	4~6 月	7~9 月	10~12 月	1~3月
1年目	総合診療科(総合内科	斗)		救急
2年目	選択科① (連携施設)	選択科② (連携施設)	消化器内科	膠原病リウマチ 内科・神経内科
3年目	内分泌代謝・糖尿病に	内科 (基幹施設)	内分泌代謝·糖尿病内科	· (連携施設)

12.専攻医の評価時期と方法【整備基準 17,19~22】

- (1) 水戸協同病院研修管理委員会の役割
 - 総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム管理委員会の事務局として機能します。
 - ●総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム開始時に、各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について専攻医登録評価システム(J-OSLER)を基にカテゴリー別の充足状況を確認します。
 - •3 か月ごとに J-OSLER にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による J-OSLER への記入を促します.また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します.
 - •6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します.また、各

カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します.

- •6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します.
- •年に複数回(8月と2月,必要に応じて臨時に),専攻医自身の自己評価を行います.その結果はJ-OSLER を通じて集計され,1か月以内に担当指導医によって専攻医に形成的にフィードバックを行って,改善を促します.
- •水戸協同病院研修管理委員会は、メディカルスタッフによる 360 度評価(内科専門研修評価)を毎年複数回(8月と2月、必要に応じて臨時に)行います.担当指導医、サブスペシャルティ上級医に加えて、看護師長、看護師、臨床検査・放射線技師・臨床工学技士、事務員などから 100 人以上に評価を依頼します.評価表では社会人としての適性、医師としての適正、コミュニケーション、チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します.評価は無記名方式で、研修管理委員会もしくは統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して複数職種に回答を依頼し、その回答は担当指導医が取りまとめ、J-OSLER に登録します(他職種はシステムにアクセスしません).その結果は J-OSLER を通じて集計され、担当指導医から形成的にフィードバックを行います.
- 日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット(施設実地調査)に対応します。

(2) 専攻医と担当指導医の役割

- ●専攻医1人に1人の担当指導医(メンター)が総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム委員会により決定されます.
- ●専攻医は Web にて専攻医登録評価システム(J-OSLER)にその研修内容を登録し、担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします.この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います.
- •専攻医は、1年目専門研修終了時に「研修カリキュラム」に定める 70 疾患群のうち 20 疾患群, 60 症例以上の経験と登録を行うようにします.2 年目専門研修終了時に 70 疾患群のうち 45 疾患群, 120 症例以上の経験と登録を行うようにします.3 年目専門研修終了時には 70 疾患群のうち 56 疾患群, 160 症例以上の経験の登録を修了します.それぞれの年次で登録された内容は都度, 担当指導医が評価・承認します.
- ●担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、J-OSLER での専攻医による症例登録の評価や研修管理委員会からの報告などにより研修の進捗状況を把握します.専攻医はサブスペシャルティの上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します.担当指導医とサブスペシャルティの上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します.
- •担当指導医はサブスペシャルティ上級医と協議し、知識、技能の評価を行います.
- •専攻医は、専門研修(専攻医)2年修了時までに29症例の病歴要約を順次作成し、J-OSLERに登録します.担当指導医は専攻医が合計29症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理(アクセプト)されるように病歴要約について確認し、形成的な指導を行う必要があります.専攻医は、内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形成的評価に基づき、専門研修(専攻医)3年次修了までにすべての病歴要約が受理(アクセプト)されるように改訂します.これによって病歴記載能力を形成的に深化させます.

(3) 評価の責任者

年度ごとに担当指導医が評価を行い、基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討します.その結果を年度ごとに総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム管理委員会で検討し、統括責任者が承認します.

(4) 修了判定基準【整備基準 53】

- 1)担当指導医は、専攻医登録評価システム(J-OSLER)を用いて研修内容を評価し、以下 i) \sim vi)の修了を確認します.
- i) 主担当医として「研修手帳(疾患群項目表)」に定める全 70 疾患群を経験し、計 200 症例以上 (外来症例は 20 症例まで含むことができます) を経験することを目標とします.その研修内容を J-OSLER に登録します.修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例 以上の症例(外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます)を経験し、登録済み

(総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム指導者マニュアル P.5 別表 1「各年次到達目標」参照).

- ii) 29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理(アクセプト)
- iii) 所定の2編の学会発表または論文発表 iv) JMECC 受講 v) プログラムで定める講習会受講
- vi)J-OSLER を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価(内科専門研修評価)と指導医による内 科専攻医評価を参照し、社会人である医師としての適性
- 2)総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム管理委員会は、当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し、研修期間修了約1か月前に総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います.

(5) プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

「専攻医研修実績記録フォーマット」,「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画(FD)の実施記録」は、専攻医登録評価システム(J-OSLER)を用います.

なお、「総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム専修医マニュアル」【整備基準 44】 (別冊)と「総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム指導者マニュアル」【整備基準 45】(別冊)と別に示します.

13.専門研修管理委員会の運営計画【整備基準 34,35,37~39】

(P.23 「総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム管理委員会」参照)

- 1)総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準
 - i)総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム管理委員会にて,基幹施設,連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります.

総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム管理委員会は、統括責任者、プログラム管理委員長、事務局代表者、内科サブスペシャルティ分野の研修指導責任者、連携施設担当委員で構成されます.

また、オブザーバーとしてチーフレジデント(専攻医代表)を委員会会議の一部に参加させる (P.23 「総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム管理委員会参照).

総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム管理委員会の事務局を,水戸協同病院研修管理 委員会におきます.

ii)総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム施設群は、基幹施設、連携施設ともに内科専門研修委員会を設置します。委員長1名(指導医)は、基幹施設との連携のもと、活動するとともに、専攻医に関する情報を定期的に共有するために、毎年6月と12月に開催する総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム管理委員会の委員として出席します。

基幹施設,連携施設ともに,毎年4月30日までに,総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム管理委員会に以下の報告を行います.

- ①前年度の診療実績
 - a)病院病床数,
 - b)内科病床数,
 - c)内科診療科数,
 - d) 1 か月あたり内科外来患者数,
 - e)1 か月あたり内科入院患者数,
 - f)剖検数
- ②専門研修指導医数および専攻医数
 - a)前年度の専攻医の指導実績,
 - b)今年度の指導医数/総合内科専門医数,
 - c)今年度の専攻医数,
 - d)次年度の専攻医受け入れ可能人数.
- (3)前年度の学術活動
 - a) 学会発表,
 - b) 論文発表
- 4)施設状況
 - a) 施設区分,
 - b) 指導可能領域,
 - c) 内科カンファレンス,
 - d)他科との合同カンファレンス,
 - e) 抄読会,
 - f) 机,
 - g) 図書館,
 - h)文献検索システム,
 - i)医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会,
 - j)JMECC の開催.
- (5)サブスペシャルティ領域の専門医数

日本消化器病学会消化器専門医数、日本循環器学会循環器専門医数、日本内分泌学会専門医数、日本糖尿病学会専門医数、日本腎臓病学会専門医数、日本呼吸器学会呼吸器専門医数、日本血液学会血液専門医数、日本神経学会神経内科専門医数、日本アレルギー学会専門医(内科)数、日本リウマチ学会専門医数、日本感染症学会専門医数、日本救急医学会救急科専門医数

14.プログラムとしての指導者研修(FD)の計画【整備基準 18,43】

指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」(仮称)を活用します. 厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します.指導者研修(FD)の実施記録とし専攻医登録評価システム(J-OSLER)を用います.

15.専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)【整備基準 40】

労働基準法や医療法を順守することを原則とします.

専門研修(専攻医)1年目は基幹施設である水戸協同病院の就業環境に,専門研修(専攻医)2~3年目は基幹施設ないし連携施設・特別連携施設の就業環境に基づき,就業します(P.19「総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム施設群」参照).

基幹施設である水戸協同病院の整備状況:

- •研修に必要な図書室とインターネット環境があります.
- •病院職員(常勤)として労務環境が保障されています.
- •メンタルストレスおよびハラスメントに適切に対処する部署があります(茨城県厚生連内).
- ◆女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
- •敷地脇に院内保育所があり、利用可能です.

専門研修施設群の各研修施設の状況については、P.19「総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム施設群」を参照.

また,総括的評価を行う際,専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い,その内容は総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム管理委員会に報告されるが,そこには労働時間,当直回数,給与など,労働条件についての内容が含まれ,適切に改善を図ります.

16.内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48~51】

1) 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医登録評価システム(J-OSLER)を用いて無記名式逆評価を行います.逆評価は年に複数回行います.

また、年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には、研修施設ごとに逆評価を行います. その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧します.

集計結果に基づき、総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます.

2) 専攻医等からの評価(フィードバック)をシステム改善につなげるプロセス

専門研修施設の内科専門研修委員会,総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム管理委員会,および日本専門医機構内科領域研修委員会は専攻医登録評価システム(J-OSLER)を用いて,専攻医の逆評価,専攻医の研修状況を把握します.把握した事項については,総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討します.

- ① 即時改善を要する事項
- ②年度内に改善を要する事項
- (3)数年をかけて改善を要する事項
- (4) 内科領域全体で改善を要する事項
- (5)特に改善を要しない事項

なお、研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難である場合は、専攻医や指導 医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします.

•担当指導医,施設の内科研修委員会,総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム管理委

員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて専攻医の研修状況を定期的に モニタし、総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判 断して総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラムを評価します.

•担当指導医,各施設の内科研修委員会,総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム管理 委員会,および日本専門医機構内科領域研修委員会はJ-OSLER を用いて担当指導医が専攻医の研修 にどの程度関与しているかをモニタし,自律的な改善に役立てます.状況によって,日本専門医機構 内科領域研修委員会の支援,指導を受け入れ,改善に役立てます.

3) 研修に対する監査(サイトビジット等)・調査への対応

総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム管理委員会は、総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応します。その評価を基に、必要に応じて総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラムの改良を行います。

総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム更新の際には、サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告します.

17.専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】

総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム管理委員会は、ウェブサイトでの公表や説明会などを行い、内科専攻医を募集します.翌年度のプログラムへの応募者は、水戸協同病院筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター・総合病院水戸協同病院のウェブサイトの後期研修医募集要項(総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム)に従って応募します.書類選考および面接を行い、総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム管理委員会において協議の上で採否を決定し、本人に文書で通知します.

(問い合わせ先) 筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター・総合病院水戸協同病院

医局秘書 E-mail:<u>residency@mitokyodo-hp.jp</u> HP: <u>https://www.mitokyodo-hp.jp/iryoukankei/rinsyoukensyuu</u> 総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラムを開始した専攻医は、遅滞なく専攻医登録評価システム(J-OSLER)にて登録を行います.

18.内科専門研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外 研修の条件【整備基準 33】

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムの移動が必要になった場合には、適切に専攻医登録評価システム(J-OSLER)を用いて総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し、担当指導医が認証します。これに基づき、総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が、その継続的研修を相互に認証することにより、専攻医の継続的な研修を認めます。他の内科専門研修プログラムから総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラムへの移動の場合も同様です。

他の領域から総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラムに移行する場合,他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめる場合,あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には,当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し,担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め,さらに総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り,J-OSLER への登録を認めます. 症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定によります.

疾病あるいは妊娠・出産、産前後に伴う研修期間の休止については、プログラム終了要件を満たしており、かつ休職期間が6ヶ月以内であれば、研修期間を延長する必要はないものとします。これを超える期間の休止の場合は、研修期間の延長が必要です。短時間の非常勤勤務期間などがある場合、按分計算(1日8時間、週5日を基本単位とします)を行なうことによって、研修実績に加算します。

留学期間は、原則として研修期間として認めません.

19.総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム施設群 研修期間

3 年間(基幹施設計 2 年間+連携・特別連携施設計 1 年間)

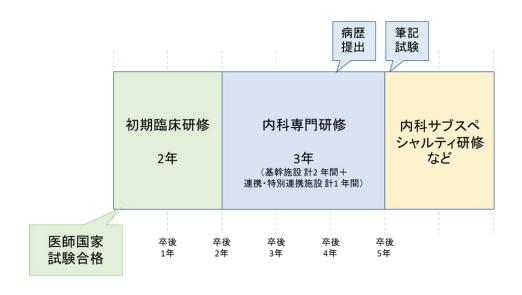


図1.総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム(概念図)

総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム施設群研修施設

表 1.各研修施設の概要

		病床数	内科系病床数	内科指導医数	総合内科専門医数	内科剖検数
基幹施設	水戸協同病院	369	160	17	16	3
連携施設	筑波大学附属病院	800	229	99	77	15
連携施設	茨城県立中央病院	500	200	36	28	5
連携施設	水戸医療センター	500	210	16	14	10
連携施設	水戸済生会総合病院	432	161	10	10	3
連携施設	茨城西南医療センター病院	356	100	4	2	2
連携施設	島根大学医学部附属病院	600	113	41	38	3
連携施設	帝京大学ちば総合医療センター	475	169			6
連携施設	獨協医科大学埼玉医療センター	923	263	36		
連携施設	八戸市民病院	602		17	9	27
連携施設	都立多摩総合医療センター	789	283	47	50	30
連携施設	土浦協同病院	800	286	30	12	11
連携施設	ひたちなか総合病院	302	150	10	13	8
連携施設	虎の門病院分院	300	56	6	6	
連携施設	沖縄協同病院	280	120	4	. 5	10
連携施設	中頭病院	355	174	20	22	9
連携施設	浦添総合病院	334	160	16	13	6
連携施設	友愛医療センター	388	188	25	21	6
連携施設	川﨑幸病院	326	108	12	9	7
連携施設	岡山大学病院	849	220	128	69	5
連携施設	麻生飯塚病院	1048	570	15	39	14
連携施設	長崎大学病院	874	242	107	87	4
連携施設	日立製作所日立総合病院	651	267	18	14	10
連携施設	沖縄北部病院	327	142	6	5	2
連携施設	JA 北海道厚生連帯広厚生病院	651	273	18	17	9
連携施設	埼玉医科大学総合医療センター	1053	238	45	31	16
連携施設	公立陶生病院	633	301	27	26	14
連携施設	藤田医科大学病院	1435	378	55	54	18
連携施設	湘南鎌倉総合病院	669	321	46	29	13
連携施設	国際医療福祉大学成田病院					
連携施設	東京医科大学茨城医療センター					
連携施設	独協医科大学病院					
連携施設	福島県立医科大学会津医療センター	226	121	16	11	8
連携施設	筑波メディカルセンター	408	141	16	11	2
連携施設	鹿児島県立大島病院	299	90	4	2	1
連携施設	東京ベイ浦安市川医療センター	344	130	44	19	7
連携施設	HITO 病院	238	60	1	13	2
連携施設	伊東市民病院	250	135	5	2	5
連携施設	順天堂大学医学部附属順天堂医院	1051	338	218	114	24
連携施設	日本海総合病院	630	261	25	19	7
連携施設	亀 田総合病院	917	500	33	22	17

連携施設	南部徳洲会病院	357	92	3	2	3
連携施設	耳原総合病院	386	277	15	10	12
連携施設	東京女子医科大学	1139	324	88	79	6
特別連携施設	県北医療センター高萩協同病院	220	55	0	0	0
特別連携施設	那珂記念クリニック	19	19	0	0	0
特別連携施設	隠岐広域連合立隠岐島前病院	44	44	0	0	0
特別連携施設	公立久米島病院	40	40	1	0	0

※定床にしていません

表 2.各内科専門研修施設の内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	レア	膠原	感染症	救急
										ĺ	病		
水戸協同病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	×	0
筑波大学附属病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
茨城県立中央病院	0	0	0	0	0	0	0	0	\circ	0	0	0	0
水戸医療センター	0	0	0	\triangle	\triangle	\triangle	0	\circ	0	\circ	Δ	\triangle	0
水戸済生会総合病院	0	\circ	\circ	\triangle	\triangle	\circ	Δ	\circ	\circ	0	0	\circ	\circ
茨城西南医療センター病院	0	\circ	0	×	×	0	0	×	×	×	×	×	0
島根大学医学部附属病院	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	0	\circ	\circ	\circ	0	\circ	\circ
帝京大学ちば総合医療センター	×	×	×	×	×	×	×	×	×	\circ	0	×	×
獨協医科大学埼玉医療センター	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	0
八戸市民病院	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	0
都立多摩総合医療センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
土浦協同病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ひたちなか総合病院	\circ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
虎の門病院分院	×	×	×	×	×	0	×	×	×	×	×	×	×
沖縄協同病院	0	0	0	Δ	Δ	0	0	Δ	Δ	Δ	Δ	0	Δ
中頭病院	0	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	0	\circ	Δ	\circ	Δ	\circ	\circ
浦添総合病院	0	\circ	\circ	\circ	0	0	0	Δ	Δ	0	Δ	\circ	0
友愛医療センター	0	0	0	0	\circ	0	0	Δ	Δ	0	0	0	0
川﨑幸病院	×	0	0	×	×	0	×	×	×	×	X	×	0
岡山大学病院	0	0	0	0	0	0	0	0	\circ	0	0	0	0
麻生飯塚病院	\circ	0	0	Δ	Δ	0	0	0	Δ	Δ	0	\triangle	0
長崎大学病院	\circ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日立製作所日立総合病院	\circ	\circ	\circ	\circ	0	\circ	0	0	0	Δ	×	\triangle	Δ
沖縄北部病院	\circ	0	0	0	\circ	\circ	Δ	Δ	0	Δ	0	0	0
JA 北海道厚生連帯広厚生病院	\circ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
埼玉医科大学総合医療センター	0	0	0	Δ	Δ	0	0	0	0	Δ	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
藤田医科大学病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
湘南鎌倉総合病院	\circ	0	0	0	0	0	0	0	0	\circ	0	0	\circ
国際医療福祉大学成田病院													
東京医科大学茨城医療センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
独協医科大学病院													

福島県立医科大学会津医療センター	\circ	\circ	\bigcirc	\circ	\circ	\bigcirc	\circ	\circ	\triangle	\circ	0	\circ	\bigcirc
筑波メディカルセンター病院	0	0	0	0	0	×	0	Δ	0	0	Δ	0	0
鹿児島県立大島病院	0	0	0	0	0	Δ	0	0	\circ	Δ	Δ	0	\circ
東京ベイ浦安市川医療センター	0	0	0	Δ	0	0	0	\triangle	0	0	0	0	0
HITO 病院	0	\circ	0	Δ	Δ	Δ	Δ	Δ	\circ	Δ	Δ	0	\circ
伊東市民病院	0	0	0	Δ	Δ	0	Δ	×	0	Δ	Δ	0	0
日本海総合病院	\circ	0	\circ	0	0	\circ	0	0	0	0	0	Δ	0
耳原総合病院	0	0	0	\triangle	0	0	0	Δ	\triangle	Δ	0	0	0
東京女子医会大学病院	0	0	×	0	0	0	×	×	0	×	0	×	0
順天堂大学医学部附属順天堂医院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
亀田総合病院	\circ	0	0	0	0	0	Δ	0	0	0	0	0	×
南部徳洲会病院	0	0	0	0	0	0	0	Δ	Δ	0	Δ	0	0
県北医療センター高萩協同病院	0	Δ	Δ	Δ	Δ	Δ	Δ	Δ	Δ	Δ	Δ	Δ	0
那珂記念クリニック	×	×	×	0	0	×	×	×	×	×	×	×	×
隠岐広域連合立隠岐島前病院	0	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
公立久米島病院	\bigcirc	Δ	Δ	Δ	\triangle	Δ	Δ	Δ	Δ	Δ	Δ	Δ	0

〈○:研修できる、△:時に経験できる、×:あまり経験できない〉

専門研修施設群の構成要件【整備基準 25】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です.総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム施設群研修施設は茨城県の医療機関から構成されています.

水戸協同病院は、茨城県県央医療圏の中心的な急性期病院です.そこでの研修は、地域における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験を研修します.また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます.連携施設・特別連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせて、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能・専門病院である筑波大学附属病院、茨城県立中央病院、水戸医療センター、水戸済生会総合病院、島根大学医学部附属病院、地域基幹病院である茨城西南医療センター病院、および地域医療密着型病院である高萩協同病院で構成しています.高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます.

地域基幹病院では、水戸協同病院と異なる環境で、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心と した診療経験をより深く研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます。

地域医療密着型病院では、地域に根ざした医療、高次機能病院への搬送の判断などを中心とした診療経験を研修します.

専門研修施設(連携施設・特別連携施設)の選択

- ●専攻医1年目の秋に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる内科専門研修評価などを基に、研修診療科、研修施設を調整し決定します.
- ●3 年間の研修の間に、基幹施設である水戸協同病院内科・救急科での研修の他、連携施設・特別連携施設で計1年間研修し、専攻医3年目に病歴提出を終えます(図1). なお、研修達成度によってはサブスペシャルティ研修も可能です(個々人により異なります).

専門研修施設群の地理的範囲【整備基準 26】

茨城県内の県央医療圏と近隣医療圏にある施設から構成しています.

1) 専門研修基幹施設

筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター・総合病院水戸協同病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・筑波大学附属病院水戸地域医療教育センターを設置し、民間病院の中に国立大学の教育システムを導入して、筑波大学の教員である医師が共同で診療・教育を行っています. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。筑波大学附属図書館と直結したインターネット回線があり、筑波大学で契約している電子ジャーナルを共有しています。・病院職員(常勤)として労務環境が保障されています。・メンタルストレスおよびハラスメントに適切に対処する部署があります(茨城県厚生連内)・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プロ グ ラムの環境	 ●指導医は17名在籍しています。 ●総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者,プログラム管理委員長にて,基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ●基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する臨床研修管理委員会を設置します。 ●医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2024年度4回、2023年度4回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催(2024年度2回,2023年度2回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●CPC(2024年度5回)、マクロCPC(2024年度4回)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講(2024年度開催実績2回)を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	 日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修管理委員会が対応します。 カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野(少なくても7分野以上)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても35以上の疾患群)について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検(2024年度3体)を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環 境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています. ・倫理委員会を設置し,不定期に開催しています. ・治験管理室を設置し,定期的に受託研究審査会を開催しています. 筑波大学の教員が訪問して臨 床研究相談会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会で積極的に学会発表をしています.
指導責任者	小林 裕幸 【内科専攻医へのメッセージ】 水戸協同病院は筑波大学附属病院水戸地域医療教育センターを設置し、大学病院でも一般病院でも 実現困難な、全く新しい診療と臨床研修体制を実現しました他に例を見ないこの体制は誰もが描く 診療と研修の理想像に近く、あの Tierney 先生の一番弟子である UCSF の Dhaliwal 先生をして「嫉 妬を感じる」と言わしめた体制です。その体制の中核は、病院全体が水戸協同病院でありかつ教育 センターであること、内科、救急、集中治療の間に垣根がない総合診療体制で、他のすべての科を 含んだ病院全体が一体化していること、毎朝、毎週、全内科はもちろん病理学部門を含む主要科が そろって症例検討すること、教授から研修医までみんなの目線が等しくいつでもどこでも、普通に 気軽に相談、討論できること、そして、「すべては研修医のために」を方針として常に体制を見直 していることです。さあ、皆さん、一緒に学び、そして地域医療に貢献しようではありませんか。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 17 名,日本内科学会総合内科専門医 16 名,日本消化器病学会消化器専門医 4 名,日本循環器学会循環器専門医 3 名,日本糖尿病学会専門医 4 名,日本腎臓学会腎臓専門医 2 名,日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名,日本神経学会神経内科専門医 1 名,ほか
外来・入院患者 数	外来患者 606 名(1 日平均) 入院患者 227.7 名(1 日平均)2024.4~2025.3
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて,「研修手帳(疾患群項目表)」にある 13 領域,70 疾患群の症例を幅広 く経験することができます.
経験できる技術・ 技能 技能	「技術・技能評価手帳」にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広 く経験することができます.
経験できる地域医 療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます.

日本内科学会認定教育施設 学会認定施設 (内科系) 日本病院総合診療医学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会循環器研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本静脈経腸栄養学会 (NST 稼動施設認定) 日本頭痛学会認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本人間ドック学会会員施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本緩和医療学会緩和ケアチーム登録施設 救急科専門医指定施設、DMAT 指定病院 茨城県広域スポーツセンタースポーツ医科学推進事業協力医療機関認施設 など

2) 専門研修連携施設

1. 筑波大学附属病院

 設定基準整備基準と31 1) 事攻医の構営 2) 事状態を発展さると多くの研修が充落する高内無一の医学能性変わり大力アック・大変の固縮能が利用可能な他、固蓄的が気持する2000以上の東文ジャーナルをしてフルティントストで成立とができます。	7 - 12 - 13 - 14 - 11 - 11 - 11 - 12 - 12 - 12 - 12	
・大学の図書館が利用可能な他、図書館が契約する2000以上の英文ジャーナルを大下ナルとしてアルテンスである2000以上で、また、当べての関連、研修監証インター名でお成があります。 ・変生、当べての関連、研修監証インター名でお成があります。 ・変生、当べての関連、研修監証インター名でお成があります。 ・変生、総合館政務等とンター毎は関係がメンタルとしており、個人からの申し込みで面談が可能です。 ・パラスメントは大学を作名書語で再用部がメンタルとしており、個人からの申し込みで面談が可能です。 ・パラスメントは大学を作名書語で再用書かあります。 ・現心部内に対策のレて動物できるように、保護第、更次第(ロッカー等)の観覧。シャワー第、当監証とが整備されています。また、女性支援のため、総合権政務等センターに、プリーディイーター、「特性医師」がおり、出途、育立と女性のキャリアを対した表情があります。 ・大学教授的に保育があります。 ・大学教授を対しております。を書きないまた。といまします。 ・大学教育があります。 ・大学教育があります。 ・大学教育があります。 ・大学教育がよりでは大学教育があります。 ・大学教育がよりでは大学教育がよります。 ・大学教育がよりでは大学教育を表しております。 ・大学教育がよります。 ・ 一般の名野は実内で接款が発射されてメディカルスタッフが参加する合同カンファレンスを研究を、書が会を書画し、本度が支援者できるようにしております。 ・ 一般の名野は実内で接款が発射されてメディカルスタッフが参加する合同カンファレンスを研究を、書が会を書画し、本学教育がよります。 ・ 一般の名野は実内で接款が表れております。 ・ 一般の名野は実内で接数が表れてオリスタッフが参加する合同カンファレンスを研究を、書物に実内では大学教育がよります。 ・ 一般の名野な大学教育を書から、また、研修を記述のよります。 ・ 一本の名学を書面し、本学教育を主ないます。 ・ 本学教育を主ないます。 ・ 本学の主ないます。 ・ 本学教育を持ています。 ・ 本学の主ないます。 ・ 本学教育を行ったが、また、また、また、また、また、また、また、また、また、また、また、また、また、	認定基準	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院として平成27年度は78名(一般プログラムフルマッ
ンジャーナルとしてアルテキストで認動とおいてきます。 ・また、ナベでの時間、解除数気にインターネット環境があります。 ・主度、それでなの時間、解除数気にインタルストレスに適助に対処します。また、院内には定期に金属素力のシェラー(外部)が出途行っており、自人からの申し込みで由談が可能です。 ・パクスメントは大学全体各電影に専用歌口があります。 ・現と部外に150人を過える後別研修医(や診療ドウ)が解修していますが、約4割が女性です。 女性男女医が安心して動物できるように、体憩室、皮衣室(ロッカー室)、仮教室、シャリー室、当直室とどが整備されています。また、放生支援のため、総合語が表向すセンターにキャリアコーディネーチーを作気動ががあります。 ・大学整地内に保護団があり利用可能です。7時半~22時まで表地しており、土土も可能です。 ・力・大学地地内に保護団があり利用可能です。7時半~22時まで表地しており、土土も可能です。 ・おり、常時利中もことが可能です。 20月間のボケコグラ ムの環境 ・ 1時度を509名を第1しており、異内側・一砂片は機能用成として各分野にスペシャリストが描っており、光時利用からの短期内の総合生物です。 ・ 1時度を509名を第1しており、異内側・一砂片は機能用成として各分野にスペン・リストが描っており、光時利用であるの短期内を必要を必要に、「就場ので研修する方を提回、反射施定状産設合といるファーク・内科女医の多なの保証の修医を行成してきた実績があり、指導体制が確認しております。と所ではいまり、また、体表との対しまり、中心を引きると支にはメティカルとかり、カイン・クスト等連合を全と関して、指定は、手でよります。とのでは、は対したという時からからからからからからからからからからからからからからからからからからから	整備基準 24】	チ)、平成28年度62名と多くの研修医が在籍する県内唯一の医学部併設の大学病院です。
・また、すべての関係、研修的窓にインター来りト別があります。 - 産業院、総合館販売費とンター毎代開かメンタのより入して設定に対し対します。また、院内には定期がに需要カウンセラー(外面)が開放を行っており、個人からの中し込みで開放が可能です。 - ハフタメントは大学金体各部署に申用窓口があります。 - 現在窓内に150人を超える後期所後に全部隊を(全部隊科で)が研修していますが、約4割が女性です。 女性安収区が安しして勤務できるように、体態窓、更衣窓(ロッカー窓)、破販窓、シャワー窓、直室立とが整備されています。また、女性表別のため、発きでは、アナー・「キーンアー」がイネーター、中年に影節)がおり、山南・育元など女性のキャリアを支持する体制があります。 - 大学を進度されています。また、女性表別のため、生き・・ - 大学を進力に保育所があり、川南・育元など女性のキャリアを支持する体制があります。 - 大学を進力に保育所があり、川南・育元など女性のキャリアを支持する体制があります。 - 大学を進力に保育所があり、利用ではです。「野牛・2~日本のはは集月中の特別・第分とすり、まり、電外利用ではことが可能です。 - 大学の場内に発育所があり、指揮を必ずの意味として各分野にスペンテリストが前っておりまり。 - 大神の変を動作しております。 - 大神の変を動作しており、東川県一の特学機能研修として各分野にスペンテリストが前っております。 - 大神の変を動作を発きたと対して、地東力や大学がありまり、中央が設定される。 - 大神の変を動作しています。とは、現実力を受け、対しています。とは、現実力を関係していまり、専門性の高い診療を行っております。 - 大神のなのかり、中央経内で基本を支に対しております。 - 大神のを分野は此内で複数が感解さ行っております。また、「おり、中門性の高い診療経験が可能を発したい大されたとします。 - カリキュラムに不可外権政策は13分野のケーベでに私に乗ります。 - 大神のを分野は此内で複数が高がなどさるようにしてお店します。 - カリキュラムに不可外権政策は13分野のケーベでに私に乗りに関し、専門性の高い診療経験が可能があります。 - 大神のと動物とは大神のよります。 - 大神のを分別といれては、海の大学のでは対します。 - 大神の変を入り、中央のとの機能を発していまります。 - 大神のないのよります。 - 大神のなのより、中央が変を入り、内科の各種域に関いた関のといまします。 - 大神の変を入り、中央のよります。 - 大神の変を入り、中外の各域を対しまり、東門性の高いアカガミを対しまります。 - 大神の変を入り、中外の各域を対しまります。 - 大神の変を入り、中外の形式を対します。 - 大神の変を入りまります。 - 大神の変を入り、中外の影を域をとなり、中外の影を域をとなり、中の様を行っているといます。 - 大神の変を入り、中外の影を域をとなります。 - 大神の変を入り、中外の影をがながあるが変を入り、中のでを受け、14年のでを受け、14年ので、15年ので、1	1) 専攻医の環境	・大学の図書館が利用可能な他、図書館が契約する2000以上の英文ジャーナルを病棟でオンライ
・ 産業医、穀金融床教育センター専任医師がメンタルストレスに適切に対処します。また、除内には 宇期的に栄養のウンセラー(外部)が厳護を行っており、個人からの申し込みで確談が可能です。 ・ハフスメントは大学金体各種製に専用窓口があります。 ・フィンスメントは大学金体各種製に専用窓口があります。 ・対性すび医が突心して勤務できるように、休憩室、更衣室(ロッカー室)、仮販室、シャワー室、当 は客などが落飾されています。また、女体支援のため、総合額床教育センターにキャリアコーディネーター(原任経論)がより、出産・自力化です。 ・大学教地がに保育所があり利用可能です。 7 両半へ 2 5時まで対応しており、上手も可能です。 ・方突地中に保育所があり利用可能です。 7 両半へ 2 5時まで対応しており、上手も可能です。 おり、高神利中することが可能です。 ・透しないり、日間では、日間では、日間では、大学教性が保険者のよりを対します。 ・力の、高神利中することが可能です。 ・方科の全局を企業しており、見り唯一の物产技能構成として各分野にスペシャリメトが何っておりまり、本神利中な医の金型関係のとないませいまり。また、気体に独自力の特定機能では置きるいまり、大学科の全別性を対します。 ・大学教を受けて保険が関係を指している。 ・大学教を受けて保険が関係を含まると可能でする事実の研修を全型し、基本制度設置されております。 ・大学教の会別性に対しまり、中保住用者も全長で調けることが関係しております。 ・大学教の全別性を関係を含まれていまります。 ・たいからの参別性操作性保険が減さるようたしております。また、研修施設を対しており、中門性の高い診療経験が可能で、制に存職を引しております。 ・取りを主ましており、中保住用金は、3分野カナベでにおいて共用医が在籍し、専門性の高い診療経験が可能で、制に経験したい実験が多めれば希望しております。 また、庭・原教が経験が可能です。大学初のレジデント制度を定め、以来到達自標・修丁設定・外部が価のある質の高い情別研修プログラムを含いた。 お本内外学会、各 500年のよりでは、10年の名間域において数なしております。 また、庭・原教がとすったが、力を含いが多くの流程を行うことが目前ですので、内科専門 お内科専門の物や大学初のレジデント制度をよったのよります。また、ほかのより、専門性の高いア カッド・カードでは、20年では、2		
東期的に 新菜 カウンセラー (外部) が面談を行っており、個人からの申し込みで面談が可能です。 ・ハラスメントは大学企体各価能に再間窓口があります。 ・現在窓内に 15 0人を据える色類研修図(含物検科で)が研修していますが、約4 割が女性です。 女性再央医が安心して勤修できるように、体温速、更衣並(ロゥカー型) (反映画、シャワー域、当直室などが整備されています。また、体温速、更衣並(ロゥカー型) (反映画、シャワー域、当直室などが整備されています。また、体温速、更衣並(ロゥカー型) (反映画、シャワー域、当直室などが整備されています。また、体生技術のキリアを支援する体制があります。 ・ 大学教師がに係有的があり利用に関すて、方等やことの非しており、まつもの様です。 ・ 大学教師が同様のの短期利用の場合等前にご相談くださいりまた、配内には職員用の控制派が整備されており、おり、前時利用が3ととの可能です。 ・ 指導区が99 名在特しており、県内唯一の特定機能時限として全分野にスペシャリストが増っており、ため、性味上の教会への限期が経めを育成してもの表表があります。 ・ 内容のな形をは見なる登画して、施設内で研修する中皮区の研修を管理し、基幹施設に設置されるフレグラ人を興意員会を選修を図ります。 ・ 医療無理・医療女全・感染が清潔習会を推動に開催しております。 各議署会はビデオ講義で交請書金ととが可能であります。 ・ 医療無理・医療女全・感染が清潔国会と理か同じます。 ・ 内容のなの野は際内で複な診断科およびリスティカルメリッフが参加する自用カンファレンスを可究的に開催しており、事所外の全別物産例は関係的会(中の)で練引します。また、研修施設を合同カンファレンスを可究の主義を構造と対します。		
・ハラスメントは大学全体各語と、中国歌山があります。 ・現在院内に150人を超える発動構作医(金添客件で)が研修していますが、約4割が女性です。 女性専攻医が変化して場合できるように、休憩室、更衣室(ロッカー室)、仮服室、シャワー室、当 直室などが発掘されています。また、女性変なから、総合臨床教育センターにネッリアコーディネーター(存住体的)がおり、出産・育児ルと女性のキッリアを支護ナな体制がありままら、大学教地がに保育所があり利用可能です。「非学や22時まで対応しており、土自ら可能です。 おり、常時利用することが可能です。 ・ 指導医が卵を在作しており、共り呼一の特定機能病院として各分野にスペシャリストが揃っており、まり、常時利用することが可能です。 ・ おり、常時利用することが可能です。 ・ おり、常時利用することが可能です。 ・ おり、常時利用することが可能です。 ・ おり、常時利用することが可能です。 ・ おり、常時利用することが可能です。 ・ おり、常時利用することが可能です。 ・ おり、常時利用することが可能できり、 ・ おり、常時利用することが可能できり。 ・ おり、常時利用することが可能です。 ・ おり、常時利用することが可能をできる。		
・現在販売内に150人を超える後期所修医(全途療料で)が研修していますが、約4割が女性です。 対性事処医が必めて生物教育をあるように、権強率、更変化(ロッカーが) 仮味性、カーター(毎任服制)がおり、出席・育法定と女性のキャリアを支援する体制があります。 ・大学教授内に保育所があり利用では、方時では、7時半・20時まで対しており、七日・前位です。 (作度途中からの短期利用の場合事前にご相談、だざいりまた。院内に建職員用の標準率が整備されています。 ・おり、奈時利用することが可能です。 ・指導医が99名在権しており、県外卵ーの特定機能病族として合分野にスペン・リストが伺っており、 ・指導医が99名在権しており、県外卵ーの特定機能病族として合分野にスペン・リストが伺っており、 ・ 指導医が99名在権しており、県外卵ーの特定機能病族として合分野にスペン・リストが伺っており、 ・ 内科の女医師修委員会を受起して、施設内で何修する事故医の研修を管理し、基幹施設に設置される ・ カフェグスを受要会会を展して、施設内で何修する事故医の研修を管理し、基幹施設に設置される ・ 大神等女医師修委員会を受起して、施設内で何修する事故医の研修を管理し、基幹施設に設置される ・ 大神等女医師修委員会を受起して、施設内での修する事故医師であり、中療経財者も全を受護することが適務付けられております。 ・ 医療倫理・医療安全・極級技術語で会会で類的に開催しております。 各議習会はビデオ講義で受認 することが可能であり、中療経財者も全を受謝的に開催しております。 各議習会はビデオ講義で受認 ・ 内科の全部建設の作機を参加されております。また、新修施設は自由カンファレンスや研究会、講的を開催しており、中期性の高い診療を行っております。また、原内の全制機能例は割検を制力のよってにおります。 毎年の日本・・・ 中国・・・ 中国・・ 中国・・・ 中国・・ 中国・・・ 中国・・		
女性東次氏が安心して制度できるように、体質室、更衣室(ロッカー室)、仮観室、シャワー室、当 室室とが整備されています。また、女性支援のため、総合能転換管センターにメリフェーディネ ・大学級師のに保育所があり利用可能です。7時半へ2 2時まで対応しまわり、十日も可能です。 は役後中からの規制用用の場合等部にご相談(ださいりまた、院内には職員用の時限系が整備されており、まり、常時和日本ることが可能です。 20 専門研修プログラ 人の環境 9年末程と「おり、東戸唯一の特定機能相限として各分野にスペシャリストが補っております。 ・背原反が99年末程と「おり、東戸唯一の特定機能相限として各分野にスペシャリストが補っております。 ります。後来より数多くの後財帯修匠を育成してきた実績があり、指導体制が確立しております。 ります。後来より数多くの後財帯修匠を育成してきた実績があり、指導体制が確立しております。 ・医療価値、医療な金・係及対策調査会を計画的に開催しております。各諸習会は上でオコ議会で受害 することが可能であり、中海使用を含金量のます。 ・医療内を対して対して表のよります。また、研修施設性のカファレンスを変 期的に開催しており、中野性の高い診療を行っております。また、研修施設性のカファレンスを変 期的に開催しており、中野性の高い診療を行っております。また、研修施設性の高い診療経験が可 整定基準 整度基準 13 3)診療経験の環境 要定基準 21 4)学符活動の環境 環境を参加し、中央区が受講できるようにしております。専門性の高い診療経験が可 変に基準 21 4)学符活動の環境 指導責任者 7 万本日 7 年に日立大学初のレジデント制度を定め、以来到達目標・修丁設定・外部評価の ある資の高い後期研修プログラムを行い、内料の各領域に対しております。 また、銀水研究、症側視古など多くの論文を発表しており、事攻医に積極的に関与してもらっております。 また、銀水研究、症側視古など多くの論文を発表しており、事攻医に積極的に関与してもらっております。 また、銀水研究、症側根古など多くの論文を発表しており、事攻医に積極的に関与してもらっております。 また、銀水研究、症側根古など多くの論文を発表しており、現実の医療を持つことが可能ですので、内科専門 が可能です。また、19歳ではすべてに経験書な対策の異外から希かな変をの確則を育成してきた実績 が可能です。また、19歳ではすべてい経験書から指導医、7中)医を多数権しており、専びが必要との情報 第次として表では、対策が必要とであります。 指導区数とは、対策に対していたいと思っております。 相対の影や今時門医の名、日本内を学の時間医の名、日本内を呼の大きで、対策と関する。 4、日本内を学今専門医の名、日本内保全の時間医の名、日本が必要かを行うことが可能でする、14名、日本の必要かを呼吸医の名、日本内の大き専門医16 名、日本保険を経験では関係としております。 相本内が必ずの事の、日本内体を大学院をプレスをよめの事にある内科専門医16 名、日本保険を経験では関係のと駆か可能です。技術、上をご教育を手間医 3 名、36人聚 事実を専門医 6 名、日本リウェチを今時間医 7 名、日本所と参与時間医 3 名、36人聚 事実を専門医 7 名、日本財の学の発達が関係とよるが必要を対しております。 経験できる機能 外来のペル教を一定とは、10年に経験したい分野の実産が経験できる診療科をローテーショ 大変のとの経験が可能、希望に応じて経験したい分野の実産が経験できる診療科を中テーショ とといるの経験が可能、希望に応じて経験したい分野の実産が経験できる診療科をといるが、対域となり、対域となりを表して経験したい技術を表めの表して経験にあるのは関係を表しております。 を表しております。 を表しているのは、10年によりによりによりによりによりによりによりによりによりによりによりによりによりに		
直本などが整備されています。また、女性大便のため、総合版は教育センターにキャリアコーディネーター(住任医師)がおり、出他・専児など女性のキャリアを支持であばられています。・大学数地内に保育所があり利用可能です。7時半〜2 2時まで対応しており、土日も可能です。(午度途中からの短期利用の場合事前にご相談ください)また。院内には職員用の得乳末が整備されており、海門周野をプログランの環境 20 当門修をプログランの環境 20 当時を対しており、県内理一の特定機能制度として各分野にスペシャリストが描っておき機器が全21 30 当門解をプログランの環境 20 当時を対しており、単分様と関係が変更の生産をはしており、県内理一の特定機能制度として各分野にスペシャリストが描っており、海内等の保険を全機しており、県内理一の特定機能制度として各分野にスペシャリストが描めており、中内科学実際が修文会と。磁気対策諸習会を型制的に開催しております。各情報会はビデオ講義で受講することが可能であり、中機別者も全員受講することが義格がしております。と、所能に対しており、内特別の高い影故を行っております。また、研修施設能を同カンファレンスやを研究を、議論金を会が関に内で複数診療が表はたりエンディカルスタップが参加する合同のファアレンスや成が変を、議論金を会が関係に関いております。また、研修施設を持続は対しており、場内を合分がに関係しており、場内を合分が経験である。である音のの場が数別である。と、日本の科学会、各、Subspecialty 前域学会において数多くの演題を発表しております。また、臨床研究、症例報をなど多くの論文を発表しており、中央医に積極的に関与してもらっており、サイルのインスを表が、を表に受け、大きに関大学初のレジデント制度を定め、以来到達目標・修丁説だ・外部評価のある音のから、後の研修をプログラムを行い、内料の各領域において数多くの中門医を育成してもらっておりまります。 また、臨床研究、症例報をなど多くの論文を発表しており、中央医院機能的に関与してもらっておりまり、カトの保険に対して対して表していたがある音の体が数明確を行うことが可能を育りことが可能を行うことが可能を含め成が変更です。また、は密ではすべてのおおりをはいてのおりまりによります。また、は密ではすべてのおおりまけ、対して対ります。とない表によって表に対して表してがきます。場内を確認を受けるとないましてみてください、お待ちしております。また、自体のに対しまれては内がするとのでは、対して対します。また、自体のに対しまれてものは対します。とない表に対してカリボリス・サールを全の情報を表してあります。また、自体のに対してカリボリストのであります。とのでは、大きに表しまれていると表でありました。また、自体のに対してカリボリストのでは、大きに表しまして、まります。また、自体のに対します。といできます。場に経験したのは、大きに表しまできまります。とないました、を表していまが、大きに表しましていまが、大きに表しましていまが、大きに表しましていまります。また、自体のに対しましましましましましましましましましましましましましましましましましましま		
- ター (毎任医師) がおり、出産・育児など女性のキャリアを支援する体制があります。 ・大学教物がに保育所があり利用ででき、789年~2 2 8時まで対応しており、土自も可能です。 (年度途中からの短期利用の場合事前にご相談ください)また、院内には職員用の権乳産が整備されて おり、常時利用することが可能です。 29 専門修修ブログラ 人の爆発 29 専門修修ブログラ 人の爆発 20 専門修修ブログラ 人の爆発 20 専門修修ブログラ 人の爆発 20 専門修修ブログラ 人の爆発 20 専門修修ブログラ 人の爆発 21 ・		
・大学教地内に保育所があり利用可能です。て時半~22時まで対応しており、上目も可能です。 (行度途中からの領別利用の場合事前に「組織とださい)また、院内には職員用の権利率が整備されて おり、常時利用することが可能です。 ・ 治療後から多の領別利用の場合事前に「和談とださい)また、院内には職員用の権利率が整備されて の		
(年度途中からの短期利用の場合・前にご相談ください)また、院内には職員用の検乳室が整備されて		
おり、常時利用することが可能です。 ・指導医が99 名在籍しており、県内電ーの特定機能病院として各分野にスペシャリストが前っております。 ・指導医が99 名在籍しており、県内電ーの特定機能病院として各分野にスペシャリストが前っております。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラムの環境 「クログラム管理員会と連携を図ります。」 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を理期に開催しております。各講習会はビデオ講義で受講することが可能であり、中途採用者も全員受講することがあれる的、中途採用者も全員受講することがあれる的、中途採用者も全員受講することがあれる自力ンファレンスや研究会、講演会を参加し、再び使き講である」にしております。また、研修施設能合同カンファレンスや研究会、講演会を参加し、再びか受講で含えらいにしております。 ・院内の全別検定院内で複数診療科およびコメディカルスタッフが参加する合同カンファレンスや研究会、講演会を参加し、再後所の受講を行っております。また、研修施設能合同カンファレンスや研究会、講演会を参加し、再びか受講で含えらいにしております。 ・院内の全別検定院に対解機管対金(CPC)で検討します。毎月数回開催しております。 ・院内の全別検定例は到検検計会(CPC)で検討します。毎月数回開催しております。 ・院内の全別検定例は到検検計会(CPC)で検討します。毎月数回開催しております。また、研究生経験が表別です。また、毎月数回開催しております。また、毎月数回開催しております。また、毎月数回開催しております。また、毎月数回開催しております。また、臨床研究、定例報告など多くの論文を発表しており、専攻医に競補的に関与してものております。また、臨床研究、定例報告など多くの論文を発表しており、専攻医に競権的に関与してものことが、カラは大きに関いのよります。また、臨床研究・定例報告など多くの論文を発表しており、専攻医を受け、カラを対して対してものよりまた。場内電ーの対しまた、場内では一般が研修では見かが必要が必要が必要が必要が必要が必要が必要が必要が必要が必要が必要が必要が必要が		
### ### ### ### ### ### ### ### ### ##		
・ 内科等文配研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラムの環境	認定基準	・指導医が 99 名在籍しており、県内唯一の特定機能病院として各分野にスペシャリストが揃ってお
□ スプログラム管理委員会と連携を図ります。 □ 医療倫理・医療安全・感染対策諸習会を定期的に開催しております。各諸習会はビデオ講義で受謝することが適能であり、中途採用者も全員受講することが義務付けられております。 □ 内料の各分野は認内で複数診療料およびコメディカルスタッフが参加する合同カンファレンスや 研究会、講演会を参画し、専攻医が受講できるようにしております。 □ 院内の全部検雇例は割検検討会(CPC)で検討します。毎月教回開催しております。 □ 院内の全部検雇例は割検検討会(CPC)で検討します。毎月教回開催しております。 □ 院内の全部検雇例は割検検討会(CPC)で検討します。毎月教回開催しております。 第定基準 整備基準 24 1 3)診療経験の環境 おです。特に経験したい疾患があれば希望に応じて対応します。 3)診療経験の環境 お下す。特に経験したい疾患があれば希望に応じて対応します。 また、臨床研究、症例報告など多くの論文を発表しており、専攻医に積極的に関与してももっております。 また、臨床研究、症例報告など多くの論文を発表しており、専攻医に積極的に関与してももっております。 また、臨床研究、症例報告など多くの論文を発表しており、専攻医に積極的に関与してももっております。 また、臨床研究、症例報告など多くの論文を発表しており、専攻医に積極的に関与してももっております。 また、臨床研究、症例報告など多くの論文を発表しており、専攻医に積極的に関与してももっております。 また、臨床研究、症例報告など多くの論文を発表しており、専攻医に積極的に関与してももっております。 また、監察研究とのカンマグラムを行い、内科の各領域において数多くの専門医を育成してきた実績がありまず。また、 13領域すべてに経験豊富な指導医・専門医を多数権しており、専門性の高いアカデミ・カン・対策に基づな影響できままが、新内科専門医が良定においては内すべての内科専門研修シウクシムの連携施設となり、専攻医を受け入れ、良医育成と貢献としております。また、当族ではティベアの助野をにおいてよります。また、当族ではディベアの助野を自ましております。また、当族では一般を行うことが可能ですので、内科専門医・アネ、日本内科学会接受合作機器専門医・アネ、日本内科学会接受会は再門医・アネ、日本内科学会接受会内科専門医・アネ、日本内科学会等内医・アネ、日本内科学会等内医・アネ、日本は経験を行うことが可能でするの主体を発力を行るよります。 経験できる疾患群 クトルに対しております。また、当院は保険を行動を行うことが可能でするとが日本を行びを持続する。カース・日本を作医・アネ・日本の学会専門医・アネ・日本で発験で会専門医・アネ、日本を保険できる診療科をローデーションすることになります。希に応じて経験したい分野の疾患が経験できる診療科をローデーションすることになります。	整備基準 24】	ります。従来より数多くの後期研修医を育成してきた実績があり、指導体制が確立しております。
・医療倫皇・医療安全・感染対策諸署会を定期的に開催しております。各講習会はビデオ講義で受講することが可能であり、中途採用者も全員受講することが義務付けられております。・内科の名分野は灰内で複数診療科およびコメディカルスタップが参加する合同カンファレンスを運期的に開催しており、専門性の高い診療を行っております。また、可修施設群合同カンファレンスや研究。諸議会を参劃し、専収医が受講できるようにしております。 ・院内の全部検証例は割検検討会(CPC)で検討します。毎月数回開催しております。 ・院内の全部検証例は割検検討会(CPC)で検討します。毎月数回開催しております。 第2年基準 24 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2)専門研修プログラ	・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置され
することが可能であり、中途採用者も全員受講することが義務付けられております。 ・内科の各分野は院内で複数診療科およびコメディカルスタッフが参加する合同カンファレンスを定期的に開催しており、専門性の高い診験を行っております。また、研修施設律合同カファレンスや研究会、譲渡会を参画し、専攻医が受講できるようにしております。 ・院内の全削検症例は削検検討会(CPC)で検討します。毎月数回開催しております。 ・院内の全削検症例は削検検討会(CPC)で検討します。毎月数回開催しております。 カリキュラムに示す内科機域13分町のナベでにおいて専門医が在籍し、専門性の高い診療経験が可能です。特に経験したい疾患があれば希望に応じて対応します。 また、臨床研究、症例報告など多くの論文を発表しており、専攻医に領権的に関与してもらっております。 また、臨床研究、症例報告など多くの論文を発表しており、専攻医に領権的に関与してもらっております。 また、臨床研究、症例報告など多くの論文を発表しており、専攻医に領権的に関与してもらっております。 また、臨床研究、症例報告など多くの論文を発表しており、専攻医に領権的に関与してもらっております。 また、協会では1977年に国立大学初のレジデント制度を定め、以来到達目標・修丁認定・外部評価のある質の高い後期研修プログラムを行い、内科の各領域において数多くの専門医を育成してきた実績があります。 県内唯一の特定機能例応として県内および近隣の県外から希少な疾患が集約され、幅広い疾患の研修が可能です。また、13領域サイベに経験豊富な指導医・専門医を含成進しており、専攻医を受け入れ、良医育成に貢献していきたいと思っております。 また、当院ではすべての Subspecialty 専門医がよび近隣の県外から希少な疾患が集約さなり、専攻医を受け入れ、良医育成に貢献していたに経験豊富な指導医・専門医でコクラムの連携施設となり、専攻医を受け入れ、良医育成に貢献していたいと思っております。また、明神経学会事門医の名、日本内科学会総合内科専門医でコクラムの連携を行うことが日能ですので、内科専門 名、日本市機等学会通り医 8 名、日本構成等学会消化器専門医 16 名、日本有機器学会領機器帯門医 17 名、日本財協学会専門医 7 名、日本財政学会専門医 16 名、日本内科学会総合内科専門医 8 名、日本財政学会専門医 16 名、日本内科学会権とつまてください、まがもと、17 名、日本財政党会専門医 7 名、日本を年医学会専門医 8 名、日本財政党会専門医 7 名、日本市機学会専門医 7 名、日本市機会会専門医 7 名、日本市機等会専門医 7 名、日本市機学会専門医 7 名、日本市機等会専門医 7 名、日本を年医学会専門医 6 名、日本アレルギー学会専門医 7 名、日本市機学会専門医 7 名、日本市機学会専門医 7 名、日本市機学会専門医 7 名、日本市機等会専門医 7 名、日本市機等会等の疾患が発展して、10 名は、10	ムの環境	
・内科の各分野は除内で複数診療科は、びコメディカルスタッフが参加する合同カンファレンスを定期的に開催しており、専門性の高い診療を行っております。また、研修施設群合同カンファレンスや研究会、譲漢会を参画し、専攻医が受講できるようにしております。 ・院内の全割検症例は剖検験計会(CPC)で検討します。毎月数回開催しております。 カリキュラムに示す内科領域13分野のすべてにおいて専門医が在籍し、専門性の高い診療経験が可能です。特に経験したい疾患があれば希望に応じて対応します。 37 治療養験の環境 お連責任者 日本内科学会、各 Subspecialty 領域学会において数多くの演題を発表しております。また、臨床研究、症例製造など多くの論文を発表しており、専攻医に領極的に関与してもらっております。 ます。 「内科専攻医へのメッセージ」 筑波大学は1977年に国立大学初のレジデント制度を定め、以来到達目標・修了設定・外部評価のある質の高い後期研修プログラムを行い、内科の各領域において数多くの専門医を育成してきた実績があります。 よた、13領域すべてに経験豊富な指導医・専門医を多数摊しており、専門性の高いアカデミックな考察に基づく診療が経験できます。 新内科専門医制度においては果内すべての内科専門研修プログラムの連携施設となり、専攻医を受け入れ、良医育成に貢献していきたいと思っております。また、当院ではすべての Subspecialty 分野において専門研修を行うことが由来ます。 せい当院で一度研修してみてください、お待ちしております。また、当院ではすべての Subspecialty 分野において専門研修を行うことが由来ます。 せい当院で一度研修してみてください、お待ちしております。日本内科学会指の影響中医 7名、日本財化器専門医 16名、日本内科学会指の影響中医 17名、日本野保護学会専門医 8名、日本財及研学会専門医 16名、日本内科学会権障として、日本科経学会専門医 7名、日本財保育学会専門医 16名、日本内科学会権障害等ので、18時、日本内科学会を行ります。 本書の大数(日単位)80879人/年 ※2023年度実績 経験できる疾患群 全の領域での経験が可能です。技術・技能子の中医に必要な技能・技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。特に経験したい技術・技能・対応が記者望に応じて対応します。 特に機能病院として高度先進医療の経験が可能です。技術・技能手帳にある内科専門医に必要な技能・技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験したい方野の疾患が発験できる診療科をロテテーションすることになります。 物理機能病院として高度先進医療の経験が可能です。技術・技能手帳にある内科専門医に必要な技能・技術・技能・技術・技能・技術・技能・大変・影像連携、在宅診療ナることができます。		
期的に開催しており、専門性の高い診療を行っております。また、研修施設群合同カンファレンスや研究会、講演会を参画し、専攻医が受講できるようにしております。 ・院内の全別権定例は割検検討会(CPC)で検討します。毎月数回開催しております。 カリキュラムに示す内料領域13分野のすべてにおいて専門医が在籍し、専門性の高い診療経験が可能です。特に経験したい疾患があれば希望に応じて対応します。 3) 診療経験の環境 おびま準 整備基準241 4) 学術活動の環境 お本内科学会、各 Subspecialty 領域学会において数多くの演題を発表しております。また、臨床研究、症例報告など多くの論文を発表しており、専攻医に積極的に関与してもらっております。 方本臣二 「内科専攻医へのメッセージ」 筑波大学は1977年に国立大学初のレジデント制度を定め、以来到達目標・修了認定・外部評価のある質の高い後期研修プログラムを行い、内料の各領域において数多くの専門医を育成してきた実績があります。 果内唯一の特定機能病院として県内および近隣の県外から希少な集患が集約され、幅広い疾患の研修が可能です。また、13領域すべてに経験豊富な指導医・専門医を多数権しており、専攻医を受け入れ、良医育成に貢献していきたいと思っております。また、当院ではすべての Subspecialty 分野において専門研修を行うことが可能ですので、内科専門医療の医育成に貢献していきたいと思っております。また、当院ではすべての Subspecialty 分野において専門研修を行うことが可能ですので、内科専門研修するのSubspecialty 分野において専門研修を行うことが可能ですので、内科専門研修を行るのSubspecialty 分野において専門研修を行うことが出来ます。でも呼修してみてください、お待らしております。また、当体では今全航連専門医 7名、日本解析学会専門医 7名、日本解析学会専門医 7名、日本解析学会専門医 7名、日本解析学会専門医 7名、日本内が必ず会専門医 1名、日本内科学会総合内科専門医 10名、日本神経学会専門医 8名、日本解析等会専門医 7名、日本本経験会専門医 7名、日本本経学会専門医 7名、日本非教等会専門医 7名、日本本年医学会専門医 1名、日本レジー・対応・技術・技能・専門医の人教験、可能でする影験科をローテーションすることになります。希望に応じて経験したい分野の疾患が経験できる診療科をローテーションすることになります。		
研究会、講演会を参画し、専攻医が受講できるようにしております。 ・院内の全制検症例は利検検討会((PC) で検討します。毎月数回開催しております。 りキュラムに示け内料面は 1 3分野のナベでにおいて専門医が在籍し、専門性の高い診療経験が可能で重整備基準 24		
・院内の全割検症例は割検検討会 (CPC) で検討します。毎月数回開催しております。 カリキュラムに示す内科領域 1 3 分野のすべてにおいて専門医が在難し、専門性の高い診療経験が可能です。特に経験したい疾患があれば希望に応じて対応します。 3)診療経験の環境 認定基準 世本内科学会、各 Subspecialty 領域学会において数多くの演題を発表しております。 また。臨床研究、症例報告など多くの論文を発表しており、専攻医に積極的に関与してもらっております。		
認定基準 カリキュラムに示す内科領域13分野のすべてにおいて専門医が在籍し、専門性の高い診療経験が可能です。特に経験したい疾患があれば希望に応じて対応します。 おきな経験の環境 日本内科学会、各 Subspecialty 領域学会において数多くの演題を発表しております。また、臨床研究、症例報告など多くの論文を発表しており、専攻医に積極的に関与してもらっております。また、臨床研究、症例報告など多くの論文を発表しており、専攻医に積極的に関与してもらっております。 方木区二 [内科専攻医へのメッセージ] 気波大学は1977年に国立大学初のレジデント制度を定め、以来到達目標・修了認定・外部評価のある質の高い後期研修プログラムを行い、内科の各領域において数多くの専門医を育成してきた実績があります。 現内唯一の特定機能網院として県内および近隣の県外から希少な疾患が集約され、幅広い疾患の研修が可能です。また、13領域オペでに経験豊富な指導医・専門医を多数擁しており、専門性の高いアカデミックな考察に基づく診療が経験できます。新内科専門医制度においては県内すべての内科専門研修プログラムの連携施設となり、専攻医を受け入れ、良医育成に貢献していきたいと思っております。また、当院ではすべての Subspecialty 分野において専門研修を行うことが出来ます。ぜひ当院で一度研修してみてください。お待ちしております。 指導医数 おかれ学会指導医9名、日本内科学会を実践を手続を行うことが出来ます。ぜひ当院で一度研修してみてください。お待ちしております。 日本内科学会指導医99名、日本内科学会等内医7名、日本潜化器専学会、内医7名、日本内科学会は事時医6名、日本中科学会専門医7名、日本財保学会専門医7名、日本内保等会専門医7名、日本財保等会専門医7名、日本財保等会専門医7名、日本財保等会専門医7名、日本財保等会専門医7名、日本財保等会専門医7名、日本財保等会専門医7名、日本財保等会専門医7名、日本財保等会専門医7名、日本財保等会専門医7名、日本財保等会専門医7名、日本財保等会専門医7名、日本財保等会専門医7名、日本財保等会専門医7名、日本財保等会専門医7名、日本財保等会専門医7名、日本財保等会専門医6名、日本財保護学会専門医7名、日本財保等会専門医7名、日本財保等会専門医7名、日本財保等会専門医6名、日本財保等会専門医7名、日本財保等会専門医7名、日本財保持会会専門医6名、日本財保等会専門医7名、日本財保等会専門医6名、日本財保等会は関係を会験できる技術・技能ができます。特に経験したい技術・技能がおよりに対策によりに対策によりな対策とようながら幅広く経験することができます。特に経験したい技術・技能が表している対策によりに対策によりな関係によりの疾患が経験したい技術・技能が表別に応じて対応します。特に経験したい技術・技能が表別に応じて対応します。特に経験したい技術・技能が表別に対策を対します。特に経験したい技術・技能が表別に対策を関係の高い対策を対するとができます。特に経験したい技術・技能が表別に対策を対している対策を対するとができます。特に経験したい対策を対域によりに対策を対象が対象が対象が対象が対象が対象が対象が対象が対象が対象が対象が対象が対象が対		
整備基準 24] 3)診療経験の環境 日本内科学会、各 Subspecialty 領域学会において数多くの演題を発表しております。 また、臨床研究、症例報告など多くの論文を発表しており、専攻医に積極的に関与してもらっております。 また、臨床研究、症例報告など多くの論文を発表しており、専攻医に積極的に関与してもらっております。 大木巨二	認定基準	
3)診療経験の環境 記定基準 医備基準 241 4)学術活動の環境 指導責任者 「本、臨床研究、症例報告など多くの論文を発表しており、専攻医に積極的に関与してもらっております。 また、臨床研究、症例報告など多くの論文を発表しており、専攻医に積極的に関与してもらっております。 方木臣二 【内科専攻医へのメッセージ】 筑波大学は1977年に国立大学初のレジデント制度を定め、以来到達目標・修了認定・外部評価のある質の高い後期研修プログラムを行い、内科の各領域において数多くの専門医を育成してきた実績があります。 県内唯一の特定機能病院として県内および近隣の県外から希少な疾患が集めされ、幅広い疾患の研修が可能です。また、13領域すべてに経験豊富な指導医・専門医を多数擁しており、専門性の高いアカデミックな考察に基づく診療が経験できます。 新内科専門医制度においては県内すべての内科専門研修プログラムの連携施設となり、専攻医を受け入れ、良医育成に貢献していたたいと思っております。 また、当院ではすべての Subspecialty 分野において専門研修を行うことが可能ですので、内科専門研修を了後の Subspecialty 専門研修や大学院連学に繋がる研修を行うことが出来ます。 世が当院で一度研修してみてください。お待ちしております。 お本籍な数		
整備基準 24】 4) 学術活動の環境 若本臣二 【内科専攻医へのメッセージ】 第波大学は1977年に国立大学初のレジデント制度を定め、以来到達目標・修了認定・外部評価のある質の高い後期研修プログラムを行い、内科の各領域において数多くの専門医を育成してきた実績があります。 県内唯一の特定機能病院として県内および近隣の県外から希少な疾患が集約され、幅広い疾患の研修が可能です。また、13領域ナベでに経験豊富な指導医・専門医を多数擁しており、専門性の高いアカデミックな考察に基づく診療が経験できます。 新内科専門医制度においては県内サベでの内科専門研修プログラムの連携施設となり、専攻医を受け入れ、良医育成に貢献していきたいと思っております。 また、当院ではすべてのSubspecialty 分野において専門研修を行うことが可能ですので、内科専門研修修で後のSubspecialty 専門研修や大学院進学に繋がる研修を行うことが出来ます。 また、当院ではすべてのSubspecialty 今野において専門研修を行うことが出来ます。 また、当院ではすべてのSubspecialty 今野において専門研修を行うことが可能ですので、内科専門研修修で後のSubspecialty 専門研修や大学院進学に繋がる研修を行うことが出来ます。 また、当院ではすべてのSubspecialty 今野において専門研修を行うことが可能ですので、内科専門研修修でも後のSubspecialty 専門を12名、日本育協を行うことが可能ですので、内科専門医行名、日本循環器学会循環器専門医12名、日本腎臓病学会専門医7名、日本阿と器専門医14名、日本内科学会専門医7名、日本所の経験有学会専門医7名、日本を経験できる時間を3名、がん薬物療法専門医5名、日本リウマチ学会専門医8名、日本麻酔療会専門医7名、日本産年医学会専門医1名、日本体験と専門医1名、日本・日本経験できる専門医7名、日本体験を専門医7名、日本を年医学会専門医1名、日本・日本経験できる専門医7名、日本経験できる接触できる接触が可能です。技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を表すといる場所を経験が可能です。技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を表すといる場所を経験できる技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。特に経験したい技術・技能がも対域として高度先進医療の経験が可能です。技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。特に経験したい技術・技能がも対域としての対域として対域とます。 経験できる地域医 地域の保険にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 経験できる地域医 地域の関係がよりに必要な技術・技能が表すると関係が表すると対域を検験があることができます。		
日導責任者	認定基準	日本内科学会、各 Subspecialty 領域学会において数多くの演題を発表しております。
清準責任者	整備基準 24】	また、臨床研究、症例報告など多くの論文を発表しており、専攻医に積極的に関与してもらっており
【内科専攻医へのメッセージ】 第波大学は1977年に国立大学初のレジデント制度を定め、以来到達目標・修了認定・外部評価のある質の高い後期研修プログラムを行い、内科の各領域において数多くの専門医を育成してきた実績があります。 県内唯一の特定機能病院として県内および近隣の県外から希少な疾患が集約され、幅広い疾患の研修が可能です。また、13領域すべてに経験豊富な指導医・専門医を多数擁しており、専門性の高いアカデミックな考察に基づく診療が経験できます。 新内科専門医制度においては県内すべての内科専門研修プログラムの連携施設となり、専攻医を受け入れ、良医育成に貢献していきたいと思っております。 また、当院ではすべての Subspecialty 分野において専門研修を行うことが可能ですので、内科専門研修修了後の Subspecialty 専門研修や大学院進学に繋がる研修を行うことが出来ます。 ぜひ当院で一度研修してみてください、お持ちしております。 日本内科学会指導医99名、日本内科学会総合内科専門医77名、日本阿松器病学会消化器専門医16名、日本内科学会指導医99名、日本内科学会等門医8名、日本蔣根病学会専門医7名、日本の分泌学会専門医16名、日本科経学会専門医8名、日本呼吸器学会呼吸器専門医14名、日本血液学会血液専門医10名、日本神経学会専門医8名、日本呼吸器学会専門医3名、が水薬物療法専門医5名、日本アレルギー学会専門医8名、日本肝臓学会専門医7名、日本老年医学会専門医1名、他 外来・入院患者のべ人数 (1単位)80879人/年※2023年度実績 経験できる疾患群 全ての領域での経験が可能。希望に応じて経験したい分野の疾患が経験できる診療科をローテーションすることになります。 経験できる技術・技能・対策ができる影響ができる影響科をローテーションすることになります。 経験できる地域医療・発展性病院として高度先進医療の経験が可能です。技術・技能手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。特に経験したい技術・技能がも放施が、対策を経験することができます。特に経験したい技術・技能が対策を経験することができます。	4)学術活動の環境	ます。
第波大学は1977年に国立大学初のレジデント制度を定め、以来到達目標・修了認定・外部評価のある質の高い後期研修プログラムを行い、内科の各領域において数多くの専門医を育成してきた実績があります。 県内唯一の特定機能病院として県内および近隣の県外から希少な疾患が集約され、幅広い疾患の研修が可能です。また、13領域すべてに経験豊富な指導医・専門医を多数難しており、専門性の高いアカデミックな考察に基づく診療が経験できます。 新内科専門医制度においては県内すべての内科専門研修プログラムの連携施設となり、専攻医を受け入れ、良医育成に貢献していきたいと思っております。 また、当院ではすべての Subspecialty 多野において専門研修を行うことが日能ですので、内科専門研修修了後の Subspecialty 専門研修や大学院進学に繋がる研修を行うことが日来ます。ぜひ当院で一度研修してみてください。お待ちしております。 日本内科学会相導医99名、日本内科学会総合内科専門医77名、日本消化器病学会消化器専門医16名、日本内科学会植環器専門医17名、日本腎臓病学会専門医7名、日本呼吸器学会呼吸器専門医14名、日本血液学会血液専門医10名、日本腎臓病学会専門医8名、日本呼吸器学会呼吸器専門医14名、日本血液学会血液専門医6名、日本リウマチ学会専門医8名、日本歴験学会専門医7名、日本老年医学会専門医1名、他 外来・入院患者数 外来のべ人数 136414人/年 入院患者のべ人数(日単位)80879人/年※2023年度実績 経験できる疾患群 全ての領域での経験が可能。希望に応じて経験したい分野の疾患が経験できる診療科をローテーションすることになります。 経験できる技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。特に経験したい技術・技能がも地域医療・診療連携 地域包括ケアシステムの中で、急性期病院・特定機能病院からの病病連携、病診連携、在宅診療チームとの連携を経験することができます。	指導責任者	
ある質の高い後期研修プログラムを行い、内科の各領域において数多くの専門医を育成してきた実績があります。 県内唯一の特定機能病院として県内および近隣の県外から希少な疾患が集約され、幅広い疾患の研修が可能です。また、13領域すべてに経験豊富な指導医・専門医を多数擁しており、専門性の高いアカデミックな考察に基づく診療が経験できます。 新内科専門医制度においては県内すべての内科専門研修プログラムの連携施設となり、専攻医を受け入れ、良医育成に貢献していきたいと思っております。 また、当院ではすべての Subspecialty 分野において専門研修を行うことが可能ですので、内科専門研修修了後の Subspecialty 専門研修や大学院進学に繋がる研修を行うことが出来ます。 ぜひ当院で一度研修してみてください。お待ちしております。 日本内科学会指導医 99 名、日本内科学会総合内科専門医 77 名、日本消化器専門医 16 名、日本角環器学会循環器専門医 17 名、日本神経学会専門医 7 名、日本神経学会専門医 7 名、日本神経学会専門医 7 名、日本神経学会専門医 7 名、日本本様京寺等の手門医 7 名、日本市域京学会専門医 7 名、日本本年医学会専門医 5 名、日本アレルギー学会専門医 8 名、日本肝臓学会専門医 7 名、日本老年医学会専門医 1 名、他 外来・入院患者数 外来・入院患者数 外来のべ人数 136414 人/年 入院患者のべ人数 (日単位) 80879 人/年 ※2023 年度実績 経験できる疾患群 全ての領域での経験が可能。希望に応じて経験したい分野の疾患が経験できる診療科をローテーションすることになります。 経験できる技術・技能者、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。特に経験したい技術・技能がよれば希望に応じて対応します。 経験できる地域医 地域包括ケアシステムの中で、急性期病院・特定機能病院からの病病連携、病診連携、在宅診療チームとの連携を経験することができます。		
があります。 県内唯一の特定機能病院として県内および近隣の県外から希少な疾患が集約され、幅広い疾患の研修が可能です。また、13領域すべてに経験豊富な指導医・専門医を多数擁しており、専門性の高いアカデミックな考察に基づく診療が経験できます。 新内科専門医制度においては県内すべての内科専門研修を行うことが可能ですので、内科専門研修修了後のSubspecialty 専門研修を大学院進学に繋がる研修を行うことが出来ます。 せつ当院で一度研修してみてください。お待ちしております。 また、当院ではすべてのSubspecialty 専門研修を行うことが可能ですので、内科専門研修修了後のSubspecialty 専門研修や大学院進学に繋がる研修を行うことが出来ます。 せつ当院で一度研修してみてください。お待ちしております。 日本内科学会指導医 99 名、日本内科学会総合内科専門医 77 名、日本消化器病学会消化器専門医 16 名、日本内科学会指導医 99 名、日本内科学会総合内科専門医 77 名、日本消化器病学会専門医 14 名、日本施療器学会循環器専門医 10 名、日本神経学会専門医 8 名、日本蔣尿病学会専門医 7 名、日本内分泌学会専門医 6 名、日本リウマチ学会専門医 8 名、日本膨発会専門医 7 名、日本老年医学会専門医 5 名、日本リウマチ学会専門医 8 名、日本膨発会専門医 7 名、日本老年医学会専門医 1 名、他 外来・入院患者数 外来のべ人数 136414 人/年入院患者のべ人数 (日単位) 80879 人/年※2023 年度実績 経験できる疾患群 全ての領域での経験が可能。希望に応じて経験したい分野の疾患が経験できる診療科をローテーションすることになります。 経験できる技術・技能病院として高度先進医療の経験が可能です。技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能があれば希望に応じて対応します。 経験できる地域医療・学院の経験が可能です。技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能の計算を経験したい技術・技能があれば希望に応じて対応します。 経験できる地域医療に対している性期病院・特定機能病院からの病病連携、病診連携、在宅診療チームとの連携を経験することができます。		
県内唯一の特定機能病院として県内および近隣の県外から希少な疾患が集約され、幅広い疾患の研修が可能です。また、13領域すべてに経験豊富な指導医・専門医を多数擁しており、専門性の高いアカデミックな考察に基づく診療が経験できます。 新内科専門医制度においては県内すべての内科専門研修プログラムの連携施設となり、専攻医を受け入れ、良医育成に貢献していきたいと思っております。 また、当院ではすべての Subspecialty 分野において専門研修を行うことが可能ですので、内科専門研修修了後の Subspecialty 専門研修や大学院進学に繋がる研修を行うことが出来ます。 ぜひ当院で一度研修してみてください。お待ちしております。 日本内科学会指導医 99 名、日本内科学会総合内科専門医 77 名、日本消化器病学会消化器専門医 16 名、日本有環器学会循環器専門医 17 名、日本神経学会専門医 7 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 14 名、日本血液学会血液専門医 10 名、日本神経学会専門医 8 名、日本糖尿病学会専門医 7 名、日本内分泌学会専門医 5 名、日本ノレギー学会専門医 8 名、日本肝臓学会専門医 7 名、日本老年医学会専門医 1 名、他 外来・入院患者数 外来のべ人数 136414 人/年 入院患者のべ人数 (日単位) 80879 人/年 ※2023 年度実績 経験できる疾患群 全ての領域での経験が可能。希望に応じて経験したい分野の疾患が経験できる診療科をローテーションすることになります。 経験できる技術・ 技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。特に経験したい技術・技能があれば希望に応じて対応します。 経験できる地域医療・診療連携 地域包括ケアシステムの中で、急性期病院・特定機能病院からの病病連携、病診連携、在宅診療チームとの連携を経験することができます。		
が可能です。また、13領域すべてに経験豊富な指導医・専門医を多数擁しており、専門性の高いアカデミックな考察に基づく診療が経験できます。 新内科専門医制度においては県内すべての内科専門研修プログラムの連携施設となり、専攻医を受け入れ、良医育成に貢献していきたいと思っております。また、当院ではすべての Subspecialty 分野において専門研修を行うことが可能ですので、内科専門研修修了後の Subspecialty 専門研修や大学院進学に繋がる研修を行うことが出来ます。ぜひ当院で一度研修してみてください。お待ちしております。 日本内科学会指導医 99 名,日本内科学会総合内科専門医 77 名,日本消化器病学会消化器専門医 16 名,日本循環器学会循環器専門医 17 名,日本腎臓病学会専門医 7 名,日本呼吸器学会呼吸器専門医 14 名,日本施浚学会・通渡署・専門医 10 名,日本神経学会専門医 8 名,日本原学会専門医 7 名,日本内分泌学会専門医 6 名,日本アレルギー学会専門医 8 名,日本感染症学会専門医 7 名,日本来年医学会専門医 1 名,他 外来・入院患者数 外来のべ人数 136414 人/年入院患者のべ人数 (日単位) 80879 人/年 ※2023 年度実績 経験できる疾患群 全ての領域での経験が可能。希望に応じて経験したい分野の疾患が経験できる診療科をローテーションすることになります。 経験できる技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。特に経験したい技術・技能があれば希望に応じて対応します。		
カデミックな考察に基づく診療が経験できます。 新内科専門医制度においては県内すべての内科専門研修プログラムの連携施設となり、専攻医を受け入れ、良医育成に貢献していきたいと思っております。 また、当院ではすべての Subspecialty 分野において専門研修を行うことが可能ですので、内科専門研修修了後の Subspecialty 専門研修や大学院進学に繋がる研修を行うことが出来ます。 ぜひ当院で一度研修してみてください。お待ちしております。 日本内科学会指導医 99 名,日本内科学会総合内科専門医 77 名,日本消化器病学会消化器専門医 16 名,日本循環器学会循環器専門医 17 名,日本腎臓病学会専門医 7名,日本内の影学会専門医 7名,日本内分泌学会専門医 6名,日本リウマチ学会専門医 8名,日本感染症学会専門医 7名,日本内分泌学会専門医 6名,日本リウマチ学会専門医 8名,日本感染症学会専門医 7名,日本老年医学会専門医 13 名。がん薬物療法専門医 5名,日本アレルギー学会専門医 7名,日本肝臓学会専門医 7名,日本老年医学会専門医 1名,他 外来・入院患者数 外来のべ人数 136414人/年 人院患者のべ人数 (日単位) 80879人/年 ※2023年度実績 経験できる疾患群 全ての領域での経験が可能。希望に応じて経験したい分野の疾患が経験できる診療科をローテーションすることになります。 経験できる技術・ 特定機能病院として高度先進医療の経験が可能です。技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。特に経験したい技術・技能があれば希望に応じて対応します。 経験できる地域医療・診療連携 地域包括ケアシステムの中で、急性期病院・特定機能病院からの病病連携、病診連携、在宅診療チームとの連携を経験することができます。		
新内科専門医制度においては県内すべての内科専門研修プログラムの連携施設となり、専攻医を受け入れ、良医育成に貢献していきたいと思っております。また、当院ではすべての Subspecialty 分野において専門研修を行うことが可能ですので、内科専門研修修了後の Subspecialty 専門研修や大学院進学に繋がる研修を行うことが出来ます。ぜひ当院で一度研修してみてください。お待ちしております。 指導医数		
スれ、良医育成に貢献していきたいと思っております。また、当院ではすべての Subspecialty 分野において専門研修を行うことが可能ですので、内科専門研修修了後の Subspecialty 専門研修や大学院進学に繋がる研修を行うことが出来ます。ぜひ当院で一度研修してみてください。お待ちしております。 お導医数 日本内科学会指導医 99 名,日本内科学会総合内科専門医 77 名,日本消化器病学会消化器専門医 16 名,日本循環器学会循環器専門医 17 名,日本腎臓病学会専門医 7 名,日本呼吸器学会呼吸器専門医 14 名,日本施療学会直渡専門医 10 名,日本神経学会専門医 8 名,日本糖尿病学会専門医 7 名,日本内分泌学会専門医 6名,日本リウマチ学会専門医 8 名,日本所練学会専門医 7 名,日本内分泌学会専門医 5 名,日本アレルギー学会専門医 7 名,日本肝臓学会専門医 7 名,日本老年医学会専門医 1 名,他 外来・入院患者数 136414 人/年入院患者のべ人数 136414 人/年入院患者のべ人数 136414 人/年入院患者のべ人数 136414 人/年 後験できる疾患群 全ての領域での経験が可能。希望に応じて経験したい分野の疾患が経験できる診療科をローテーションすることになります。 経験できる技術・特定機能病院として高度先進医療の経験が可能です。技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を,実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。特に経験したい技術・技能があれば希望に応じて対応します。 ・ 地域包括ケアシステムの中で、急性期病院・特定機能病院からの病病連携、病診連携、在宅診療チームとの連携を経験することができます。		
研修修了後の Subspecialty 専門研修や大学院進学に繋がる研修を行うことが出来ます。 ぜひ当院で一度研修してみてください。お待ちしております。 指導医数		
### 世の当院で一度研修してみてください。お待ちしております。 ####################################		また、当院ではすべての Subspecialty 分野において専門研修を行うことが可能ですので、内科専門
指導医数		研修修了後の Subspecialty 専門研修や大学院進学に繋がる研修を行うことが出来ます。
常勤医) 名、日本循環器学会循環器専門医 17 名、日本腎臓病学会専門医 7 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 14 名、日本血液学会血液専門医 10 名、日本神経学会専門医 8 名、日本糖尿病学会専門医 7 名、日本内分泌学会専門医 6 名、日本リウマチ学会専門医 8 名、日本感染症学会専門医 3 名、がん薬物療法専門医 5 名、日本アレルギー学会専門医 7 名、日本肝臓学会専門医 7 名、日本老年医学会専門医 1 名、他 外来のべ人数 136414 人/年入院患者のべ人数 (日単位) 80879 人/年 ※2023 年度実績 全ての領域での経験が可能。希望に応じて経験したい分野の疾患が経験できる診療科をローテーションすることになります。 特定機能病院として高度先進医療の経験が可能です。技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。特に経験したい技術・技能があれば希望に応じて対応します。 地域包括ケアシステムの中で、急性期病院・特定機能病院からの病病連携、病診連携、在宅診療チームとの連携を経験することができます。	H-2Ve	
14名、日本血液学会血液専門医 10名、日本神経学会専門医 8名、日本糖尿病学会専門医 7名、日本内分泌学会専門医 6名、日本リウマチ学会専門医 8名、日本感染症学会専門医 3名、がん薬物療法専門医 5名、日本アレルギー学会専門医 7名、日本肝臓学会専門医 7名、日本老年医学会専門医 1名、他 外来・入院患者数		
日本内分泌学会専門医6名,日本リウマチ学会専門医8名,日本感染症学会専門医3名,がん薬物療法専門医5名,日本アレルギー学会専門医7名,日本肝臓学会専門医7名,日本老年医学会専門医1名,他 外来・入院患者数 外来のべ人数 136414人/年 入院患者のべ人数(日単位)80879人/年※2023年度実績 経験できる疾患群 全ての領域での経験が可能。希望に応じて経験したい分野の疾患が経験できる診療科をローテーションすることになります。 経験できる技術・ 技能を特定機能病院として高度先進医療の経験が可能です。技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。特に経験したい技術・技能があれば希望に応じて対応します。 経験できる地域医療・診療連携 地域包括ケアシステムの中で、急性期病院・特定機能病院からの病病連携、病診連携、在宅診療チームとの連携を経験することができます。	常勤医)	
物療法専門医 5 名,日本アレルギー学会専門医 7名,日本肝臓学会専門医 7名,日本老年医学会専門医1名,他 外来・入院患者数 外来のべ人数 136414 人/年 入院患者のべ人数 (日単位) 80879 人/年 ※2023 年度実績 経験できる疾患群 全ての領域での経験が可能。希望に応じて経験したい分野の疾患が経験できる診療科をローテーションすることになります。 経験できる技術・ 特定機能病院として高度先進医療の経験が可能です。技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を,実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。特に経験したい技術・技能があれば希望に応じて対応します。 経験できる地域医療・診療連携 地域包括ケアシステムの中で、急性期病院・特定機能病院からの病病連携、病診連携、在宅診療チームとの連携を経験することができます。		
学会専門医1名,他 外来・入院患者数 外来のべ人数 136414 人/年 入院患者のべ人数 (日単位) 80879 人/年 ※2023 年度実績 経験できる疾患群 全ての領域での経験が可能。希望に応じて経験したい分野の疾患が経験できる診療科をローテーションすることになります。 経験できる技術・ 技能 特定機能病院として高度先進医療の経験が可能です。技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を,実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。特に経験したい技術・技能があれば希望に応じて対応します。 経験できる地域医療・診療連携 地域包括ケアシステムの中で、急性期病院・特定機能病院からの病病連携、病診連携、在宅診療チームとの連携を経験することができます。		
外来・入院患者数		
入院患者のべ人数 (日単位) 80879 人/年 ※2023 年度実績 経験できる疾患群 全ての領域での経験が可能。希望に応じて経験したい分野の疾患が経験できる診療科をローテーションすることになります。 経験できる技術・ 特定機能病院として高度先進医療の経験が可能です。技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を,実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。特に経験したい技術・技能があれば希望に応じて対応します。 経験できる地域医療・診療連携 地域包括ケアシステムの中で、急性期病院・特定機能病院からの病病連携、病診連携、在宅診療チームとの連携を経験することができます。	外来・入院患者数	
経験できる疾患群 全ての領域での経験が可能。希望に応じて経験したい分野の疾患が経験できる診療科をローテーションすることになります。 経験できる技術・ 特定機能病院として高度先進医療の経験が可能です。技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。特に経験したい技術・技能があれば希望に応じて対応します。 経験できる地域医療・診療連携 地域包括ケアシステムの中で、急性期病院・特定機能病院からの病病連携、病診連携、在宅診療チームとの連携を経験することができます。		
	 経験できる疾患群	
経験できる技術・ 特定機能病院として高度先進医療の経験が可能です。技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な 技術・技能を,実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。特に経験したい技術・技 能があれば希望に応じて対応します。 地域包括ケアシステムの中で、急性期病院・特定機能病院からの病病連携、病診連携、在宅診療チームとの連携を経験することができます。	,	
技能 技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。特に経験したい技術・技能があれば希望に応じて対応します。 経験できる地域医療・診療連携 地域包括ケアシステムの中で、急性期病院・特定機能病院からの病病連携、病診連携、在宅診療チームとの連携を経験することができます。	経験できる技術・	
経験できる地域医 地域包括ケアシステムの中で、急性期病院・特定機能病院からの病病連携、病診連携、在宅診療チー などの連携を経験することができます。		
療・診療連携 ムとの連携を経験することができます。		能があれば希望に応じて対応します。
	経験できる地域医	地域句括ケアシステムの中で
今 <u>今</u> 初宁振驰 日末内科学 <u>今</u> 初宁 数 杏庄陀	療・診療連携	Legin Company of the
		ムとの連携を経験することができます。
内科系) 日本消化器病学会認定施設	学会認定施設	ムとの連携を経験することができます。 日本内科学会認定教育病院

- 日本肝臓学会認定施設
- 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設日本呼吸器学会認定施設
- 日本糖尿病学会認定教育施設
- 日本内分泌学会認定専門医研修施設
- 日本腎臓学会研修施設
- 日本血液学会認定血液研修施設
- 日本リウマチ学会教育施設
- 日本神経学会専門医制度認定教育施設
- 日本アレルギー学会認定教育施設
- 日本臨床腫瘍学会認定研修施設
- 日本がん治療認定医機構認定研修施設
- など。他にも多くの各学会の教育認定施設になっています。

認定基準	・ 卒後臨床研修評価機構認定病院です.
【整備基準 24】	・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります.
1) 専攻医の環境	・ 茨城県常勤医師として労務環境が保障されています.
	・メンタルストレスに適切に対処する部署(健康支援室)があります.
	・ハラスメント委員会が茨城県に整備されています.
	・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されて
	います.
	・ 近接して保育所があり、利用可能です.
認定基準	・指導医は36名在籍しています.
【整備基準 24】	・専門研修プログラム管理委員会 プログラム統括責任者(内科副病院長 総合内科専門医かつ指導医);専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図り
2) 専門研修プロ	「一切がドプログラム自座安員云にて、基幹施設、連携施設に設置されている切修安員云との連携を図り ます。
グラムの環境	・ 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修プログラム委員会と臨床研修センターを設置します.
	・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催 (2024年度実績 5 回) し, 専攻医に 受講を 義務付け, そのための時間的余裕を与えます.
	・研修施設群合同カンファレンスに専攻医の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催(2024 年度実績 6 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的 余裕を
	与えます。
	・ 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. (茨城県内科学会、笠間市医師会胸部疾患検討会、筑波大学感染症内科抄読会、茨城県感染症診療カンファレンスなど)
	カンファレンへなど) ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(基幹施設:2024 年度開催実績 1 回:受講者 5 名/2024
	年度県内開催実績7回)を義務付け、そのための時間的余裕を与えます.
	・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します.
	・特別連携施設の専門研修では、電話や茨城県立中央病院での面談・カンファレンスなどにより指導医が
37 A H W:	その施設での研修指導を行います. ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療していま
認定基準	- カリヤユノムに示り内科興政 13 分野のりら至分野で足吊的に専門研修が可能な延例数を診療していま - す (上記)
【整備基準 24】 3)診療経験の環	・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくとも 35 以上の疾患群)について研修できます.
境	・専門研修に必要な剖検(2024年度実績:内科系5体)を行っています.
認定基準	カリキ ラルフラナ内科領域 19 八野のされ 入八野で完造的に専用項格が可能が定例数を診療していま
【整備基準 24】	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療していま す (上記)
4) 学術活動の環	・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくとも 35 以上の疾患群)について研修できます.
境	・専門研修に必要な剖検(2024年度実績:内科系5体)を行っています.
指導責任者	(変更なし)
指導医数	内科指導医 36 名,日本内科学会総合内科専門医 28 名,日本専門医機構内科専門医 2名,
(常勤医)	日本内分泌学会専門医1名,日本消化器病学会消化器専門医9名,日本循環器学会循環器専門医6名,
	日本糖尿病学会専門医1名,日本腎臟病学会専門医4名,日本呼吸器学会呼吸器専門医4名,日本
	血液学会血液専門医5名, 日本リウマチ学会専門医2名,日本感染症学会専門医1名,日本神経学
从去 1 125 由北	会神経内科専門医1名,日本救急医学会救急科専門医1名 ほか サビス・パース・パース・パース・パース・パース・パース・パース・パース・パース・パー
外来・入院患者 数	内科延べ外来患者 78, 796 名 内科延べ入院患者 68, 576 名 (2024 年度)
経験できる疾患 群	(変更なし)
経験できる技 術・技能	(変更なし)
経験できる地域 医療・診療連携	(変更なし)
学会認定施設	日本専門医機構内科専門研修プログラム基幹病院
(内科系)	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
	日本消化器病学会認定施設
	日本呼吸器学会認定施設
	日本糖尿病学会認定教育施設
	日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設
	日本腎臓学会認定教育施設
	日本透析医学会専門医制度教育関連施設
	日本呼吸器内視鏡学会認定施設
	日本感染症学会研修施設認定
	日本血液学会血液研修施設 日本リウマチ学会認定教育施設
	日本神経内科学会准教育施設
	日本肝臓学会認定施設
	日本臨床腫瘍学会認定研修施設
	日本がん治療認定医機構認定研修施設
L	- TO THE MAINTENANCE PARTICIPATION ASSAULTS

ほか			
	ほか		

到点甘淮	初期陈广开校制在甘松利开校长宁广心不干
認定基準	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 現物に必要な関連点となった。 現場がたいます。
【整備基準 24】	·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
1) 専攻医の環境	·国立病院機構の期間医師として労務環境が保障されています。
	·メンタルストレスに適切に対処する部署(管理課職員担当)があります.
	・ハラスメント委員会が安全衛生会議に整備されています.
	·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室
	が整備されています.
	敷地内に院内保育所があり、利用可能です.
認定基準	· 指導医が 16 名在籍しています (下記).
【整備基準 24】	· 内科専門研修委員会を設置して,施設内で研修する専攻医の研修を管理し,基幹施設に設
2) 専門研修プログラムの	置されるプログラム管理委員会と連携を図ります.
環境	・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2024年度実績 医療倫理 1 回
	(複数回開催),医療安全 2 回 (各複数回開催),感染対策 2 回 (各複数回開催))し,
	専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	時間的余裕を与えます。
	・JMECC(内科救急・ICLS 講習会)を院内で年1回開催し未受講の専攻医に優先して受講機
	会を提供しています。
	云を歴めしているす。 ·CPC を定期的に開催(2024 年度実績 11 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時
	「いい を足効的に開催(2024 年度美積 IT 回)し、専攻医に支講を義務的17、そのための時 間を提供します。
	地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間を提供します。
371 - 1-1 MF	間を提供します。
認定基準	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、呼吸器、血
【整備基準 24】	液、神経、アレルギー、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診
3) 診療経験の環境	療しています.
認定基準	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表 (2022 年度実績 6
【整備基準 24】	演題, 2023 年度実績 4 演題, 2024 年度実績 4 演題)を行っています.
4) 学術活動の環境	
指導責任者	吉田近思
	【内科専攻医へのメッセージ】
	当院は茨城県央地域の急性期病院であり、第3次救急救命センター、茨城県ドクターへ
	リ基地病院、基幹災害拠点病院、がん診療連携拠点病院の指定を受けています。豊富な症
	例数により幅広い疾患を経験することが可能です。当院に専門医がいない診療科について
	は各専攻医の意向を尊重しつつ連携施設での研修を提供します。総合的な診療能力を培
Ha Mir wa Wi	い、自信を持って次のステップに進むことのできる内科専攻医の育成を行います.
指導医数	日本内科学会指導医 16名,日本内科学会総合内科専門医 14名、日本消化器病学
(常勤医)	会消化器専門医 3 名,日本肝臓学会専門医 3 名,日本循環器学会循環器専門医 3
	名,日本腎臟病学会専門医 1名,日本呼吸器学会専門医 3名,日本血液学会血液専
	門医 4名,日本アレルギー学会専門医3名,日本神経学会神経内科専門医4名,
以	JMECC インストラクター2名
外来・入院 患者数 経験できる疾患群	外来患者(内科)5,284名(1ヶ月平均) 新入院患者(内科)186名(1ヶ月平均) まわめて経れな事ないとして、死体で無くな事業で日末)になる。12.65は、70.55単数の定例
	きわめて稀な疾患を除いて、 <u>研修手帳(疾患群項目表)</u> にある 13 領域, 70 疾患群の症例 を幅広く経験オスニトができます
経験できる技術・技能	を幅広く経験することができます. 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を,実際の症例に基づきながら
	<u>技術・技能評価手帳</u> にある内科専門医に必要な技術・技能を、美院の症例に基づさなから 幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診	曜広、経練りることができまり。 ドクターへリを含む3次救急医療、一般急性期医療、がん診療、原子力を含む災害医療、
整映できる地域医療・診療連携	下グターペリを含むる状数忌医療、一般忌性期医療、かん診療、原子刀を含む灰青医療、 難病などの分野を中心にして病診連携、病病連携を経験することができます。
凉烂%	

学会認定施設	日本内科学会認定医制度教育病院
(内科系)	日本消化器病学会専門医認定施設
	日本肝臓学会認定施設
	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
	日本呼吸器学会認定施設
	日本血液学会認定血液研修施設
	日本アレルギー学会認定教育施設
	日本神経学会教育病院
	日本救急医学会専門医指定施設 など

	I - the set of a start () of a labella for start () the day of a labella of a lab	
認定基準	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。	
整備基準 24】	・ 研修に必要な図書室とインターネット環境が	
1) 専攻医の環境	・ 常勤医師として労務環境が保障されています	
	メンタルストレスに適切に対処する部署(多	そ全衛生委員会)があります。
	・ ハラスメントに対して安全衛生委員会が対応	いたでいます。
	・ 女性専攻医が安心して勤務できる環境を整え	ています(更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整
	備されています。)	
	・ 隣接して保育所があり、利用可能です。	
認定基準	 指導医が 10 名在籍しています。 	
整備基準 24】		、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設
2) 専門研修プログ	に設置されるプログラム管理委員会と連携を図り	
ラムの環境		- 5 7 。 用的に開催(2024 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全
	5 回、感染対策 2 回) し、専攻医に受講を義務	
		実績2回)を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付
		大順も四)を足別的に参画し、守久区に文碑を義務り
	け、そのための時間的余裕を与えます。	1 東北屋に必嫌と美数はは、ファとはの吐明的人数
		し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕
	を与えます。	+
		責10回)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、
	そのための時間的余裕を与えます。	
認定基準		合内科,消化器,循環器,腎臓,呼吸器,血液の分野で
整備基準 24】	定常的に専門研修が可能な症例数を診療している	(す。)
3)診療経験の環境		
認定基準	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で記	↑3 演題以上の学会発表(2024 年度実績 3 演題)を予
整備基準 24】	定しています。	
4) 学術活動の環境		
指導責任者	千葉 義郎	
[内科専攻医へのメッセージ】	
-		急性期病院であり、当院を基幹施設とする内科専門研修
		医の育成を行います.また当院が連携施設となるプロ
	グラムにも参加しています。	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,
指導医数		門医更新 1 回以上)、日本内科学会総合内科専門医 10
常勤医)		肝臓学会専門医4名、日本消化器内視鏡学会専門医6
113 35/12/27		臟病学会専門医 3 名、日本血液学会血液専門医 1 名、日
	本リウマチ学会リウマチ専門医1名	
JMECC 開催	2024 年度実績 0回	
外来・入院患者数	2024 中皮失績 0 回 2024 年度実績 外来患者 のべ実数 78,968 名、	7 応患者 のべ宝粉 45 492 タ
		大阪忠有
経験できる疾患群		
		†処できるように総合的な内科を構築し経験可能として
Commercial and a second second	います。	
経験できる技術・		か血管内治療の基本的な手技。消化器領域では、腹部エ
技能	コー、上部・下部内視鏡、画像診断の基本。腎臓内科では、シャント造設、ショルドンカテーテルの基	
		[域のエッセンシャルな手技を身につけることができ
	る。	
経験できる地域医		堕携を診療の基本としている。そのため、連携のノウハ
療・診療連携	ウを学ぶことができる。また、高齢者については	は介護施設との連携を行っており、医療介護の仕組みの
	実際を学ぶことができる。	
学会認定施設	日本内科学会教育関連病院	日本循環器学会認定研修病院
(内科系	日本心血管インターベンション治療学会研施設	不整脈専門医研修施設
	日本高血圧学会専門医認定施設	日本病理学会認定病院
	日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設	日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設
	日本消化器病学会認定研修施設	日本消化器内視鏡学会認定研修施設
	日本肝臓学会専門医研修施設	日本臨床腫瘍学会認定研修施設
	日本癌治療学会認定研修施設	日本緩和医療学会認定研修施設
	日本アフェレシス学会認定施設	IMPELLA補助循環用ポンプカテーテル実施施設
	日本腎蔵学会研修施設	日本透析医学会専門医制度認定施設
	TO THE THE PROPERTY OF THE PRO	THE TENTE THE TENTE THE TENTE TO THE TENTE TO THE TENTE
	<u> </u>	

5. 茨城西南医療センター病院

37 d ++ 3#	den Hill life of Till the Hull of the A. Till Till the Hill of the Till Till the Hell of the Till the Hell of the Till the Till Till the Hell of the Till the Till Till the Till the Till Till the Till the Till the Till Till the Till the Till Till Till Till the Till Till Till Till Till Till Till Til
認定基準	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
整備基準 24】	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
1) 専攻医の環境	・茨城県厚生連常勤医師として労務環境が保障されています。
	│・メンタルストレスに適切に対処する部署(医療相談室職員担当)があります。
	・ハラスメント対応部署が病院庶務課・厚生連本部に整備されています。
	・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準	・ 指導医が 4 名在籍しています。
整備基準 24】	・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置され
2) 専門研修プログ	るプログラム管理委員会と連携を図ります。
ラムの環境	- 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付けそのための時間
7 - 117 5/150	的余裕を与えます。
	・研修施設群合同カンファレンス(2017年度予定)を定期的に参画し,専攻医に受講を義務付け,そ
	のための時間的余裕を与えます。
	・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
	・ER レクチャー、Medical up to date (医学講演会)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、
知点#%	そのための時間的余裕を与えます。
認定基準	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、救急の分野
整備基準 24】	で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。内分泌・代謝、血液、神経、アレルギー、膠
3) 診療経験の環境	原病、感染症の分野でも相当数の症例数を経験できます。
認定基準	日本内科学会講演会あるいは同地方会,日本循環器学会地方会,日本呼吸器学会地方会,日本腎臓学
整備基準 24】	会地方会等での学会発表を予定しています。
4) 学術活動の環境	
指導責任者	飯塚 正
	【内科専攻医へのメッセージ】
	当院は茨城県西地区の地域基幹病院で、がん診療連携拠点病院で救命救急センターを併設しており。
	高度医療,救急医療を診療の中心にしています。救急医療,高度医療を中心にして急性期・慢性期の
	多種多様な患者を多数診療しています。その多様な患者を対象にした,一般・救急外来や入院診療を
	通して内科の基礎的診療および全身管理のスキルを学んでいただきたい。喘息,市中肺炎,気胸,う
	っ血性心不全,急性冠症候群,急性腎不全,低血糖,熱中症,中毒など都市部の病院では経験しにく
	い急性期症例を経験できるので,経験症例の多様性を増すことに寄与できると思います。また,当初
	より循環器内科・呼吸器内科・腎臓内科を志望している専攻医に対しては、それぞれの専門研修に向
	けた研修内容も用意しています。
上 指導医数	日本内科学会指導医 4 名,日本内科学会総合内科専門医 2 名,日本循環器学会循環器専門医 2
常勤医)	
外来・入院患者数	石, 日本自願初子云寺]
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く
WEA - 1 - 11 /h-	経験することができます。
経験できる技術・	一般内科外来,専門外来(循環器内科,呼吸器内科,腎臓内科),内科的全身管理,循環器内科:心
技能	臓カテーテル検査、心臓超音波検査、運動負荷検査、インターベンション治療等、呼吸器内科:気管
	挿管,胸腔穿刺,トロッカー挿入,気管支鏡等,腎臓内科:腎生検,バスキュラーアクセスの作製
	(短期・長期透析用カテーテル挿入,内シャント設置術),腹膜透析用カテーテル挿入等
経験できる地域医	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験でき
療・診療連携	ます。
学会認定施設	日本内科学会認定医制度教育関連病院
内科系)	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
	日本呼吸器学会認定施設
	日本腎臓学会研修施設
	日本心血管インターベンション学会認定研修関連施設
	日本透析医学会教育関連施設
	PTIMENTE I AMEDICATION

認定基準	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
整備基準 24】	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
1) 専攻医の環境	・国立大学法人島根大学常勤医師(病院診療職員)として労務環境が保障されています。
	・メンタルストレスに適切に対処する部署(総務課職員担当)があります。
	・ハラスメント委員会が整備されています。
	・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備され
	ています。
	・病院敷地内に院内保育施設(うさぎ保育所)、病児・病後児保育室及び学童一時保育があり、利用可
	能です。
認定基準	・指導医が 名在籍しています。(下記)
整備基準 24】	・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置される
2) 専門研修プログ	プログラム管理委員会と連携を図ります。
ラムの環境	・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2014 年度実績 医療倫理 2 回(複数回開
	(展別) (保護) (保護) (保護) (保護) (保護) (保護) (保護) (保
	け、そのための時間的余裕を与えます。
	・研修施設群合同カンファレンス(2017年度予定)を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、その
	ための時間的余裕を与えます。
	・ CPC を定期的に開催し (2015 年度実績 3 回) 、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を
	- CPC を定期的に開催し (2015 年度美積 5 回) 、等及医に支講を義務的り、そのための時間的未裕を 与えます。
	- サんまり。 - 地域参加型のカンファレンス(2015 年度実積 12 回)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、
却点世迷	そのための時間的余裕を与えます。
認定基準	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、腎臓内科、内分
整備基準 24】	泌内科、代謝内科、血液内科、腫瘍内科及び神経内科の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療
3) 診療経験の環境	しています。
認定基準	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表(2014 年度実績 24 演
整備基準 24】	題)を予定しています。
4) 学術活動の環境	
指導責任者	【内科専攻医へのメッセージ】
	当院は、特定機能病院として高度急性期医療、がん医療の推進、再生医療センターの設置により再生
	医療の充実を図っています。急性期医療の要となる救急医療につきましては、ER 型救急医療を実施しし
	ていますが、2015 年全国に先駆けて Acute Care Surgery 講座を設置し、2016 年 4 月から高度外傷
	センターが稼働を開始し、外傷救急医療も拡充しています。
	内科診療科においても高度医療の提供、地域医療の最後の砦機能の維持・推進、救急医療の充実、災
	害医療への対応、優れた医療人の養成を通じて島根県の地域医療に継続的に貢献することを目標として
	います。内科専門医としての基本的臨床能力獲得後はさらに高度な総合内科の Generality を獲得する
	場合や内科領域 Subspecialty 専門医への道を歩む場合を想定して、複数のコース別に研修を行い、内
	科専門医を育成します。
指導医数	日本内科学会指導医 7 名、日本内科学会総合内科指導医 9 名、日本内科学会総合内科専門医 18 名、
常勤医)	日本消化器病学会指導医 4 名、日本消化器病学会専門医 11 名、日本循環器学会専門医 4 名、日本呼
,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	吸器学会専門医 5 名、内分泌代謝科(内科)専門医 7 名、日本糖尿病学会専門医 8 名、日本神経内科
	学会専門医 8 名、日本リウマチ学会専門医 4 名、日本消化器内視鏡学会指導医 7 名、日本消化器内視
	鏡学会専門医 10 名、日本肝臓学会専門医 5 名、ほか
外来・入院 患者数	外来者数 1152 名 (1 ヶ月平均) 入院患者数 1439 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験
温めている人心神	さわめて帰る決心をあいて、明彦子殿(決心肝気自我)にある 13 関域、70 決心肝の症例を幅広く経験 することができます。
経験できる技術・	することがくさよう。 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験す
技能	12州・12批計画子帳にめる内科専門医に必要な技術・12批を、美族の証例に基づさながら幅広く経験9 ることができます。
経験できる地域医	ることができます。 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できま
療・診療連携	了。 □大力科学会到中医制度教育中院
学会認定施設	日本内科学会認定医制度教育病院
内科系)	日本消化器病学会教育関連施設
	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
	日本呼吸器学会認定施設
	日本血液学会認定血液研修施設
	日本リウマチ学会教育施設
	日本透析医学会教育関連施設
	日本アレルギー学会認定教育施設
	日本臨床腫瘍学会認定研修施設
	日本消化器内視鏡学会指導施設
	日本がん治療認定医機構認定研修施設
	日本高血圧学会専門医認定施設など

認定基準	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です.
【整備基準 24】	·研修に必要な図書室とインターネット環境があります.
1) 専攻医の環境	・獨協医科大学埼玉医療センターレジデントとして労務環境が保障されています.
	・メンタルストレスに適切に対処する部署 (健康管理センター) があります.
	・ハラスメント委員会が獨協医科大学に整備されています.
	・女性専攻医が安心して勤務できるように、シャワー室、当直室が整備されています.
37 ++ W	・病院近隣に職員用保育所があり、利用可能です.
認定基準	・集中治療専門医が2名在籍しています(下記).
【整備基準24】	・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプロ
2) 専門研修プロ	グラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2017年度実績医療倫理5回、医療安全5
グラムの環境	・医療価度・医療女生・歴泉対泉神音云を足期的に開催(2017年及美績医療価度も回、医療女生も回、感染対策3回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます.
	-
	対 10 地域 併 1 同 パン ノ
	・CPC を定期的に開催(2017 年度実績 6 症例)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与え
	ます。
認定基準	カリキュラムに示す救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
【整備基準 24】	カッキュノムに小り放忘の力封で足出的に守口が1624号配な症的数で砂原していより.
3)診療経験の環境	
認定基準	症例から得たクリニカルクエスチョンに対して大学図書館のネットワークなどを用いて文献的知見を得るこ
【整備基準 24】	とができます.また集中治療領域に関する最新の論文をレビューする抄読会を定期的に開催しています.
4) 学術活動の環境	さらに貴重な症例の経験や臨床データの解析結果などを集中治療医学会や救急医学会で発表することができ
4) 于四百到少然死	ます.
	長谷川隆一
指導責任者	【内科専攻医へのメッセージ】 集中治療科は重症患者の病態に合わせた標準的な治療やケアを提供しています. 重症患者管理というと気後
11 符貝 11 日	来中石源やは単症患者の病患に合わせた標準的な石源でクノを延展しています。単症患者管理というと気後 れしてしまうかもしれませんが、集中治療科は「臓器横断診療科」とも呼ばれ、重症患者の総合診療的役割
	を担っており、一般的な身体所見や検査所見に加え、集学的モニタリングや呼吸・循環管理といった支持療
	法を中心に診療にあたっています。その知識や技術は必ず他の分野でも役に立ちますし、重症患者への苦手
	意識も克服できると思います.
指導医数(常勤医)	集中治療専門医 2 名・麻酔専門医 1 名・救急専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 1,736 名 (1 日平均) 入院患者数 672.9 名 (1 日平均) ※2017 年度実績
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある救急領域、12疾患群の症例を経験することが
	できます。
経験できる技術・	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験するこ
技能	収納・収能計画于帳にある内科等円医に必要な収納・収能を、美原の症例に基づさながり幅広く経験することができます.
経験できる地域医	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます.
療・診療連携	
※ A ヨウムボ /ナガズ)	* 0 ** / \\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\
学会認定施設(内科系)	JSH血液研修施設証 日本内分泌学会認定教育施設認定証
	日本糖尿病学会施設教育施設証日本甲状腺学会認定専門医施設認定証日本甲状腺学会認定専門医施設認定証
	日本肥満学会認定肥満症専門病院認定証 日本神経学会認定証 日本神経学会認定証
	一般般社団法人日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設認定証 日本呼吸器内視鏡学会 一般社団法人日本リウマチ学会教育施設
	日本呼吸器学会 日本気管食道科学会
	日本消化管学会胃腸科指導施設証 日本消化器内視鏡学会
	一般社団法人日本肝臓学会認定施設日本消化器病学会認定施設
	社団法人日本肝臓学会認定施設 栄養管理・NST実施施設
	日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設認定書
	日本栄養療法推進協議会 NST 稼働施設認定書
	日本静脈経腸栄養学会栄養サポートチーム専門療法士認定規則
	社団法人日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設
	循環器専門医研修施設証
	日本不整脈心電学会認定不正脈専門医研修施設証
	日本心血管インターベンション治療学会研修施設
	日本心血管インターベンション治療学会研修施設
	社団法人日本内科学会
	社団法人日本腎臓学会研修施設
	など
	i

9. 八戸市民病院

認定基準	・初期臨床研修制度帰還形演習指定病院です.
【整備基準 24】	・敷地内に院内保育園があり、利用可能です.
1) 専攻医の環境	・女性専攻医が安心して勤務できるように休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されて
1) 守久区の永先	います.
認定基準	・ 指導医が 1 名以上在籍している。
整備基準 24】	・臨床研修委員会を設置しており、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置される
2) 専門研修プログ	プログラム管理委員会と連携を図ることができる。
ラムの環境	・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催している。
ノニジ系元	・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余
	裕を与える予定である。
	・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。
認定基準	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療
整備基準 24】	カッキュノムにホッド。 している。
3) 診療経験の環境	
認定基準	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしている。
整備基準 24】	日本的行子云碑便云めるいは同地方云に中国で同「「便越外上の子云光衣をしている。
金属金年 24 4) 学術活動の環境	
指導責任者	呼吸器科部長 安ヶ平 英夫
指導医数	日本内科学会指導医 12 名,日本内科学会総合内科専門医 7 名,日本消化器病学会消化器専門医 5
常勤医)	名,日本循環器学会循環器専門医 3 名,日本糖尿病学会専門医 3 名,日本呼吸器学会呼吸器専門医 4
111 200 111	名,日本神経学会神経内科専門医2名,日本消化器内視鏡学会専門医6名,ほか
外来・入院 患者数	1 日平均外来患者 995 名 (平成 29 年度) 1 日平均入院患者 524 名 (平成 29 年度)
経験できる疾患群	年間 20 例以上の剖検数があります。「研修手帳(疾患群項目表)」にある 13 領域,70 疾患群の症
	例を幅広く経験することができます。ドクターカー、ドクターヘリ運用による 超急性期疾患を経験で
	きます。救急判断、急変判断を指導医の下、豊富に経験できます。
経験できる技術・	内科医必須の手技は豊富に経験できます。他にも救急専門医が ER、集中治療で経験する手技は全て経
技能	験できます。
経験できる地域医	いわゆる日本型救命救急センターがあり、1 次から 3 次、プレホスピタルから ER、集中治療、転院
療・診療連携	まで行います。50 万人医療圏で中心的役割を担っており、地域に根ざした医療、病診、病病連携など
	も経験できます。
学会認定施設	日本内科学会認定医制度教育病院
内科系)	日本糖尿病学会認定教育施設
	日本消化器内視鏡学会認定指導施設
	日本神経学会認定医制度における教育関連施設
	日本内科学会教育病院
	日本消化器病学会認定施設
	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
	内分泌代謝科認定教育施設
	日本呼吸器内視鏡学会関連施設
	日本神経学会専門医准育施設
	日本糖尿病学会認定教育施設
	日本呼吸器科学会関連施設
	日本内分泌学会認定教育施設
	日本がん治療認定医機構認定研修施設
	日本静脈経腸栄養学会(NST)専門療法士取得に関わる実地修練施設
	日本脳卒中学会専門医認定研修教育施設
	日本緩和医療学会認定研修施設
	救急科専門医指定施設
	DMAT 指定病院 など

認定基準 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 1) 専攻医の環境 ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある. ・東京都非常勤医員として労務環境が保障されている. ・メンタルストレスに適切に対処する部署(庶務課職員及び医局担当医師)がある. ・ハラスメント委員会が東京都庁に整備されている. ・敷地内に院内保育所があり、利用可能である. ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている. 認定基準 ・指導医有資格者は47名在籍している(2025年3月) ・内科専門研修プログラム管理委員会(内科系副院長、プログラム統括責任者(内科系診療科部長1名) 2) 専門研修プロ ガ ・ 副プログラム統括責任者 (に内科系診療科部医長各 2 名) 基幹施設内科専門研修委員長(内科系診療科部医 ラムの環境 長1 名)(ともに総合内科専門医かつ指導医)) ;内科専門研修プログラム委員会で、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図る. ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修管理委員会を設置してい る. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2024年度実績5回)し、専攻医に受講を義務付け、そのため の時間的余裕を与える. ・研修施設群合同カンファレンス(および東京医師アカデミー主催の合同カンファレンス)を定期的に主催し、専攻 医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える. ・CPC を定期的に開催((2024 年度実績 10 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える. ・多摩地区の連携施設勤務医も参加する地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付 け、そのための時間的余裕を与える. ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(2024年度開催実 績 1回:受講者 20名)を義務付け、そのための 時間的余裕を与える。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修管理委員会が対応する. ・特別連携施設島嶼診療所の専門研修では、電話やメールでの面談・Web 会議システムなどにより指導医がそ の施設での研修指導を行う. 認定基準 ・カリキュラムに示す内科領域 13 全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している(上記) 3)診療経験の環 ・その結果70疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても35以上の疾患群)について研修できる(上記) 境 ・専門研修に必要な剖検(2019 年度 31 体、2020 年度実績 29 体、2021 年度 25 体、2023 年度 31 体、2024 年度 30 体)を行っている. 認定基準 ・臨床研究に必要な図書室などを整備している. |4) 学術活動の環|・倫理委員会を設置し、定期的に開催(2023 年度実績 12 回) している. 境 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催(2023年度実績12回)している. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしている(2017年度実績9演題). 指導責任者 佐藤文紀【内科専攻医へのメッセージ】東京都多摩地区の中心的な急性期第三次医療機関です。卓越した指導医 陣のもと、内科の全領域で豊富な症例を経験できます。東京 ER(一次〜三次救急)での救急医療研修(必修) と合わせて、総合診療基盤と知識技能を有した内科専門医を目指してください。新制度では、全国の連携施設や 東京都島嶼等の特別違携施設での研修を通じて、僻地を含めた地域医療の重要性と問題点を学び、また貢献でき ます。お待ちしています! 指導医数 日本内科学会総合内科専門医 50 名、日本消化器病学会消化器病専門医 20 名、 日本肝臓学会肝臓専門医 6 名、 (常勤) 日本循環器学会循環器専門医 9 名、 日本糖尿病学会糖尿病専門医 7 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 9 名、 日本腎臓学会専門医 3名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 11 名、 日本血液学会血液専門医 5 名、日本神経 学会神経内科専門医 1名、 日本アレルギー学会アレルギー専門医 4名、日本リウマチ学会リウマチ専門医 12 名、日本感染症学会感染症専門医 3名、日本救急医学会救急科専門医 20 名、 日本プライマリ・ケア連合学会指 導医 6名ほか 外来・入院患者 外来患者 449, 354 名 数(前年度) 入院患者 234, 713 名 延数 経験できる疾患|きわめて稀な疾患を除いて,研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域,70 疾患群の症例を幅広く経験 群 することができます 経験できる技 内科新専門医制度カリキュラムに記載された全技術と技能 術・技能 経験できる地域 ・当センターは地域支援病院である. 医療・診療連携 ・特別連携施設である島嶼および奥多摩の診療所で短期(1wから2w)および長期(3か月)の派遣診療 制度があり過疎の僻地での医療を研修できる. ・地域医師会との医療連携懇話会を定期的に開催し専攻医の参加も推奨している.

学会認定関係 (内	日本内科学会認定医制度教育病院
科系)	日本消化器病学会認定施設
	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
	日本呼吸器学会認定施設
	日本血液学会認定血液研修施設
	日本腎臓学会研修施設
	日本リウマチ学会教育施設
	日本アレルギー学会アレルギー専門医教育施設
	日本透析医学会専門医制度認定施設
	日本救急医学会救急科専門医指定施設
	日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設
	日本臨床腫瘍学会認定研修施設
	日本消化器内視鏡学会認定指導施設
	日本がん治療認定医機構認定研修施設
	日本プライマリ・ケア連合学会認定医研修施設
	日本内分泌代謝科学会認定教育施設
	日本糖尿病学会認定教育施設
	日本感染症学会研修施設
	日本肝臓学会認定施設など

11. 総合病院土浦協同病院

認定基準	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
整備基準 24】	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
1) 専攻医の環境	・常勤医師として労務環境が保障されています。
	・メンタルストレスに適切に対処する部署(安全衛生委員会)があります。
	・ハラスメント対応部署が病院庶務課・厚生連本部に整備されています。
	・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室・更衣室・仮眠室・シャワー室・当直室が整備され
	ています。
	・病院敷地に隣接する附属保育所(ひまわり)があり、利用可能です。
認定基準	・ 指導医は 30 名在籍しています (下記参照)。
整備基準 24】	・ 内科専門研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されてい
金매宏平 24 2) 専門研修プログ	るプログラム管理委員会との連携を図ります。
ラムの環境	
ノムの尿児	・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間
	的余裕を与えます。
	・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕
	を与えます。
	・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
	・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を
	与えます。
	・日本内科学会認定内科救急・ICLS 講習会 (通称 JMECC) を年 1 回開催しています。
認定基準	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野 (少なくても 10 分野以上) で定常的に専門研修が
整備基準 24】	可な症例数を診療しています。
3) 診療経験の環境	・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 35 以上の疾患群)について研修できます。
	・専門研修に必要な剖検(2017 年度実績 11 体)を行っています。
認定基準	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。
整備基準 24】	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
4) 学術活動の環境	・倫理委員会を設置し、年 6 回定期的に開催しています。
指導責任者	副院長兼内科部長:角田 恒和
	【内科専攻医へのメッセージ】
	当院は、豊富な症例を多彩な指導医・専門医による指導体制で研修をサポートしています。内科各専門
	領域のすべての専門医を擁し、内科のみでなく、救急医療・地域医療にも積極的にアプローチをしてい
	ます。
	250 名以上の部長以下、科長、スタッフ、専攻医、研修医までが一つの医局に机を持ち、横断的な情報
	収集、加療計画立案、他科コンサルトまで、所属内科専門領域に限らない研修が広くかつ専門的に可能
	です。是非、先生方の内科医の将来像を育てるお手伝いをさせてください。
指導医数	日本内科学会指導医 30 名,日本内科学会総合内科専門医 12 名,日本消化器病学会消化器専門医 5 名,
常勤医)	日本循環器学会循環器専門医 7 名,日本糖尿病学会専門医 2 名,日本内分泌学会内分泌代謝専門医 2
	名,日本腎臟学会腎臟専門医2名,日本呼吸器学会呼吸器専門医2名,日本血液学会血液専門医2
	名,日本リウマチ学会専門医1名,日本神経学会神経内科専門医1名,他
外来・入院患者数	総入院患者数 延べ 234,478 名,総外来患者数 延べ 524,468 名 (2017 年度実績)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて,研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域 70 疾患を幅広く経験すること
	ができます。
経験できる技術・	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験す
技能	ることができます。
経験できる地域医	急性期医療だけでなく, 超高齢化社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験でき
療・診療連携	ます。
学会認定施設	日本内科学会認定医制度教育病院
内科系)	日本消化器病学会専門医認定施設
1 171707	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
	日本呼吸器学会認定施設
	日本透析医学会専門医制度認定施設
	日本腎臓学会研修施設
	日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設
	日本血液学会認定血液研修施設
	日本アレルギー学会認定教育施設
	日本神経学会専門医制度教育施設
	日本救急医学会専門医指定施設 など

認定基準 ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. 【整備基準 23】 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります. 1) 専攻医の環境 ・ 日立製作所所員として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署(臨床心理士が担当)があります. ・ ハラスメント委員会が院内に整備されています. ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備され ています ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。 認定基準 ・指導医は10名在籍しています(下記). 【整備基準 23】 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携 2)専門研修プロ を図ります. グラムの環境 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修管理委員会を設置しています。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2023年度実績5回)し, 専攻医に受講を義務 付け、そのための時間的余裕を与えます. 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕 を与えます. · CPC を定期的に開催 (2023 年度実績 6 回) し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与 ・ 地域参加型のカンファレンス定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与 えます. その他、キャンサボード(週1回),内科カンファレンス(週2回)を定期的に開催し、専攻医に受講 を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(2023 年度開催実績1回:受講者6名・JMECC ディレク ター在籍)を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・ 日本専門医機構による施設実地調査に教育研修センターと内科専門研修管理委員会が対応します. 特別連携施設の専門研修では、電話や週1回の日立製作所ひたちなか総合病院での面談・カンファレ ンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います. 認定基準 ・カリキュラムに示す内科領域13領域のうち9領域の専門医が少なくとも1名以上在籍しており、定常 【整備基準 23】 的に専門研修が可能な症例数を診療しています. 3)診療経験の環境 ・70疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます. ・専門研修に必要な剖検(2023年実績8体,2022年9体)を行っています. 認定基準 ・ 臨床研究に必要な図書室,写真室などを整備しています. 【整備基準 23】 ・日立製作所病院統括本部合同で倫理委員会を設置し、定期的に開催(2022年度実績6回)しています 4) 学術活動の環境 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催(2023年度実績12回)しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表(2023年度実績11演題)をし ています. 指導責任者 山内孝義 【内科専攻医へのメッセージ】 日立製作所ひたちなか総合病院は、茨城県常陸太田・ひたちなか医療圏、唯一の総合病院であり、地域 医療支援病院・がん診療連携拠点病院として地域医療を支えながら多様な症例を経験できます.また、 様々な手技も数多く学べます. 初期研修医も多く在籍し活気があります. 常陸太田・ひたちなか医療圏, 近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設と協力して内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある 地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します.また、症例を掘り下げて検討し、臨床研究、CPC など を通じてリサーチマインドを要請します 主担当医として、入院から退院〈初診・入院~退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じ て、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります. 指導医数 日本内科学会指導医10名・認定医14名,日本内科学会総合内科専門医13名, (常勤医) 日本プライマリ・ケア連合学会指導医1名・認定医1名 日本リウマチ学会専門医1名、日本呼吸器学会指導医1名・専門医2名、 日本循環器学会専門医5名, 日本心血管インターベンション治療学会専門医1名・認定医1名, 日本神経学会専門医2名,日本認知症学会専門医2名 日本消化器病学会専門医3名,日本消化器内視鏡学会専門医3名,日本肝臓学会専門医2名, 日本腎臟学会専門医2名,日本透析医学会専門医2名,

日本糖尿病学会専門医1名,日本内分泌学会専門医1名,

	臨床研修指導医養成講習会修了 16 名(内科)
外来・入院患者数	外来患者 12,289 名 (1 ヶ月平均延べ) 入院患者 7,905 名 (1 ヶ月平均延べ)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて,研修手帳(疾患群項目表)にある13領域,70疾患群の症例を幅広く経験す
	ることができます.
経験できる技術・技	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験す
能	ることができます.
経験できる地域	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できま
医療・診療連携	す.
学会認定施設	日本内科学会認定教育病院
	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
	日本呼吸器学会認定施設
	日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設
	日本消化器病学会関連施設
	日本消化器学会関連施設
	日本消化器内視鏡学会専門医制度指導連携施設
	日本神経学会準教育施設
	日本認知症学会教育施設
	日本リウマチ学会教育施設
	日本透析医学会教育関連施設
	日本心血管インターベンション治療学会
	日本プライマリ・ケア連合学会認定研修施設など

13. 虎の門病院分院

認定基準	・各スタッフの指導の下、腎臓、リウマチ膠原病疾患の診療を受け持って頂きます。血液透析ベッド
整備基準 24】	は 56 床、腹膜透析症例約 20 名。シャント手術や PTA、腎移植も行われており幅広い経験が可能な環境
1) 専攻医の環境	です。また当院独自の診療として多発性嚢胞腎、嚢胞肝症例に対する TAE や難治性嚢胞感染に対す
17 4 7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	るドレナージ療法を経験できます。リウマチ領域では関節エコーや MRI による画像評価や、腎機能障
	害を伴う膠原病症例の対応が経験できます。腎生検症例も豊富で多数の症例経験が可能です。
認定基準	・地域の腎臓、リウマチ膠原病疾患の診療における中核的な医療機関の果たす役割、高度な医療、難
整備基準 24】	治例・複数の診療科が関与する症例・稀少疾患を中心とした診療経験を研修します。週一回症例検討
2) 専門研修プログラム	会と、論文の抄読会が開催されており活発な議論がなされております。症例検討会には地域で開業さ
の環境	れている先生方にもご参加いただいております。月1回虎の門病院本院にて、病理部と合同で腎生
	検カンファが行われ腎生検症例の提示と議論が行われております。また積極的に臨床研究や症例報告
	などの学術活動を行って頂き、その素養を身につけていただくことが可能です。虎の門病院は腎臓専
	門医、リウマチ専門医,透析専門医の教育認定施設であり、それらの専門医の取得も可能です。地域
	包括病棟の患者さんに対しては MSW、理学療法士など他職種と連携し退院支援に向けて方針策定にも
	参加していただけます。
認定基準	透析 bed 56 床。腹膜透析症例約 20 名。TAE 時は自分達で血管造影行っております。関節エコーも
整備基準 24】	自分たちで行っております。
3) 診療経験の環境	
認定基準	週一回例検討会と、論文の抄読会。月 1 回腎生検カンファ。積極的に外部の研究会での参加、発表
整備基準 24】	を行っております。
4) 学術活動の環境	
指導責任者	虎の門病院分院 腎センター、リウマチ膠原病科 部長 乳原 善文
指導医数 (常勤医)	6 名
外来・入院 患者数	入院患者数 70-90 名。透析 bed 56 床。日勤、準夜の 2 クール施行。腹膜透析症例約 20 名。
経験できる疾患群	腎疾患一般、透析を含めた体外循環技術、特殊治療一般、多発性嚢胞腎、リウマチ膠原病。腎移植症
	例
経験できる技術・技能	腎生検、TAE、嚢胞ドレナージ、血液、腹膜透析管理、関節エコー
経験できる地域医	地域で開業されている先生方を交えた症例検討会。地域包括病棟における退院支援への方針策定への
療・診療連携	参与。
学会認定施設	内科専門医教育関連病院
内科系)	腎臓専門医認定教育施設
	リウマチ専門医認定教育施設
	透析専門医教育関連施設

14. 沖縄協同病院

認定基準	・研修に必要な図書室とインターネット環境がある.
【整備基準 23】	・沖縄医療生活協同組合非常勤医師として労務環境が保障されている.
1) 専攻医の環境	・メンタルストレスに適切に対処する部署がある
	・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されている.
	・沖縄医療生活協同組合の保育所が病院近隣あり、利用可能である.
認定基準	・指導医が5名在籍しています(下記).
【整備基準 23】	・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプ
2) 専門研修プログラ	ログラム管理委員会と連携を図ります.
ムの環境	・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2016年度実績医療倫理1回,医療安全2回(各
	複数回開催),感染対策2回(各複数回開催))し,専攻医に受講を義務付け,そのための時間的余裕
	を与えます.
	・研修施設群合同カンファレンス(2018年度予定)を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのた
	めの時間的余裕を与えます.
	·CPC を定期的に開催(2016 年度実績 5 回)し,専攻医に受講を義務付け,そのための時間的余裕を与え
	ます.
認定基準【整備基準	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち,総合内科,消化器,循環器,腎臟,呼吸器および感染症の
23/31]	分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
3)診療経験の環境	
認定基準	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表(2014年度実績2演題)をして
【整備基準 23】	います
4) 学術活動の環境	
指導責任者	【内科専攻医へのメッセージ】病棟診療は総合内科と循環器内科、呼吸器科、急性血液浄化療法科のグ
	ループとで分担しながら担当をしています. 適宜疾患グループ間のローテーションを組み経験の幅を広げ
	ます. 外来診療は紹介を受け受診される患者さん以外にウォークインで受診される外来(初診外来)と退
	院後や定期的に外来観察を行う予約外来とを担当していただき、急性期疾患の初療や慢性疾患の導入な
	ども経験していただく予定です
資格取得者数	日本内科学会指導医7名,日本内科学会総合内科専門医5名日本消化器病学会消化器専門医1名,日本
(常勤医)	循環器学会循環器専門医4名,日本呼吸器学会呼吸器専門医1名、日本糖尿病学会糖尿病専門医1名,
	日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者名(1 ヶ月平均 475.2名)入院患者名(1 ヶ月平均 276.7名)
経験できる疾患群	頻度の少ない疾患も含めると 70 領域、67 疾患群程度の症例を診療する機会があります. 白血病やリンパ
	腫といった血液疾患、膠原病、特殊な変性性神経筋疾患、内分泌疾患は症例が少ないです
経験できる技術・技	技術・機能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験す
能	ることができます. 希望により消化管内視鏡、エコー検査を集中的に学ぶ機会を設けます.
経験できる	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した、地域に根ざした医療、病診・病院連携などを経験でき
地域医療・診療連携	ます.
学会認定施設	日本内科学会認定医制度教育病院,日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
(内科系)	

認定基準	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
【整備基準 23】	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
1) 専攻医の環境	・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。
	(健康サポートセンター)
	・ハラスメント委員会が整備されています。
	・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備され
	ています。
和力甘淮	・近隣に保育所があり、利用可能です。
認定基準	・指導医 20 名在籍しています(下記)
【整備基準 23】 2) 専門研修プロ	・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(副院長)、プロ グラム管理者(副院長)にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図りま
2) 専門研修プロ グラムの環境	クノム官理句 (副阮文) にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修安員去との連携を図ります。
ノノムの承境	・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2024年実績6回)し、専攻医に受講を義務付
	け、そのための時間的余裕を与えます。
	・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕
	を与えます。 (2024 年度実績 1 回)
	・CPC を定期的に開催 (2024 年度実績 10 回) し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与
	2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2
	・地域参加型のカンファレンス (基幹施設: ·NC (中頭病院と地域のクリニック) 連携セミナー、消防合
	同カンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
	・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(基幹
	施設:2024年度実績1回:受講者5名)
	・日本専門医機構による施設実地調査に臨床教育開発研修センターが対応します。
	・特別連携施設の専門研修では、定期的に電話やインターネットでの面談・カンファレンスなどにより
	指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療していま
【整備基準 23】	j.
3)診療経験の環境	・70疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。
37 ct +++ >#+	・専門研修に必要な剖検を行っています。(2024年度実績9体)
認定基準	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。
【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・倫理委員会を設置し定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に開催しています。
4) 子州佔 期 (7) 泉境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表を予定しています。 (2024年
	度実績3演題)
L 指導責任者	新里 敬【内科専攻医へのメッセージ】
11 子貝 1.7	中頭病院は、中部医療圏の中心的な急性期病院であり、沖縄県内、離島及び県外(東京都、茨城県、大
	阪府、京都府、福岡県)の20医療機関と連携施設、特別連携施設を組んでいます。
	特徴としては、都市部、その近郊、へき地、離島を網羅しており、地域の実情に合わせた多様な研修を
	積むことが可能です。
	主担当医として、外来、入院から退院まで、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、
	社会的背景・療養環境調整をも包括する
	全人的医療を学び経験し、専門内科医への成長に繋がる研修ができるもと確信しております。
指導医数	内科学会指導医 20 名 、総合内科専門医 22 名、内科専門医 8 名、
(常勤医)	呼吸器専門医6名、循環器専門医3名、糖尿病学会専門医3名
	消化器専門医9名、消化器内視鏡専門医9名
	腎臓病学会専門医 5 名、透析専門医 3 名、血液専門医 3 名、
	神経内科専門医1名、感染症専門医3名、肝臓専門医5名
为士 3 125 中书	集中治療専門医2名、救急科専門医10名
外来・入院患者	内科 延べ外来患者数 15、482 名/月 15 17 17 17 17 17 17 17
数 奴除でもで広事	内科 延べ入院患者数5、505名/月
経験できる疾患	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験す
群のなった。	ることができます。
経験できる技	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
術・技能	ることができます。
経験できる地域	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できませ
医療・診療連携	す。

学会認定施設	日本内科学会内科専門研修基幹施設
(内科系)	日本呼吸器学会認定施設
	日本循環器学会循環器専門医研修施設
	日本腎臓学会認定教育施設
	日本糖尿病学会教育関連施設
	日本消化器病学会認定施設
	日本消化器内視鏡学会指導施設
	日本肝臓学会認定施設
	日本高血圧学会高血圧研修施設
	日本感染症学会研修施設
	日本透析医学会認定施設
	救急科専門研修連携施設
	日本血液学会認定専門研修認定施設
	日本集中治療医学会専門研修施設
	日本がん治療認定医機構認定研修施設
	日本臨床栄養代謝学会 NST 稼働施設、
	日本心血管インターベンション治療学会研修施設
	日本病院総合診療医学会認定施設

認定基準 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 【整備基準 23】 ・研修に必要な図書室とインターネットの環境があります. ・メンタルストレスに適切に対処する部署(職員サポートセンター)があります。 1) 専攻医の環境 ・ハラスメント委員会(人事審査委員会)が整備されています. ・事業所内保育所があり、病児保育を含め利用可能です. (浦添総合病院より徒歩5分) ・女性医師が安心して勤務できるように、女性更衣室、女性専用シャワー室、当直室、を設置しています. 認定基準 ・日本内科学会指導医は16名在籍しています(下記指導医数参照). 【整備基準 23】 ·内科専門研修プログラム管理委員会にて,基幹施設,連携施設に設置されている研修委員会との連携を図 2) 専門研修プロ ります. グラムの環境 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修プログラム管理委員会と教育研究室を 設置しています. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し,専攻医に受講を義務付け,そのための時間的余 裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与 えます ·CPC を定期的に開催(2024年度実績7回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えま ・地域参加型のカンファレンス[救急症例検討会(隔月),地域医療連携講演会(不定期),他]を開催し,専攻 医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ・日本専門医機構による施設実地調査に教育研究室が対応します。 ・特別連携施設の専門研修では、電話やインターネットを使用して指導医がその施設での研修指導を行いま す. 認定基準 ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくても 10 分野以上)で定常的に専門研修が可能 【整備基準 23】 な症例数を診療しています. 3)診療経験の環境 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 35 以上の疾患群)について研修できます. ·専門研修に必要な剖検(2024年度6体)を行っています. ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています. 認定基準 【整備基準 23】 ・臨床倫理委員会を設置し,開催しています. 4) 学術活動の環境 ・臨床研究支援センターを設置し、定期的に治験審査委員会(月1回)を開催 しています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています. 指導責任者 仲吉朝邦 【内科専攻医へのメッセージ】 浦添総合病院のある浦添市は、"沖縄の空の玄関口"那覇空港から北へ約25分に位置しており、研修生活 に最適な環境(住宅・交通の便)が整っております. 近隣に立地する "群星(むりぶし)沖縄臨床研修センター主催の講演会(定期的に国内外の有名講師を招 聘)や近隣ホテルで開催される講演会へ車で十数分走らせるだけで参加できるため、良い研修に必要不可欠 な情報へのアクセスも抜群です. もちろん、院内での研修内容も充実しております. 当院は浦添市・那覇市・宜野湾市を中心に地域の中核病 |院としての役割を担っているため、多くの症例を経験でき、初期研修で学んだ内科専門知識を深めることは もとより、内科専攻医に必要な13領域70疾患群の症例を十分に経験できるものとなっております. また、当プログラムの大きな特長は豊富な急性期疾患を経験できるということです.沖縄県内3つの救命救 急センターのうちの1つを有し、トップクラスの救急車搬送患者数を誇ります. 病院前診療にも力を入れており、沖縄県の補助事業であるドクターヘリや消防本部からの要請で交通事故等 の現場へ駆けつけるドクターカー研修も可能です. 一方、連携施設では、離島研修や高齢者医療、在宅医療を経験できる体制を整えております. これらをバランス良く経験することで、今後の内科医としての礎を築くことにつながるでしょう. 専攻医の皆さんが"主役"です."主役"にとって良い研修が何なのかを常に考え、実践することを私たち はお約束します. 指導医数 日本内科学会指導医 16 名, 日本内科学会総合内科専門医 13 名 (常勤医) 日本消化器病学会指導医 2 名, 専門医 5 名 日本肝臓学会指導医 1 名, 専門医 3 名 日本消化器内視鏡学会指導医 3 名, 専門医 3 名 日本循環器学会専門医 5 名, 日本糖尿病学会指導医 3 名, 専門医 3 名 日本腎臓病学会指導医 1 名, 専門医 2 名 日本呼吸器学会指導医 1 名, 専門医 1 名 21 日本感染症学会専門医 1 名, 日本透析医学会指導医 1 名, 専門医 2 名

日本救急医学会救急科専門医 12 名, ほか

外来・入院患者数	総外来患者数(実数): 96, 185
	総入院患者数(実数): 13, 208
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて,研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域,70 疾患群の症例を経験することが
	できます. 一部の血液疾患、膠原病疾患、内分泌疾患、感染症分野は連携病院での研修で十分履修可能です.
経験できる技	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験するこ
術・技能	とができます.
経験できる地域	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます.
医療・診療連携	
学会認定施設	日本内科学会認定医制度教育病院
(内科系)	日本病院総合診療医学会認定施設
	日本呼吸器学会認定施設
	日本呼吸器内視鏡学会認定施設
	日本禁煙学会教育認定施設
	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
	日本心血管インターベンション治療学会研修施設
	日本不整脈学会·日本心電学会認定不整脈専門医研修施設
	日本消化器病学会認定指導施設
	日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設
	日本肝臓学会認定施設
	日本胆道学会認定指導施設
	日本大腸肛門病学会認定施設
	日本がん治療認定医機構認定施設
	日本腎臓学会認定教育施設
	日本糖尿病学会認定教育施設

17. 社会医療法人友愛会 友愛医療センター

認定基準 ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. 【整備基準23】 ・研修に必要な図書室とインターネットの環境があります. 1) 専攻医の環境 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(安全衛生委員会)があります. ハラスメント委員会が整備されています。 ・事業所内保育所があり、利用可能です. (友愛医療センターより車で10分) ・女性医師が安心して勤務できるように、女性休憩室、女性更衣室、女性専用シャワー室、当 直室、を設置しています. · J-OSLER 指導医は 25 名在籍しています. 認定基準 【整備基準 23】 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会 2) 専門研修プログラム との連携を図ります. ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と診療部支援課を の環境 設置しています. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのた めの時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンス(2023年度実績1回)を定期的に開催し、専攻医に受講を義 務付け、そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催 (2023 年度実績 5 回) し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的 余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンス(救急症例検討会(隔月)、地域医療連携講演会(不定期)、他)を 開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(2023 年度開催実績 1 回:受講者 6 名)を義務 付け、そのための時間的余裕を与えます. ·日本専門医機構による施設実地調査に診療部支援課が対応します. ・特別連携施設(久米島病院)の専門研修では、電話やインターネットを使用して指導医がそ の施設での研修指導を行います. 認定基準 ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野(少なくても11分野以上)で定常的に専 【整備基準 門研修が可能な症例数を診療しています. 23/31 ・専門医の常勤がいない血液疾患は救急病院であることから少なからず経験することが出来ま 3)診療経験の環境 すが、不十分な症例については連携施設で経験することが出来ますし、血液内科非常勤専門医 の指導を受けることが可能です. ・神経内科医の常勤医はいませんが、救急病院ですので脳血管障害は十分経験することが出来 ますし、外来診療の神経内科非常勤専門医の指導を受けることが可能です.また、連携施設で 経験することも出来ます. ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます. ·専門研修に必要な剖検(2023年度6体)を行っています. 認定基準 ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています. 【整備基準23】 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています. ・臨床研究支援センターを設置し、定期的に治験審査委員会(月1回)を開催しています. 4) 学術活動の環境 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表(2019年度実績5演 題)をしています. 指導責任者 加藤 功大 【内科専攻医へのメッセージ】 本プログラムは、臨床研修病院群「プロジェクト群星沖縄」(以下、群星沖縄)の基幹病院で あり沖縄県南部医療圏の中心的な急性期病院である社会医療法人友愛会友愛医療センターを基 幹施設として提供されます.研究機関との連携で琉球大学病院、聖マリアンナ医科大学附属病 院、長崎大学病院、佐賀大学医学部附属病院、これまでも交流実績のある都市部の中核病院と して名古屋第二赤十字病院、倉敷中央病院、飯塚病院、熊本済生会病院、多摩南部地域病院、 水戸協同病院、 佐世保市総合医療センター、兵庫県立姫路循環器病センター、同じ「群星沖縄」の施設であ る中頭病院と浦添総合病院、ハートライフ病院、沖縄協同病院、沖縄病院、県立北部病院、豊 見城中央病院、県立宮古病院、特別連携施設である久米島病院とで固く連携しています。総合 的な内科専門研修(総合内科コース)および subspecialty 専門研修(専門科コース)を選択し、 実力のある内科専門医の育成とキャリア形成を行います. 日本内科学会総合内科専門医21名、 指導医数 (常勤医) 日本消化器病学会消化器指導医4名・専門医7名、 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡指導医3名·専門医7名、 日本肝臓学会専門医3名、指導医1名 日本循環器学会循環器専門医7名、 日本糖尿病学会指導医1名·専門医4名、 日本腎臟病学会指導医3名·專門医7名、 日本透析医学会専門医 6 名·指導医 2 名 日本呼吸器学会呼吸器指導医3名·専門医3名、 日本アレルギー学会専門医(内科)2名・指導医1名 日本リウマチ学会指導医1名・専門医2名、

	日本内分泌会内分泌代謝(内科)専門医4名、
	日本救急医学会救急科専門医3名、ほか
外来・入院患者数	新患外来患者 191,742 名(1 ヶ月平均 15,979 名)
	入院患者 122, 953 名(1 ヶ月平均 10, 246 名)
経験できる疾患群	当院は都市型第一線の急性期病院であり、きわめて稀な疾患を除いて,研修手帳(疾患群項目
	表)にある 13 領域,70 疾患群の症例を経験することができます.血液疾患、一部の神経疾
	患、感染症分野は連携病院での研修で十分履修可能です.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広
	く経験することができます.
経験できる地域医療・	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携、緩和医
診療連携	療、療養型医療、離島・僻地の医療なども経験できます.
学会認定施設	日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設
(内科系)	日本リウマチ学会教育施設
	日本透析医学界専門医制度認定施設
	日本腎臓学会研修施設
	日本糖尿病学会認定教育施設
	日本心血管インターベンション治療学会研修施設
	日本呼吸器学会認定施設
	日本消化器病学会専門医制度認定施設
	日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設
	日本アレルギー学会準教育研修施設

	-
認定基準	・院内にはインターネット環境が整備され、医療文献等データベース(UpToDate をはじめとした複数
【整備基準 23】	サービスあり)が使用可能です。図書室も24時間使用可能です。
1) 専攻医の環境	・常勤産業医も委員に含む衛生委員会によりメンタルヘルスや労働環境が常に適正化されていま
	す。また各種ハラスメント対策も講じられています。
	・女性専攻医が安心して勤務可能な休憩室、更衣室、仮眠室、当直室などが完備しています.
認定基準	24 時間保育所が完備されています. ・指導医は 11 名在籍しています.
	・研修委員会が設置され院内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム
【壁偏基単 23 2) 専門研修プログラムの	管理委員会と連携を図ります。
	・医療安全、感染対策、医療倫理講習会を定期的に開催し受講する義務があります。また受講のた
環境	めに時間的余裕を与えています.
	・CPC は年複数回開催され、専攻医は出席が義務化されており、そのための時間的余裕が与えられま
	す。
	地域参加型カンファレンスを参画し、専攻医は出席が義務化されており、そのための時間的余裕が 与えられます.
認定基準	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち,全分野(少なくても7分野以上)で定常的に専門研修が
【整備基準 23/31】	可能な症例数を診療しています. 専門研修に必要な剖検(2022 年度 7 件, 2023 年度 9 件, 2024 年度 4
3)診療経験の環境	(4) を行っています.
認定基準	日本内科学会講演会あるいは同地方会において年複数回学会発表を行っています.
【整備基準 23】	倫理委員会を設置し、定期的に開催(年2回)しています。
4) 学術活動の環境	
指導責任者	小向 大輔
10 分分 12 0	
	【内科専攻医へのメッセージ】
	現在内科系診療科は腎臓内科、循環器内科、消化器内科の3科が中心で構成されています。腎臓内の3科が中心で構成されています。腎臓内の3科が中心で構成されています。腎臓内の3科が中心で構成されています。腎臓内の3科が中心で構成されています。腎臓内の3科が中心で構成されています。腎臓内の3科が中心で構成されています。
	科は透析導入数が年70名前後と多く川崎地区の腎不全地域医療を支えています。腹膜透析導入数も
	県下屈指です。また循環器内科は従来から積極的に行なわれてきた PCI, アブレーション治療に加
	え、最近はTAVI、経力テーテル左心耳閉鎖術の施行数も増加しています。消化器内科も内視鏡のス
	キルが高く,内視鏡検査は年 15,000 件以上,内視鏡治療は 2,000 件以上行われています. そして
	「断らない医療」の名のもと、当院は救急関連の症例が豊富です。以上、皆さんの期待に沿える充
114 224 214	実した研修が可能だと私たちは信じています。
指導医数	日本内科学会指導医名 10 名,日本内科学会総合内科専門医 10 名,日本沙米/4/四本代码 20 本 7 四 5 名
(常勤医)	日本消化器病学会消化器専門医6名,日本消化器内視鏡学会専門医5名
	日本肝臓病学会専門医1名、 日本循環器学会循環器専門医8名,日本腎臓学会腎臓専門医4名,
	日本感染症学会専門医・指導医1名、日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医1名、
	日本救急医学会救急科専門医3名
外来・入院患者数	外来患者 2,251 名 (1 カ月平均)
2019 年度実績	入院患者 1,031 名 (1 カ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて,研修手帳にある 13 領域,70 疾患群の症例を経験することができます.特
ALOC C DOCEM	に循環器,消化器,腎臓,救急においては専門医の指導のもと非常に多くの症例を経験することが可能
	रंग.
上 経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を,実際の症例に基づきながら幅広く経験
IIX MXG 37 WEEK	することができます。
	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験でき
経験できる地域医療・診	ます. 特に循環器, 消化器. 腎臓. 救急においては高度な急性期医療を経験し, 地域での病診・病病連携
療連携	の中核となっています.
学会認定施設	日本内科学会認定医制度教育関連施設
(内科系)	日本消化器病学会専門医制度認定施設
(1)行示)	日本消化管学会胃腸科指導施設
	日本消化器內視鏡学会専門医制度指導施設
	日本カプセル内視鏡学会認定指導施設
	日本がん治療認定医機構認定研修施設
	日本大腸肛門病学会認定施設
	日本胆道学会認定指導医制度指導施設
	日本腎臟学会專門医制度認定施設 ²⁵
	日本透析医学会認定施設
	日本脳卒中学会認定研修教育病院

日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 植込み型除細動器/ペーシングによる心不全治療認定施設 日本不整脈学会認定不整脈専門医研修施設 IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設 経カテーテル的大動脈弁置換術指導施設 日本脈管学会認定研修指定施設 部救急認定医・教育医制度認定施設 左心耳閉鎖システム実施施設 日本超音波医学会専門医制度研修施設

日本循環器学会経皮的僧帽弁接合不全修復システム実施施設

認定基準 ·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. 【整備基準 24】 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. 1) 専攻医の環境 ·岡山大学病院レジデントとして労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署(保健管理センター)があります. ・ハラスメント委員会が整備されています. 休憩室, 更衣室, 仮眠室, 当直室等が整備されています. 敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です. ・指導医が在籍しています (下記). 認定基準 ·内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプロ 【整備基準 24】 2) 専門研修プロググラム管理委員会と連携を図ります. ラムの環境 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し,専攻医に受講を義務付け,そのための時間的余 裕を与えます. ·CPC を定期的に開催し,専攻医に受講を義務付け,そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し,専攻医に受講を義務付け,そのための時間的余裕を与え ます. カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうちすべて(総合内科,消化器,循環器,内分泌,代謝,腎臟,呼 認定基準 【整備基準 24】 |吸器,血液,神経,アレルギー,膠原病,感染症および救急の分野)で定常的に専門研修が可能な症例数 3) 診療経験の環境を診療しています. 認定基準 |日本内科学会講演会、同地方会、その他国内外の内科系学会で多数の学会発表をしています. 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境 指導責任者 指導責任者:和田 淳 【内科専攻医へのメッセージ】 岡山大学病院の基本理念は「高度な医療をやさしく提供し、優れた医療人を育てます。」です。本院は高 度先進医療の推進、遺伝子細胞治療などの先端的治療の開発において、全国でもっとも進んだ施設である とともに、中国四国地方中心に約 250 の関連病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な 活動も行っています。当院の内科研修では、ジェネラルからエキスパートまで質の高い内科医を育成しま |す。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、リ サーチマインドを持って医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とします。 日本内科学会指導医 128 名 指導医数 日本内科学会専門医 59 名 (常勤医) 日本消化器内視鏡学会専門医 45 名 日本消化器内視鏡学会指導医 12 名 日本内科学会総合内科専門医 69 名 日本循環器学会循環器専門医 35 名 日本内分泌学会専門医 11 名 日本腎臓学会専門医 19 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 15 名 日本血液学会血液専門医 14 名 日本神経学会神経内科専門医8名 日本アレルギー学会専門医(内科)4名 日本リウマチ学会専門医 15 名 日本糖尿病学会専門医 17 名 ほか 外来・入院 患者数 外来患者 43,060.9 名(1 ヶ月平均延数) 2024年4月~2025年3月 入院患者 17,371.3 名(1 ヶ月平均延数) 2024年4月~2025年3月 経験できる疾患群 研修手帳(疾患群項目表)にある13領域,70疾患群の症例を経験することができます. 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験する 経験できる技術・ 技能 ことができます。研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。 経験できる地域医 急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応 b た地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できま 療・診療連携

学会認定施設 (内科系)

- 日本内科学会認定医制度教育病院
- 日本リウマチ学会専門医制度教育施設
- 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設
- 日本消化器病学会専門医制度認定施設
- 日本肝臓学会肝臓専門医制度認定施設
- 日本老年医学会老年病専門医認定施設
- 日本血液学会血液研修施設
- 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
- 日本呼吸器学会呼吸器専門医認定施設
- 日本腎臟学会専門医制度研修施設
- 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設
- 日本アレルギー学会認定教育施設
- 日本透析医学会専門医制度認定施設
- 日本糖尿病学会専門医制度認定教育施設
- 日本神経学会専門医制度教育施設
- 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設
- 日本病態栄養学会栄養管理·NST 実施施設
- 日本臨床腫瘍学会認定研修施設
- 日本甲状腺学会認定専門医施設
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医制度認定研修施設
- 日本高血圧学会認定高血圧症専門医制度認定施設
- 日本脳卒中学会脳卒中専門医制度認定研修教育病院
- 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設
- 日本肥満学会専門医制度認定肥満症専門病院
- 日本不整脈学会・日本心電学会合同不整脈専門医研修施設
- 日本胆道学会認定施設
- 日本動脈硬化学会専門医制度認定教育病院
- 日本病院総合診療医学会認定施設
- 日本東洋医学会指定研修施設
- 日本消化管学会胃腸科指導施設

など

認定基準

【整備基準 24】

1) 専攻医の環境

専攻医の勤務時間,休暇,当直,給与等の勤務条件に関しては,専攻医の就業環境を整えることを重視し ます.

専攻医の心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会で管理します.特に 精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行います.専攻医は採用時に上 記の労働環境、労働安全、勤務条件の説明を受けることとなります.

1) 専攻医用の机, 椅子

専攻医が個人で使用できる専用の机と椅子, ロッカーを用意しています. 専攻医控室には, 共用で使用 できるインターネットに接続可能なパソコン,カルテ端末,コピー機,ファクシミリ,シュレッダー,冷 蔵庫、電子レンジなどを設置しています.

2) インターネット環境

病院内のあらゆる場所で無線LANが利用可能な環境を用意しています。インターネットを通じて、研 修に必要な文献検索・手技動画サイトの「PUB MED」,「医中誌 Web」,「DynaMed」,「CareNet CME」,「今日の 診療」,「メディカルオンライン」,「Up To Date」,「臨床手技データベース」などが利用できます.

3)図書室

隣接の医学部キャンパスに附属図書館医学分館があります.また,外来・研究棟 10 階に病院共同図書室が あり、24時間利用可能です.

4) メンタルヘルス・ハラスメント相談

メンタルストレスやハラスメントに対処する部署として,院内にこころとからだの健康相談室を設置し, 専任の臨床心理士が常駐しています.

5) メディカル・ワークライフバランスセンター

|長崎大学病院で働く医療人および長崎県内の医療機関に勤務する医師が、ワークライフバランスを実現さ せ, 働きがいをもって医療を提供できる環境の整備を整備するための部署を設置しています.

6) シミュレーションセンター

中央診療棟4階にあるシミュレーションセンターには、各種シミュレーターを設置しています. 事前に |申し込んでおけば,24 時間,365 日利用することができます.

7) 女性専攻医への配慮

院内には女性医師専用の休憩室,更衣室,シャワー室,当直室が整備されています.

8) 院内保育所

病院隣接地に院内保育所があり、利用可能です.

認定基準

【整備基準 24】

ムの環境

(1) 臨床現場での学習

- |1)入院診療:内科専攻医は,担当指導医もしくは Subspecialty 上級医の指導の下,主担当医として入 2) 専門研修プログラ 院症例の診療を通じて、内科専門医を目指して常に研鑽します。主担当医として、入院から退院〈初診・ 入院~退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に,診断・治療の流れを通じて,一人一人の患者の全身状態 の把握,社会的背景への配慮・療養環境調整などを包括する全人的医療を実践します.
 - 2) 外来診療:内科外来(初診を含む) や Subspecialty 診療科外来(初診を含む)を行い, 原則週 1 回, 1 年以上担当医として経験を積みます.
 - 3) 救急・当直診療: 内科当直や救急対応を通して、内科領域の救急診療、病棟急変対応などの経験を積 みます.
 - 4) カンファレンス・回診: 定期的(毎週1回程度)に開催する各診療科あるいは関連診療科合同カンフ ァレンス・回診を通じて、担当症例の病態や診断過程の理解を深め、多面的な見方や最新の情報を得ま す.また,プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高め,議論を通じて,担当以外 |の症例についても見識を深めます.
 - |5)学生・初期研修医に対する指導:病棟や外来で医学生・初期研修医を指導します.後輩を指導すること は、自分の知識を整理・確認することにつながることから、当プログラムでは、専攻医の重要な取組と位 置づけています.
 - (2) 臨床現場を離れた学習
 - ①内科領域の救急対応,②最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解,③標準的な医療安全や感染対策 に関する事項,④医療倫理,医療安全,感染対策,臨床研究や利益相反に関する事項などについて,以下 の方法で研鑽します.
 - 1) 症例検討会・CPC:診断・治療困難例,臨床研究症例等について専攻医が報告し,指導医からのフ ィードバック,質疑・議論を行います.また,CPCでは,死亡・剖検例,難病・稀少症例の病理診断を 検討します.
 - 2)診療・手技セミナー:診療技術や治療、必要とされる知識に関する実践的なセミナーを受講し、研鑽 を積みます.
 - |3)抄読会・研究報告会:受持症例や最新の知見等に関する論文概要を口頭説明し,意見交換を行いま す. 研究報告会では講座で行われている研究について討論を行い, 学識を深め, 国際性や医師の社会的責 任について学び、リサーチマインドを磨きます.
 - 4) IMECC

※ 内科専攻医は原則専門研修1年もしくは2年までに受講します.

- |5)医療倫理,医療安全,感染対策,臨床研究や利益相反に関する講習会 ※ 内科専攻医は年2回以上受講し、学習でます。
- (3) 自己学習

	,
	研修カリキュラムにある疾患について,内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信を用いて自己学習します.また,日本内科学会雑誌の multiple choice question やセルフトレーニング問題を解き,内科全領域における知識のアップデートの確認手段とします.
認定基準	長崎大学病院には9つの内科系診療科(リウマチ・膠原病内科、内分泌・代謝内科、脳神経内科、呼吸器
【整備基準 24】	内科,腎臓内科,消化器内科,循環器内科,血液内科,感染症内科)があり,幅広い内科研修が可能で
3) 診療経験の環境	す. また, 救急疾患は各診療科や救命救急センターによって管理されており, 長崎大学病院においては内
	 科領域全般の疾患が網羅できる体制が敷かれています.これらの診療科での研修を通じて,高度な急性期
	医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学
	術活動の素養を身につけます.
認定基準	症例の経験を深めるための学術活動における目標を設定し、自己研鑽を生涯にわたって行っていく能力を
【整備基準 24】	涵養します.
4) 学術活動の環境	1) 内科系の学術集会や企画に年2回以上参加する
	2)経験症例についての文献検索を行い,症例報告を行う 3)クリニカルクエスチョンを見出して臨床研究を行う
	4) 内科学の発展に通じる基礎研究を行う
	上記のうち、2)~4)は筆頭演者または筆頭著者として学会あるいは論文発表を2件以上すること.
指導責任者	前村 浩二
指導医数(常勤)	107 名 (2023 年実績)
外来・入院患者数	外来患者延数 110、410 名(人/年) 入院患者数 5857 名(人/年)※2018 年度実績
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて,研修手帳(疾患群項目表)にある13 領域,70 疾患群の症例を経験すること
	ができます.
経験できる技術・技	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験する
能	ことができます. 一方でカリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医は積極的に
	Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識,技術・技能研修を開始することができます.
経験できる地域医	地域の連携施設・特別連携施設による研修を組み合わせることによって、内科全般研修ならびに地域住民
療・診療連携	に密着した地域医療を学習します.
学会認定施設	日本内科学会認定教育施設
(内科系)	日本消化器病学会認定施設
	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
	日本呼吸器学会認定施設
	日本血液学会認定血液研修施設
	日本内分泌学会認定教育施設
	日本糖尿病学会認定教育施設
	日本腎臓学会研修施設
	日本肝臓学会認定施設
	日本アレルギー学会認定教育施設
	日本リウマチ学会教育施設
	日本神経学会教育施設
	日本感染症学会認定研修施設
	日本がん治療認定医機構認定研修施設

ます.		
(記録院達攻医として労務規格が保险されています。	認定基準	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です.
メンタルストレスに適別に対処する影響は10/7-9スメント窓口として医務室があります。医務室には金属を設まが保護的が希腊しています。 女性寺攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮駆室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・	【整備基準 23】	
民産業民よび保価的が発駐しています。 女性事攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮服室、シャワ一室、当直室が整備されています。 数地内に249間対に映内託児所、隣接する施設に病児保育室があり、利用可能です。	1) 専攻医の環境	飯塚病院専攻医として労務環境が保障されています.
#性中攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮服室、シャワー室、当直室が整備されています。 数地内に 24 時間対応院内託児所、隣接する施設に前児保育室があり、利用可能です。 相薄医は 37 名在籍しています(下記)、 の痕境 の痕境 の痕境 の痕境 の痕境 の痕境 の痕境 の痕境		
世級主選 (表現本) 表現内に 24 時間対応限内託児所、隣接する施設に病児保育室があり、利用可能です。 教地内に 24 時間対応限内託児所、隣接する施設に病児保育室があり、利用可能です。		は産業医および保健師が常駐しています.
製地内に24時間対応院内記更所、隔接する施設に前見保育家があり、利用可能です。 指導医は37 名在籍しています(下記) 力料専門研修プログラム の環境 と図ります。 基準施設内で何修する専攻医の研修を管理する、内科専門研修委員会と設置します。 医療倫理・医療安全・感染対策諸智会を定期的に開催(2024 年実績 医媒倫理 4 回、感染対策 4 回)し、専攻医に受護を務例け、そのための時間的会俗を与えます。 研修施設群を同かンファレンスを圧期的に主催(2017 年度開催下置)し、専攻医に受議を義務付け、そのための時間的会俗を与えます。 (PC を定期がに開催(2024 年実績 5 回)し、専攻医に受護を義務付け、そのための時間的会俗を与えます。 (PC を定期がに開催)(2024 年実績 5 回)し、専攻医に受護を義務付け、そのための時間的会俗を与えます。 (PC を定期がに開催)、中央医に受護を義務付け、そのための時間的会俗を与えます。 (PT グラスムに所属する全事攻医に 1 加EC 交議を義務付け、そのための時間的会俗を与えます。 (PT グラスルに対して対して対して対し、を助けての直接・カンファレンスなどに 1 加 の事権指導を行います。 日本専門医機能による施設実地調査に数す推進本部が対応します。 1 単本専門医権権による施設実地調査に数す推進本部が対応します。 は 1 単本専門医権的うたます。 「大き 大き 大		女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備され
指導医は37名在籍しています(下記) 内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携 を図ります。 基幹施設内で研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携 を図ります。 基幹施設内で研修する専攻医の研修を管理する、内科専門研修委員会を設置します。 医療倫理・医療安全・感染対策諸豊名を定期的に主催(2014年実績 医療倫理・日 医療安全・原染対策諸豊名を定期的に用催(2024年実績 医療倫理・日 医療安全・原染対策諸豊名を定期的に用催(2017年度開催予定)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的会絡を与えます。 (PC を定期的に開催(2021年実績5回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的会絡を与えます。 (PC を定期的に開催(2021年実績5回) し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的会絡を与えます。 19回 を定期がに関催し、専攻医に受講を養務付け、そのための時間的会絡を与えます。 プログラムに所属する全事攻医に JMDCC 受講を義務付け、そのための時間的会絡を与えます。 対の手機能を合います。 お・新修制師中に放棄研修の担当指導医による定期的な電話を全が間での面談・カンファレンスなどにより研修指導を行います。 19 研修指導を行います。 「主専門医機能は23/21] 3)診療経験の環境 設定基準 【整備基準 23/21] 3)診療経験の環境 カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち金分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診験しています。 「事研修性の要な引형を行っています。」 10 今第新活動の環境 カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち金分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診験しています。 「中研修に必要な引형を行っています。 「中研修に必要な引형を行っています。 「中研修に必要な引형を行っています。 「中研修に必要な引형を行っています。 「中研修に必要な引형を行っています。 「中研修に必要な引형を行っています。 「中研をごとの要なを構し、定期的に開催しています。 「中本科学会議議会あるいは同胞方会の受会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発展で行うるとができます。 「特別医) 「本内科学会議の表別を関います。」 「本内科学会議の会別を行います。 「本内科学会議の会別を行います。 「本内科学会議の会別を行います。 「本内科学会は所のができるような能力的と表を合けっています。また、国内外の内科系学会での学会発展で行うなとができます。 「本内科学会は関に対している方」でいます。また、国内外の内科系学会での学会発展で行っています。また、国内外の内科系学会の「無対しな」 「本内科学会議を開始の主な、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、		ています.
日整伯黒神23] 2) 専門所能プログラム の環境 の環境 の環境 の環境 の環境 の環境 の環境 の環境		敷地内に 24 時間対応院内託児所、隣接する施設に病児保育室があり、利用可能です.
②専門師修プログラム の環境 佐藤 一切 一切 一切 一切 一切 一切 一切 一	認定基準	指導医は37名在籍しています(下記).
 必要総設内で研修する専攻医の研修を管理する、内科専門研修委員会を設置します。	【整備基準 23】	内科専門研修プログラム管理委員会にて,基幹施設,連携施設に設置されている研修委員会との連携
展像四半、医療安全・感染対策諸智会を定期的に開催(2024年実績 医療倫理4回、医療安全10回、感染対策4回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的会格を与えます。 研修施設計合同カンファレンスを定期的に主催(2017年度開催予定)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的会格を与えます。 (PC を定期的に開催(2024年実被5回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的会格を与えます。 地域参加型のカンファレンス(地域研究会、地域学術講演会、地域カンファレンスなど、2017年実績73回)を定期的に開催(2024年実成5回)し、専攻医に受講を養務付け、そのための時間的会格を与えます。プログラムに所属する全専攻医に、DMECで受講を養務付け、そのための時間的会格を与えます。	2) 専門研修プログラム	を図ります.
回、威廉対策 4 回)し、専攻医に受講を養務付け、そのための時間的余裕を与えます。 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催(2017 年度開催予定)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 (PC を定期的に開催(2024 年実績 5 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 地域参加型のカンファレンス(地域研究会、地域学術講演会、地域カンファレンスなど、2017 年実績 73 回)を定期的に開催(東攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 地域参加型のカンファレンス(地域研究会、地域学術講演会、地域カンファレンスなど、2017 年実績 73 回)を定期的に開催し、事攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。	の環境	基幹施設内で研修する専攻医の研修を管理する,内科専門研修委員会を設置します.
研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催 (2017 年度開催予定) し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。		医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2024年実績 医療倫理4回,医療安全10
そのための時間的余裕を与えます。 CPC を定期的に開催 (2024 年実績 5 回) し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 地域参加型のカンファレンス(地域研究会、地域学術講演会、地域カンファレンスなど、2017 年実績 73 回) を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 プログラムに所属する全専攻医にJIRCC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 対りでは原域対策の専門研修では、延伸指導医と原域対影の担害指導医が連携し研修指導を行います。 は、研修期間中は飯域対験の担当指導医による定期的な電話や訪問での面談・カンファレンスなどにより研修指導を行います。 日本専門医機構による施設実地調査に数育推進本部が対応します。 日本専門医機構による施設実地調査に数育推進本部が対応します。 日本専門医機構に必要な削極を行っています。 認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境 「特別研修に必要な削極を行っています。 倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 「本内科学会議演会あるいは同地力会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります 本件 健大 「内科・政医へのメッセージ】 衝撃病院内科専門所修プログラムを通じて、プライマリ・ケアから高度急性期医療、地方都市から解地・離島の全での診験に対応できるような能力的基盤を身に付けることができます。米国ビッツバーグ大学の教育専門医と、6 年間に亘り共同で医学教育システム作りに取り組んだ結果標準し得た、教育ログラムおよび教育指導方法を保険した研修を行います。 専攻医の皆さんの可能性を最大限に高めるための「価値ある」内科専門研修プログラムを作り続ける資格で・「将来のキャリアバスが決定している方、していない方、いずれに対しても価値のある研修を行います。 本研科学会指導医18 名、日本内科学会総合内科専門医 3 名 日本博化器研学会、13 名、日本権保護学会循環器専門医 1 名 日本特別等学会解及特専門医 3 名、日本衛職等学会循環器専門医 3 名 日本解析等学会解及解析専門医 3 名、日本和微学会企業の報専門医 3 名 日本解析等学会解及専門の 3 名、日本の経験学会の関連門医 3 名 日本解析等学会解及特専門医 1 名、日本血液学会血液専門医 3 名 日本解析等学会解及特専門医 3 名、日本企業等全の関連門医 3 名 日本解析等学会解及特専門医 3 名、日本企業等全の関門医 1 名ほか 外来患者1,660 名(1 ヶ月平均) 人院患者1,786 名(1 ヶ月平均) きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。		回,感染対策4回)し,専攻医に受講を義務付け,そのための時間的余裕を与えます.
でPC を定期的に開催 (2024 年実績 5 回) し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 地域参加型のカンファレンス (地域研究会、地域学術講演会、地域カンファレンスなど、2017 年実績 73 回) を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 物理・実施とが、極期間中は飯場院の担当指導医と が、20 世界に連携し研修指導を行います。 お、可修期間中は飯場院の担当指導医と 数定療施の担当指導医が連携し研修が再能な症例数を診療していまり研修指導を行います。 日本専門医機構による施設実地調査に数育推進本部が対応します。 カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している実ます。 専門研修に必要な割検を行っています。 諸定基準 [整備基準 23] 4)学術活動の環境 に対応できると整備しています。 日本内不に必要なの国書などを整備しています。 日本内科学会議資会あるいは同地力会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表とも複極的に取り組める環境があります。 本村 健太 [内科専攻医へのメッセージ] 飯塚病院内科専門研修プログラムを通じて、プライマリ・ケアから高度急性期医療、地方都市から俯地・離島の全ての影像に対応できるような能力的基盤を身に付けることができます。米国ビッツパーグ大学の教育専門医と、6 年間に亘り共同で医学教育ンステム作りに取り組んだ結果構築し得た、教育プログラムとび教育指導方法を反映した研修を行います。 専攻医の皆さんの可能性を最大限に高めるための「価値ある」内科専門研修プログラムを作り続ける気管です。将来の書きんの可能性を最大限に直り共同で医学教育ンステム作りに取り組んだ結果構築し得た、教育プログラムと作り続ける気管で、非常の書き、10 日本的研修を行います。 東区の皆さんの可能性を最大限に直り共同で医学教育とない方式、いずれに対しても価値のある研修を行います。 本科の医学会権機能を再じまるよりの時間である。日本内科学会権の対策を対していな方、いずれに対しても価値のある研修を行います。 本科の医学会権原列を関係であるこれであり、12 日本は保護学会権原列を関係であるこれであり、12 日本は保護学会のと前に関係を行います。 「本経験学会議を開展」18 名、日本解験学会会構展器専門医 11 名 日本解析学会権原列を開催の 3 名 日本解析学会権原列を関係であり、14 日本 日本権保険学会権原列を関係である。14 日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日		研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催(2017年度開催予定)し,専攻医に受講を義務付け,
ます。 地域参加型のカンファレンス(地域研究会、地域学術講演会、地域カンファレンスなど、2017 年実績 73 回)を定期的に開催し、事攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ブログラムに所属する全車攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ガログラムに所属する全車攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 特別連携施設の専門可修では、症例指導医と飯塚病院の担当指導医が連携し研修指導を行います。 お、研修期間中は飯塚病院の担当指導医に数る定期的な電話や訪問での面談・カンファレンスなどにより研修指導を行います。 日本専門医機構による施設実地調査に教育推進本部が対応します。 リキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ます。 70 疾患群の 25 位に安水公園をでしています。 18 座基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境		そのための時間的余裕を与えます.
地域参加型のカンファレンス(地域研究会、地域学術講演会、地域カンファレンスなど、2017 年実績73 回)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 プログラムに所属するを専攻医に IMECで 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 特別連携施設の専門研修では、症例指導医と飯塚病院の担当指導医が連携し研修指導を行います。 お、研修期間中は飯塚病院の担当指導医による定期的な電話や訪問での面談・カンファレンスなどに より研修指導を行います。 日本専門医機構による施設実地調査に教育推進本部が対応します。 カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 「整備基準23/31] 3)診療経験の環境 「整備基準23] 4)学術活動の環境 「整備基準23] 4)学術活動の環境 「監解研究に必要な公園舎室などを整備しています。 倫理委員会を設置し、定期的に関催しています。 治験管理室を設置し、定期のに受託研究審査会を開催しています。 日本内科学会議議会会あいは同地力会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります 本村 健太 「内科専攻医へのメッセージ」 飯塚病院内科専門研修プログラムを通じて、プライマリ・ケアから高度急性期医療、地方都市から僻地・離島の全での診療に対応できるような能力的基盤を身に付けることができます。米国ビッツバーグ大学の教育専門医と、6 年間に互り共同で医学教育システム作りに取り組んだ結果構築し得た、教育プログラムおよび教育指導方法を反映した研修を行います。 専攻医の皆をんの可能性を最大限に高めるための「価値ある」内科専門研修プログラムを作り続ける覚悟です。将来のキャリアが決定している方、していない方、いずれに対しても価値のある研修を行います。 専攻医の皆とんの可能性を最大限に高めるための「価値ある」内科専門研修プログラムを作り続ける覚悟です。将来のキャリアが決定している方、していない方、いずれに対しても価値のある研修を行います。 中本内科学会指原籍専門医3名、日本内科学会総合内科専門医3名 日本消化器時門医13名、日本衛際等学会腎臓専門医3名 日本衛保病学会部保持専門医3名、日本の科学会学の連門医3名 日本神経内科専門医3名、日本アレルボー等門医1名 日本糖尿病学会が患の時間医3名、日本アルルボー学会アレルボー専門医1名 日本糖尿病学会神経内科専門医3名、日本アルボー学会アレルボー専門医1名 日本経尿病学会静尿病専門医3名、日本アルボー学会アレルボー専門医1名。日本アルボー学会アルボー等門医1名にカード・カード・カード・カード・カード・カード・カード・カード・カード・カード・		CPC を定期的に開催(2024年実績5回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与え
73 回)を定期的に開催し、車攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 プログラムに所属する全車攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 特別連携施設の専門可修では、振例構導医と被政策院の担当指導医による定期的な電話や訪問での面談・カンファレンスなどにより研修指導を行います。 日本専門医機構による施設実地調金に教育推進本部が対応します。 カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 認定基準 【整備基準23/31】 3)診療経験の環境 70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても45以上の疾患群)について研修できます。 専門研修に必要な図書室などを整備しています。 倫理委員会を設置し、定期的に関性しています。 日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります 本村 健太 【内科専攻医へのメッセージ】 飯塚病院内科専門研修プログラムを通じて、プライマリ・ケアから高度急性期医療、地方都市から僻地・離島の全ての診療に対応できるような能力的基盤を身に付けることができます。米国ビッツバーグ大学の教育専門医と、6 年間に亘り共同で医学教育ンステム作りに取り組んだ結果構築し得た、教育プログラムおよび教育指導方法を反映した研修を行います。専攻医の皆さんの可能性を最大限に高めるための「価値ある」内科専門研修プログラムを通じて、ガライマリ・ケアから高度急性期医療、地方都市から僚地・離島の全ての診療に対応できるような能力的基盤を身に付けることができます。米国ビッツバーグ大学の教育専門医と、6 年間に亘り共同で医学教育ンステム作りに取り組んだ結果構築し得た、教育プログラムおよび教育指導方法を反映した研修を行います。専攻医の皆とんの可能性を最大限に高めるための「価値ある」内科専門研修プログラムを作り続ける党語です。将来のキャリアバスが決定している方、していない方、いずれに対しても価値のある研修を行います。 本の経験音楽を指導器専門医 13 名、日本内科学会経合内科専門医 3 名 日本内科学会指定器専門医 13 名、日本内科学会経合内科専門医 3 名 日本海化器病学会消化器専門医 13 名、日本の経験音楽会解波器専門医 1 名 日本神経学会神経内科神の医 3 名、日本を職病学会腎臓専門医 3 名 日本神経学会神経内科神の医 3 名、日本衛機病学会腎臓専門医 3 名 日本神経学会神経内科神の医 3 名、日本衛機病学会腎臓専門医 3 名 日本神経学会神経内科神の医 3 名、日本衛機病学会腎臓専門医 3 名 日本神経学会神経内科神の医 3 名、日本の経験学会の経験神の医 3 名 日本神経学会神を持分でとまず、1 年本感染症学会専門医 1 名 ほか 4 年本・大阪・大阪・大阪・大阪・大阪・大阪・大阪・大阪・大阪・大阪・大阪・大阪・大阪・		ます.
プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。特別連携施設の専門研修では、症例指導医と飯塚病院の担当指導医が連携し研修指導を行います。より研修指導を行います。日本専門医機構による施設実地調査に教育推進本部が対応します。日本専門医機構による施設実地調査に教育推進本部が対応します。日本専門医機構による施設実地調査に教育推進本部が対応します。日本専門医機構による施設実地調査に教育推進本部が対応します。日本専門医機構による施設実地調査に教育推進本部が対応します。日本専門医機構による施設実地調査に教育推進本部が対応します。日本専門医機構による施設実地調査に教育推進本部が対応します。日本専門所修に必要な割検を行っています。また、国内外の内科系学会での実性が活動の環境 いた場所に必要なとを整備しています。 (新理委員会を設置し、定期的に開催しています。 (新理委員会を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります。本村 健太 (内科専攻医へのメッセージ) 飯塚病院内科専門研修プログラムを通じて、プライマリ・ケアから高度急性期医療、地方都市から僻地・離島の全ての診療に対応できるような能力的基盤を身に付けることができます。米国ビッツバーグ大学の教育専門医と、6年間に亘り共同で医学教育システム作りに取り組んだ結果構築し得た、教育プログラムおよび教育指導方法を反映した研修を行います。 専攻医の皆さんの可能性を最大限に高めるための「価値ある」内科専門研修プログラムを作り続ける覚悟です、将来のキャリアバスが決定している方、していない方、いずれに対しても価値のある研修を行います。 日本内科学会総合内科専門医 4名 日本消化器病学会消化器専門医 13名、日本循環器学会循環器専門医 11名 日本導足病学会神医内科専門医 3名、日本循環器学会循環器専門医 11名 日本導足病学会神医内科専門医 3名、日本確験等会発展専門医 1 名 日本導足病学会神医内科専門医 3名、日本確験学会の環幕器専門医 1 名 日本神経学会神経内科専門医 3名、日本を循環器等門医 1 名 日本神経学会神経専門医 1 名、日本施政学会・専門医 1 名 日本戦発学会・政の影響の時間を 3名 日本・本の発展を対の発展を表で、日本・本の発展と、日本・本の発展と、日本・本の発展と、日本・本の発展と、日本・本の発展と、日本・大の表に対しませば、 1 名 日本 本の大の表に表します。 1 名 日本 本の大の大の表に表します。 1 名 日本 本の大の大の大の大の大の大の大の大の大の大の大の大の大の大の大の大の大の大の		地域参加型のカンファレンス(地域研究会、地域学術講演会、地域カンファレンスなど、2017 年実績
特別連携施設の専門研修では、症例指導医と飯塚病院の担当指導医が連携し研修指導を行います。なお、研修期間中は飯塚病院の担当指導医による定期的な電話や訪問での面談・カンファレンスなどにより研修指導を行います。 日本専門医機構による施設実地調査に教育推進本部が対応します。 カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 3)診療経験の環境 カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 10 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくでも45以上の疾患群)について研修できます。 専門研修に必要な割検を行っています。 協理表第23】 (4)学術活動の環境		73回)を定期的に開催し,専攻医に受講を義務付け,そのための時間的余裕を与えます.
お、研修期間中は飯塚病院の担当指導医による定期的な電話や訪問での面談・カンファレンスなどにより研修指導を行います。 日本専門医機構による施設実地調査に教育推進本部が対応します。 カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 3) 診療経験の環境		プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け,そのための時間的余裕を与えます.
まり研修指導を行います。 日本専門医機構による施設実地調査に教育推進本部が対応します。 カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 10疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても45以上の疾患群)について研修できます。 専門研修に必要な割検を行っています。 臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 (整備基準23] 4)学術活動の環境 (整備基準23] 4)学術活動の環境 (本) 学術活動の環境 (本) 学術活動の環境 (本) 学術活動の環境 (本) 学術活動の環境 (内科専文医へのメッセージ) (大) が表し、定期的に開催しています。また、国内外の内科系学会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表を行っています。また、国内科の内科系学会での関係が応じます。 「大学の教育専門医を3 と間に互り共同で医学教育システム作りに取り組んだ結果構築し得た、教育プログラムを作り続ける覚悟です。「特殊の主との事情を行います。 「本) サールの大学の表に関係を行います。 「本) は、「本) は、「な) は、「本) は、「		特別連携施設の専門研修では,症例指導医と飯塚病院の担当指導医が連携し研修指導を行います.な
器定基準		お、研修期間中は飯塚病院の担当指導医による定期的な電話や訪問での面談・カンファレンスなどに
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境 おリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. 認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境 臨床研究に必要な図書室などを整備しています. 倫理委員会を設置し、定期的に関催しています. 台験管理室を設置し、定期的に関催しています。日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります 本村 健太 【内科専攻医へのメッセージ】 飯塚病院内科専門研修プログラムを通じて、プライマリ・ケアから高度急性期医療、地方都市から僻地・離島の全ての診療に対応できるような能力的基盤を身に付けることができます。米国ビッツバーグ大学の教育専門医と、6年間に亘り共同で医学教育システム作りに取り組んだ結果構築し得た、教育プログラムおよび教育指導方法を反映した研修を行います。専攻医の皆さんの可能性を最大限に高めるための「価値ある」内科専門研修プログラムを作り続ける覚悟です。将来のキャリアバスが決定している方、していない方、いずれに対しても価値のある研修を行います。 指導医数 (常勤医) 日本内科学会指常の作と研修を行います。 中本内科学会指導医18名、日本内科学会総合内科専門医 40名 日本消化器病学会消化器専門医 13名、日本循環器学会循環器専門医 11名 日本開展学会消化器専門医 13名、日本循環器学会循環器専門医 3名 日本補化器病学会清化器専門医 13名、日本循環器学会で3名 日本神経学会神経内科専門医 3名、日本衛環器学会専門医 1名ほか 外来・入院患者数 外来患者1,660名(1ヶ月平均)入院患者1,786名(1ヶ月平均) を診めて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。		より研修指導を行います。
【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境 専門研修に必要な別検を行っています. 専門研修に必要な別検を行っています. の疾患群のうちほぼ全疾患群 (少なくても 45以上の疾患群) について研修できます. 専門研修に必要な別検を行っています. 倫理委員会を設置し、定期的に関係しています. 治験管理室を設置し、定期的に関係しています. 治験管理室を設置し、定期的に関係しています. 治験管理室を設置し、定期的に関係しています. 日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります 本村 健太 【内科専攻医へのメッセージ】 飯塚病院内科専門研修プログラムを通じて、プライマリ・ケアから高度急性期医療、地方都市から僻地・離島の全ての診療に対応できるような能力的基盤を身に付けることができます.米国ピッツバーグ大学の教育専門医と、6 年間に亘り共同で医学教育システム作りに取り組んだ結果構築し得た、教育プログラムおよび教育指導方法を反映した研修を行います. 専攻医の皆さんの可能性を最大限に高めるための「価値ある」内科専門研修プログラムを作り続ける覚悟です.将来のキャリアパスが決定している方、していない方、いずれに対しても価値のある研修を行います. 指導医数 (常勤医) 日本内科学会指導方法を反映した研修を行います. 専攻医の皆さんの可能性を最大限に高めるための「価値ある」内科専門研修プログラムを作り続ける覚悟です.将来のキャリアパスが決定している方、していない方、いずれに対しても価値のある研修を行います. 日本内科学会指導所等門医 13 名、日本指標器学会循機専門医 14 名 日本糖に保持学会補限病専門医 3 名、日本を職務学会腎臓専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本上本施浚等会腎臓専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本血液学会の一臓専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本直液学会腎臓専門医 1 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 5 名、日本感染症学会専門医 1 名ほか 外来・入院患者数 外来患者 1,660 名(1 ヶ月平均) 入院患者 1,786名(1 ヶ月平均) シとかどできます.		日本専門医機構による施設実地調査に教育推進本部が対応します.
3) 診療経験の環境 70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 45 以上の疾患群) について研修できます。専門研修に必要な割検を行っています。 認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境 編束研究に必要な図書室などを整備しています。 治験管理室を設置し、定期的に開催しています。 日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります。 本村 健太 【内科専攻医へのメッセージ】 飯塚病院内科専門研修プログラムを通じて、プライマリ・ケアから高度急性期医療、地方都市から僻地・離島の全ての診療に対応できるような能力的基盤を身に付けることができます。米国ビッツバーグ大学の教育専門医と、6 年間に亘り共同で医学教育システム作りに取り組んだ結果構築し得た、教育プログラムおよび教育指導方法を反映した研修を行います。 専攻医の皆さんの可能性を最大限に高めるための「価値ある」内科専門研修プログラムを作り続ける覚悟です。将来のキャリアパスが決定している方、していない方、いずれに対しても価値のある研修を行います。 日本内科学会指導医 18 名、日本内科学会総合内科専門医 40 名 日本消化器病学会消化器専門医 13 名、日本循環器学会循環器専門医 11 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名、日本腎臓病学会腎臓専門医 3 名 日本糖尿病学会替尿病専門医 3 名、日本を設定学会・11 名 日本糖尿病学会神経内科専門医 3 名、日本本漁学会血液専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 5 名、日本感染症学会・1 日名 日本 中子学会リウマチ専門医 5 名、日本感染症学会専門医 1 名 日本 中子学会リウマチ専門医 5 名、日本感染症学会専門医 1 名 ほか 外来・入院患者数 外来患者 1,660 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 1,786 名 (1 ヶ月平均) きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域,70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。	認定基準	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療してい
聴定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境 協床研究に必要な図書室などを整備しています. 治験管理室を設置し、定期的に関催しています. 治験管理室を設置し、定期的に関係しています. 日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります 本村 健太 【内科専攻医へのメッセージ】 飯塚病院内科専門研修プログラムを通じて、プライマリ・ケアから高度急性期医療、地方都市から僻地・離島の全ての診療に対応できるような能力的基盤を身に付けることができます.米国ピッツバーグ大学の教育専門医と、6年間に亘り共同で医学教育システム作りに取り組んだ結果構築し得た、教育プログラムおよび教育指導方法を反映した研修を行います. 専攻医の皆さんの可能性を最大限に高めるための「価値ある」内科専門研修プログラムを作り続ける覚悟です・将来のキャリアペスが決定している方、していない方、いずれに対しても価値のある研修を行います. お事医数 (常勤医) 2017 年度実績 日本内科学会指導医 18 名、日本内科学会総合内科専門医 3 名 日本消化器専学会消化器専門医 13 名、日本循環器学会循環器専門医 11 名 日本指に器病学会構尿病専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本本臓学会腎臓専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本アレルギー専門医 3 名 日本中経学会神経内科専門医 5 名、日本薬学会専門医 1 名 ほか リウィチ学会リウマチ専門医 5 名、日本感染症学会専門医 1 名 ほか 外来・入院患者数 外来・入院患者数 経験できる疾患群 さわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。	【整備基準 23/31】	ます.
認定基準 【整備基準23】 4)学術活動の環境 お験管理室を設置し、定期的に関催しています. 治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています. 日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります 本村 健太 【内科専攻医へのメッセージ】 飯塚病院内科専門研修プログラムを通じて、プライマリ・ケアから高度急性期医療、地方都市から僻地・離島の全ての診療に対応できるような能力的基盤を身に付けることができます.米国ピッツバーグ大学の教育専門医と,6年間に亘り共同で医学教育システム作りに取り組んだ結果構築し得た、教育プログラムおよび教育指導方法を反映した研修を行います. 専攻医の皆さんの可能性を最大限に高めるための「価値ある」内科専門研修プログラムを作り続ける覚悟です.将来のキャリアパスが決定している方、していない方、いずれに対しても価値のある研修を行います. 日本内科学会指導医18名、日本内科学会総合内科専門医40名 日本消化器病学会消化器専門医13名、日本循環器学会循環器専門医11名 日本糖尿病学会治療と消化器専門医3名、日本循環器学会循環器専門医3名 日本神経学会神経内科専門医3名、日本循環等学会の演奏門医3名 日本神経学会神経内科専門医3名、日本感染症学会専門医1名にか・ク・来・入院患者数 外来・入院患者数 外来・入院患者数 経験できる疾患群 を応いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます.	3)診療経験の環境	70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 45 以上の疾患群)について研修できます.
【整備基準 23】 4)学術活動の環境 倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります 本村 健太 【内科専攻医へのメッセージ】 飯塚病院内科専門研修プログラムを通じて、プライマリ・ケアから高度急性期医療、地方都市から僻地・離島の全ての診療に対応できるような能力的基盤を身に付けることができます。米国ピッツバーグ大学の教育専門医と、6年間に亘り共同で医学教育システム作りに取り組んだ結果構築し得た、教育プログラムおよび教育指導方法を反映した研修を行います。 専攻医の皆さんの可能性を最大限に高めるための「価値ある」内科専門研修プログラムを作り続ける覚悟です。将来のキャリアパスが決定している方、していない方、いずれに対しても価値のある研修を行います。 日本内科学会指導医 18 名、日本内科学会総合内科専門医 40 名 日本贈尿病学会指保病専門医 13 名、日本循環器学会循環器専門医 11 名 日本糖尿病学会消化器専門医 13 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名 日本神経学会神吸器専門医 11 名、日本血液学会血液専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本下レルギー学会アレルギー専門医 1 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 5 名、日本感染症学会専門医 1 名ほか 外来・入院患者数 外来・表に患者数 経験できる疾患群 さわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。		専門研修に必要な剖検を行っています.
(常勤医) 2017 年度実績 日本内科学会指演医18名、日本内科学会総合内科専門医 40名 日本内科学会指導医18名、日本内科学会総合内科専門医 11名 日本内科学会指導医18名、日本内科学会総合内科専門医 40名 日本消化器病学会消化器専門医 13名、日本循環器学会循環器専門医 11名 日本時尿病学会育吸器専門医 11名、日本直療学会循環器専門医 11名 日本神経学会神経内科専門医 3名、日本アレルギー専門医 1名 日本神経学会神経内科専門医 11名、日本直液学会血液専門医 3名 日本神経学会神経内科専門医 11名、日本直液学会血液専門医 3名 日本神経学会神経内科専門医 11名、日本直液学会血液専門医 1名 日本リウマチ専門医 16名、日本アレルギー学会アレルギー専門医 1名 日本リウマチ等引医 18名、日本アレルギー学会デレルギー専門医 1名 日本対の発酵・データの発酵・データの発酵・データの発酵・データの表別を開始を発売する。 「対象では、日本内科学会に、日本内科学会に、日本体験が学会の表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表	認定基準	
日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります 本村 健太 【内科専攻医へのメッセージ】 飯塚病院内科専門研修プログラムを通じて、プライマリ・ケアから高度急性期医療、地方都市から僻地・離島の全ての診療に対応できるような能力的基盤を身に付けることができます。米国ピッツバーグ大学の教育専門医と、6年間に亘り共同で医学教育システム作りに取り組んだ結果構築し得た、教育プログラムおよび教育指導方法を反映した研修を行います。 専攻医の皆さんの可能性を最大限に高めるための「価値ある」内科専門研修プログラムを作り続ける覚悟です。将来のキャリアパスが決定している方、していない方、いずれに対しても価値のある研修を行います。 指導医数 (常動医) 2017 年度実績 日本内科学会指導医18名、日本内科学会総合内科専門医40名 日本消化器病学会消化器専門医3名、日本循環器学会循環器専門医3名 日本海探病学会時吸器専門医3名、日本循環器学会循環器専門医3名 日本神経学会神経内科専門医3名、日本アレルギー専門医3名 日本神経学会神経内科専門医3名、日本原染症学会専門医1名日本リウマチ学会リウマチ専門医5名、日本感染症学会専門医1名ほか 外来・入院患者数 外来患者1,660名(1ヶ月平均) 入院患者1,786名(1ヶ月平均) を験できる疾患群 きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。	【整備基準 23】	
# 学会発表にも積極的に取り組める環境があります 本村 健太 【内科専攻医へのメッセージ】 飯塚病院内科専門研修プログラムを通じて、プライマリ・ケアから高度急性期医療、地方都市から 僻地・離島の全ての診療に対応できるような能力的基盤を身に付けることができます。米国ピッツバーグ大学の教育専門医と、6年間に亘り共同で医学教育システム作りに取り組んだ結果構築し得た、教育プログラムおよび教育指導方法を反映した研修を行います。 専攻医の皆さんの可能性を最大限に高めるための「価値ある」内科専門研修プログラムを作り続ける 覚悟です・将来のキャリアパスが決定している方、していない方、いずれに対しても価値のある研修を行います。 日本内科学会指導医 18 名、日本内科学会総合内科専門医 40 名 日本消化器病学会消化器専門医 13 名、日本循環器学会循環器専門医 11 名 日本糖尿病学会排尿病専門医 3名、日本循環器学会循環器専門医 3名日本呼吸器学会呼吸器専門医 11名、日本血液学会配液専門医 3名日本呼吸器学会呼吸器専門医 11名、日本血液学会配液専門医 3名日本呼吸器学会呼吸器専門医 3名日本本産、公職、中国 12 名日本・中級学会神経内科専門医 3名日本・中級学会の表集中国 12 名日本・リウマ・チー・ディー・サール・ディー・ディー・サール・ディー・サール・ディー・サール・ディー・サール・ディー・サール・ディー・サール・ディー・サール・ディー・サール・ディー・サール・ディー・サール・ディー・サール・ディー・サール・ディー・サール・ディー・サール・ディー・サール・ディー・サール・ディー・ディー・ディー・ディー・ディー・ディー・ディー・ディー・ディー・ディー	4) 学術活動の環境	
本村 健太		
【内科専攻医へのメッセージ】 飯塚病院内科専門研修プログラムを通じて、プライマリ・ケアから高度急性期医療、地方都市から 僻地・離島の全ての診療に対応できるような能力的基盤を身に付けることができます。米国ピッツバーグ大学の教育専門医と、6年間に亘り共同で医学教育システム作りに取り組んだ結果構築し得た、教育プログラムおよび教育指導方法を反映した研修を行います。 専攻医の皆さんの可能性を最大限に高めるための「価値ある」内科専門研修プログラムを作り続ける 覚悟です。将来のキャリアパスが決定している方、していない方、いずれに対しても価値のある研修を行います。 日本内科学会指導医18名、日本内科学会総合内科専門医40名 日本消化器病学会消化器専門医13名、日本循環器学会循環器専門医11名 日本糖尿病学会糖尿病専門医3名、日本腎臓病学会腎臓専門医3名 日本呼吸器学会呼吸器専門医11名、日本血液学会血液専門医3名 日本神経学会神経内科専門医3名、日本アレルギー学会アレルギー専門医1名日本リウマチ学会リウマチ専門医5名、日本感染症学会専門医1名ほか 外来・入院患者数 外来患者1,660名(1ヶ月平均) 入院患者1,786名(1ヶ月平均) きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。		学会発表にも積極的に取り組める環境があります
飯塚病院内科専門研修プログラムを通じて、プライマリ・ケアから高度急性期医療、地方都市から 僻地・離島の全ての診療に対応できるような能力的基盤を身に付けることができます。米国ピッツバ 一グ大学の教育専門医と、6年間に亘り共同で医学教育システム作りに取り組んだ結果構築し得た、 教育プログラムおよび教育指導方法を反映した研修を行います。 専攻医の皆さんの可能性を最大限に高めるための「価値ある」内科専門研修プログラムを作り続ける 覚悟です。将来のキャリアパスが決定している方、していない方、いずれに対しても価値のある研修 を行います。 日本内科学会指導医18名、日本内科学会総合内科専門医40名 日本消化器病学会消化器専門医13名、日本循環器学会循環器専門医 11名 日本糖尿病学会糖尿病専門医3名、日本腎臓病学会腎臓専門医3名 日本呼吸器学会呼吸器専門医11名、日本血液学会血液専門医3名 日本神経学会神経内科専門医3名、日本アレルギー学会アレルギー専門医1名 日本リウマチ学会リウマチ専門医5名、日本感染症学会専門医1名ほか 外来・入院患者数 外来患者1,660名(1ヶ月平均) 入院患者1,786名(1ヶ月平均) を験できる疾患群 きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経 験することができます。	指導責任者	
(常助医) 2017 年度実績 日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本腎臓病学会腎臓専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本アレルギー専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本アレルギー専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 5 名、日本感染症学会専門医 1 名ほか 外来・入院患者数 外来患者 1,660 名(1ヶ月平均) 入院患者 1,786 名(1ヶ月平均) 経験できる疾患群 と特性を最大のできるような能力的基盤を身に付けることができます。米国ピッツバーグ大学の教育専門医 20 共同に取り組んだ結果構築し得た。教育プログラムを作り続ける覚悟です。将来のキャリアパスが決定している方。していない方。いずれに対しても価値のある研修を行います。 日本内科学会指導医 18 名、日本内科学会総合内科専門医 40 名 日本消化器病学会消化器専門医 13 名、日本循環器学会循環器専門医 11 名 日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本腎臓病学会腎臓専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 5 名、日本血液学会血液専門医 1 名ほか 外来・入院患者数 外来患者 1,660 名(1ヶ月平均) 入院患者 1,786 名(1ヶ月平均) きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。		
一グ大学の教育専門医と、6年間に亘り共同で医学教育システム作りに取り組んだ結果構築し得た、教育プログラムおよび教育指導方法を反映した研修を行います. 専攻医の皆さんの可能性を最大限に高めるための「価値ある」内科専門研修プログラムを作り続ける 覚悟です.将来のキャリアパスが決定している方、していない方、いずれに対しても価値のある研修を行います. 指導医数 日本内科学会指導医 18 名、日本内科学会総合内科専門医 40 名 日本消化器病学会消化器専門医 13 名、日本循環器学会循環器専門医 11 名 日本糖尿病学会補尿病専門医 3 名、日本腎臓病学会腎臓専門医 3 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 11 名、日本血液学会血液専門医 3 名 日本中吸器学会神吸器専門医 11 名、日本血液学会血液専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医 1 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 5 名、日本感染症学会専門医 1 名ほか 外来・入院患者数 外来患者 1,660 名(1ヶ月平均) 入院患者 1,786 名(1ヶ月平均) きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.		
教育プログラムおよび教育指導方法を反映した研修を行います. 専攻医の皆さんの可能性を最大限に高めるための「価値ある」内科専門研修プログラムを作り続ける 覚悟です. 将来のキャリアパスが決定している方, していない方, いずれに対しても価値のある研修を行います. 指導医数 日本内科学会指導医 18 名、日本内科学会総合内科専門医 40 名 日本消化器病学会消化器専門医 13 名、日本循環器学会循環器専門医 11 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名、日本腎臓病学会腎臓専門医 3 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 11 名、日本血液学会血液専門医 3 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 11 名、日本血液学会血液専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医 1 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 5 名、日本感染症学会専門医 1 名ほか 外来患者 1,660 名(1 ヶ月平均) 入院患者 1,786 名(1 ヶ月平均) きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.		僻地・離島の全ての診療に対応できるような能力的基盤を身に付けることができます.米国ピッツバ
専攻医の皆さんの可能性を最大限に高めるための「価値ある」内科専門研修プログラムを作り続ける 覚悟です.将来のキャリアパスが決定している方,していない方,いずれに対しても価値のある研修 を行います. 日本内科学会指導医 18 名、日本内科学会総合内科専門医 40 名 日本消化器病学会消化器専門医 13 名、日本循環器学会循環器専門医 11 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名、日本腎臓病学会腎臓専門医 3 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 11 名、日本血液学会血液専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本アレルギー専門医 1 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 5 名、日本感染症学会専門医 1 名ほか 外来・入院患者数 外来患者 1,660 名(1 ヶ月平均) 入院患者 1,786 名(1 ヶ月平均) 経験できる疾患群 きわめて稀な疾患を除いて,研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域,70 疾患群の症例を幅広く経 験することができます.		
関悟です、将来のキャリアパスが決定している方、していない方、いずれに対しても価値のある研修を行います。 日本内科学会指導医 18 名、日本内科学会総合内科専門医 40 名 日本消化器病学会消化器専門医 13 名、日本循環器学会循環器専門医 11 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名、日本腎臓病学会腎臓専門医 3 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 11 名、日本血液学会血液専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医 1 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 5 名、日本感染症学会専門医 1 名ほか 外来・入院患者数 外来患者 1,660 名(1 ヶ月平均) 入院患者 1,786 名(1 ヶ月平均) 登験できる疾患群 きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。		
を行います. 指導医数 (常勤医) 日本内科学会指導医 18 名、日本内科学会総合内科専門医 40 名 日本消化器病学会消化器専門医 13 名、日本循環器学会循環器専門医 11 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名、日本腎臓病学会腎臓専門医 3 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 11 名、日本血液学会血液専門医 3 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 11 名、日本血液学会血液専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医 1 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 5 名、日本感染症学会専門医 1 名ほか 外来・入院患者数 外来患者 1,660 名(1 ヶ月平均) 入院患者 1,786 名(1 ヶ月平均) 経験できる疾患群 きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。		
指導医数 日本内科学会指導医 18 名、日本内科学会総合内科専門医 40 名 日本消化器病学会消化器専門医 13 名、日本循環器学会循環器専門医 11 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名、日本腎臓病学会腎臓専門医 3 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 11 名、日本血液学会血液専門医 3 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 11 名、日本血液学会血液専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医 1 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 5 名、日本感染症学会専門医 1 名ほか 外来・入院患者数 外来患者 1,660 名(1 ヶ月平均) 入院患者 1,786 名(1 ヶ月平均) 経験できる疾患群 きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。		
(常勤医) 日本消化器病学会消化器専門医 13 名、日本循環器学会循環器専門医 11 名 2017 年度実績 日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名、日本腎臓病学会腎臓専門医 3 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 11 名、日本血液学会血液専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医 1 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 5 名、日本感染症学会専門医 1 名ほか 外来患者 1,660 名(1ヶ月平均) 入院患者 1,786 名(1ヶ月平均) 経験できる疾患群 きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。		
2017 年度実績 日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名、日本腎臓病学会腎臓専門医 3 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 11 名、日本血液学会血液専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医 1 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 5 名、日本感染症学会専門医 1 名ほか 外来・入院患者数 外来患者 1,660 名(1ヶ月平均) 入院患者 1,786 名(1ヶ月平均) 経験できる疾患群 きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。		
日本呼吸器学会呼吸器専門医 11 名、日本血液学会血液専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医 1 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 5 名、日本感染症学会専門医 1 名ほか 外来患者 1,660 名(1ヶ月平均) 入院患者 1,786 名(1ヶ月平均) 経験できる疾患群 きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。	(
日本神経学会神経内科専門医3名、日本アレルギー学会アレルギー専門医1名 日本リウマチ学会リウマチ専門医5名、日本感染症学会専門医1名ほか 外来・入院患者数 外来患者1,660名(1ヶ月平均) 入院患者1,786名(1ヶ月平均) 経験できる疾患群 きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます.	2017 牛度実績	
日本リウマチ学会リウマチ専門医 5 名、日本感染症学会専門医 1 名ほか 外来・入院患者数 外来患者 1,660 名(1 ヶ月平均) 入院患者 1,786 名(1 ヶ月平均) 経験できる疾患群 きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.		
外来・入院患者数 外来患者 1,660 名 (1ヶ月平均) 入院患者 1,786 名 (1ヶ月平均) 経験できる疾患群 きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。		
経験できる疾患群 きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.		
験することができます.	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
	栓験できる疾患群	
経験でさる技術・技能 技術・技能評価丰帳にある内科専門医に必要な技術・技能を,実際の症例に基づきながら幅広く経験	WELL TO THE TENT	
	経験できる技術・技能	
することができます。	WEN - 2 - ULLN	
経験できる地域医療・ 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験でき		
診療連携 ます.		= - /
学会認定施設 日本内科学会 教育病院		
(内科系) 日本救急医学会 救急科指定施設	(内科系)	
日本消化器病学会 認定施設		the second secon
日本循環器学会 研修施設 31		
日本呼吸器学会 認定施設		
日本血液学会 研修施設		
日本糖尿病学会 認定教育施設		日本糖尿病学会 認定教育施設

- 日本腎臟学会 研修施設
- 日本肝臓学会 認定施設
- 日本神経学会 教育施設
- 日本リウマチ学会 教育施設
- 日本臨床腫瘍学会 研修施設
- 日本消化器内視鏡学会 指導施設
- 日本消化管学会 胃腸科指導施設
- 日本呼吸器内視鏡学会 認定施設 日本呼吸療法医学会 研修施設
- 飯塚・頴田家庭医療プログラム
- 日本緩和医療学会 認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会 研修施設
- 日本不整脈学会・日本心電図学会認定 不整脈専門医研修施設
- 日本肝胆膵外科学会 高度技能専門医修練施設 A
- 日本胆道学会指導施設
- 日本がん治療医認定医機構 認定研修施設
- 日本透析医学会 認定施設
- 日本高血圧学会 認定施設
- 日本脳卒中学会 研修教育病院
- 日本臨床細胞学会 教育研修施設
- 日本東洋医学会 研修施設
- 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼動施設
- 日本栄養療法推進協議会 NST 稼動施設 など

32

認定基準	・初期臨床研修制度の基幹型研修指定病院である.
【整備基準 24】	・施設内に研修に必要な図書やインターネット環境が整備されている.
1) 専攻医の環境	・適切な労務環境が保証されている.
17 牙久区以永先	・メンタルストレスに適切に対処する部署がある。
	・ハラスメント相談窓口がある。
	・女性専攻医が安心して勤務できる更衣室などが配置されている.
	・敷地内に保育施設が利用可能である.
認定基準	・指導医が3名以上在籍している.
【整備基準 24】	・研修委員会がある.
	・医療倫理, 医療安全, 感染対策講習会を定期的に開催し, その受講のための時間的余裕を与えている.
ラムの環境	· CPC を定期的に開催し、その受講のための時間的余裕を与えている.
) LOOKE	・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、その受講のための時間的余裕を与えている.
	・JMECC を定期的に開催し、その受講のための時間的余裕を与えている.
	・施設実地調査に対応可能な体制がある.
認定基準	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 7 分野以上で定常的に専門研修が可能な症例数を診療してい
【整備基準 24】	a .
	・70 疾患群のうち 35 以上の疾患群について研修できる.
07 115 // // // // // // // // // // // // //	・専門施設に必要な剖検を適切に行っている.
和片甘油	
認定基準	・臨床研究が可能な環境が整っている。
【整備基準 24】	・倫理委員会が設置されている.
4) 学術活動の環境	・治験センターが設置されている.
	・日本内科学会地方会に年間で3演題以上の学会発表をしている.
指導責任者	・副院長:鴨志田敏郎
指導医数(常勤	· 指導医 18 名(総合内科専門医 14 名)
医)	11 等位 10 在(ND G F)/1 等 1 位 1年 在)
	Hattida see ta le a restricta anno ta le a successión de s
	・外来患者:455名/日、入院患者:189名/日 ※内科系診療科のみ
経験できる疾患群	·消化器内科,循環器内科,内分泌内科,代謝内科,腎臟内科,呼吸器内科,血液内科,
	神経内科
経験できる技術・	・消化器内科:豊富な症例数を背景とした、初診から画像・病理診断まで含めた消化器診断学を学べます。
技能	内視鏡センターを持ち消化管出血や胆道感染・黄疸に対する緊急内視鏡や診断内視鏡、治療内視鏡をスト
1000	レスなく多数経験できます。地域がんセンターに指定されており最新の抗がん剤治療を学べます。全国で
	70 箇所の肝疾患連携拠点病院のひとつであり最新の肝疾患診療を学び治療を経験できます。
	・循環器内科:虚血性心疾患、心不全および不整脈疾患などの救急対応,急性期治療(緊急冠動脈カテーテル
	治療,補助循環装置を用いた血液循環管理等)などを学ぶことができます,
	・代謝内分泌内科:各種内分泌負荷試験、術前・ステロイド使用時の血糖コントロールなどを学べます,
	・腎臓内科:腎生検、腎病理診断、AKI,CKD,生活習慣病診療、透析アクセス造影、PTA、手術、維持透析管
	理、腹膜透析導入(手術)、維持、急性血液浄化治療を学べます,
	・血液腫瘍内科:一般的な貧血から,白血病,リンパ腫などの悪性疾患,造血幹細胞移植まで幅広く学ぶこ
	とができます。化学療法の他、放射線療法も可能です。
	・呼吸器内科:重症例を含む急性疾患への対応、および胸部悪性腫瘍のスクリーニング、診断から内科的治
	療、緩和医療まで包括的に学ぶことができます。
	・神経内科:脳血管障害などの神経救急対応、急性期治療、神経難病の慢性期管理、リハビリテーションな
	どを学ぶことができます.
経験できる地域医	・3年間(内科・サブスペシャリティ混合タイプは 年間(内科・サブスペシャリティ混合タイプは 年間
療・診療連携	(内科・サブスペシャリティ混合タイプは 年間(内科・サブスペシャリティ混合タイプは 年間(内科・
	サブスペシャリティ混合タイプは 4年間)の研修中 年間)の研修中 1年間は基幹病院以外での研修を 年
	間は基幹病院以外での研修を 年間は基幹病院以外での研修を 年間は基幹病院以外での研修を 年間は基幹
	病院以外での研修を行う。
学会認定施設	・日本内科学会認定内科専門医教育病院,日本内科学会認定内科認定医教育病院,日本消化器病学会認定医
(内科系)	制度認定施設,日本肝臟学会認定施設,日本循環器学会認定循環器専門医研修施設,日本腎臟学会専門医
	制度研修施設,日本呼吸器学会認定施設,日本血液学会認定研修施設,日本神経学会認定准教育施設,日
	本消化器内視鏡学会認定指導施設,日本老年医学会認定専門医制度認定施設,日本臨床腫瘍学会認定施
	設、日本消化管学会胃腸科指導施設、日本心血管インターベンション治療学会認定施設、日本心血管イン
	ターベンション治療学会研修施設,日本透析医学会認定医制度教育関連施設,日本呼吸器内視鏡学会関連
	グーペンション信息子云妍修旭畝,日本透竹医子云祕疋医制度教育関理旭畝,日本呼吸碕竹悦螅子云関連
	クーペンション石原子云研修地設,日本透析医子云認定医制度教育関連地設,日本呼吸器的悦親子云関連

認定基準 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 【整備基準 24】 研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・公立陶生病院常勤嘱託医師として労務環境が保障されています. 1) 専攻医の環境 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(職員課)があります。また、メンタルへ ルスに関する相談窓口を設けています. ・ハラスメント対策委員会が整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、 当直室が整備されています. ・ 敷地内に院内保育所があり利用可能です. 認定基準 ・ 指導医が 27 名在籍しています。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹 【整備基準 24】 2) 専門研修プログ 施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ラムの環境 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2019年度実績2回)し, 専 攻医に受講を義務付け、そのために時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスに定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を 与えます. · CPC を定期的に開催(2019年度実績8回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための 時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのた めの時間的余裕を与えます. 認定基準 ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症 【整備基準 24】 例数を診療しています. 3)診療経験の環境 認定基準 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表(2019年度 【整備基準 24】 実績5演題)をしています. 4) 学術活動の環境 認定基準 近藤康博 【整備基準 24】 【内科専攻医へのメッセージ】 指導責任者 公立陶生病院は、最重症の内科救急を最先端医療で対応しドクターへリ患者搬送の受け入れも行う3次 救急病院であるとともに、慢性・難治性疾患にも対応し、がん診療拠点病院でもあります、内科における 13 領域すべての専門医と緩和ケア専従医が在籍し、豊富な症例数から、全領域において必要十分な内科専 門医としての修練が可能です. 代々培われた屋根瓦方式の研修が行われ, 熱い上級医の指導のもと, 各種 内科救急、慢性・難治性疾患、癌診療、緩和医療から在宅医療まで、内科医としての幅広い技量を身に着 けられます. Common disease から専門性の高い疾患の経験, subspecialty 研修まで個人のニーズに合った 幅広い研修と、院内研究会、国内・国際学会発表、論文作成に対してのアカデミック・サポートも充実し ています. 連携病院としての受け入れは、各個人の症例経験達成度も配慮し希望配属部署の調整が可能です。 指導医数 日本内科学会指導医 27 名,日本内科学会総合内科専門医 26 名, (常勤医) 日本消化器病学会消化器病専門医 7 名, 日本循環器学会循環器専門医 8 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 9 名, 日本アレルギー学会専門医(内科) 5 名, 日本血液学会血液専門医 3 名, 日本腎臓学会専門医 2 名, 日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名, 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 2 名, 日本神経学会神経内科専門医 4名, 日本肝臓学会肝臓専門医 1名, 日本感染症学会専門医 2 名, 日本救急医学会救急科専門医 2 名, ほか 外来·入院患者数 外来患者 1,554 名 (1 日平均) 入院患者 549 名 (1 日平均) 経験できる疾患群 きわめて稀な疾患を除いて、疾患群項目表にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができま 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験する 経験できる技術・ 技能 ことができます. 経験できる地域医 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できま 療・診療連携 学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 (内科系) 日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 22 日本リウマチ学会教育施設 日本東洋医学会研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設

- 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設
- 日本臨床腫瘍学会認定研修施設
- 日本腎臟学会研修施設
- 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院
- 日本がん治療認定医機構認定研修施設
- 浅大腿動脈ステントグラフト実施施設
- 日本緩和医療学会認定研修施設
- 日本血液学会認定血液研修施設
- 日本内分泌学会認定教育施設
- 日本糖尿病学会認定教育施設
- 日本認知症学会専門医制度認定教育施設
- 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設
- 日本カプセル内視鏡学会指導施設
- 日本膵臓学会指導施設

認定基準 ・内科専門医制度 基幹型臨床研修病院です。 【整備基準 24】 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 1) 専攻医の環境 ・埼玉医科大学総合医療センターとして労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに対処する部署があります ・ハラスメント委員会が設置されています ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、 シャワー室、当直室が整備されています ・敷地内に大学保育施設があり、利用可能です。 ・内科指導医が 45 名在籍しており研修委員会が設置されています。研修委員会は水戸協同病院のプログラ 認定基準 【整備基準 24】 ム管理委員会と連携を図ります。 2) 専門研修プロ ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催しており、専攻医には受講を義務付け時間的余裕を グラムの環境 与えます。 ・ 基幹施設の主催する研修施設群合同カンファレンスを 定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、その ための時間的余裕 を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型カンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えま す。 ・J-MECC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます(会場は埼玉医科 大学病院となります)。 ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療していま 認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 境 ・専門研修に必要な剖検(2020年度内科のみの実績は18体)を行っています。 認定基準 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で専攻医ひとりあたり計1演題以上の学会発表をしています。 【整備基準 24】 患者から学ぶという姿勢を基本とし、また evidence based medicine を基盤として広く知識を学習し、科学 4) 学術活動の環 |的な根拠に基づいた診断、治療を行います。最新の知識、技能を常にアップデートし、生涯を通して学び続 境 ける習慣を作ります。また、日頃の診療で得た疑問や発想を科学的に追及するため、国内外の学会における 症例報告あるいは研究発表を奨励します。論文の作成は科学的思考や病態に対する深い洞察力を磨くために 極めて重要なことであり、内外へ広く情報発信する姿勢も高く評価されます。 指導責任者 前嶋 明人 【病院紹介】 埼玉医科大学総合医療センターは、三次専門の高度救命救急センターと総合周産期母子医療センターを併 設し、大学病院として高度な医療を実践する一方で、地域密着型の病院として一次・二次の救急患者を多く 受け入れており、先進医療から Common Disease までさまざまな症例を経験することが可能です。 当院内科は9の専門領域(消化器、内分泌・糖尿病、血液、リウマチ・膠原病、心臓、呼吸器、腎・高血 圧、神経、総合内科)からなり、そのほとんどの内科専門領域を網羅しています。また、内科専門研修カリ キュラムに示す疾患群のほとんどをカバーしています。研修もこれら全ての科において実習が可能であり、 指導医も十分な人数、十分な指導体制のもと内科領域全般の研修ができます。各内科においては、その科の 代表的疾患の診断と治療・処置は必ず体験させるプログラムです。特に総合内科医に必要な救急医療は全国 でも有数な高度救命救急センターの中において十分に体験できます。大学病院でありながら医療センターの 形式をとっているので先端医療を行う大学病院の機能と、医療センターとしての一般的な疾患を含むあらゆ る疾患について診療ができる機能を備えております。 日本内科学会指導医数 45 人 指導医数(常勤 医) 外来・入院 患者 外来延患者:146,074名/年、 入院延患者:84,746名/年 数 経験できる疾患群 | 13 領域、70 疾患群の全てを経験可能です。 各内科においては、その科の代表的疾患の診断と治療・処置は概ね体験できます。 経験できる技術・ 技能 経験できる地域医 三次救急病院としての高度な医療、幅広い疾患を経験することが出来ます。 療・診療連携 学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 (内科系) 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会研修認定施設 日本脳神経学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 22 日本肝臓学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設

日本消化器内視鏡学会指導施設

25. 藤田医科大学病院

25. 藤田医科大学病院	7.
認定基準	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
【整備基準 24】	研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
1) 専攻医の環境	シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。
	メンタルストレスに適切に対処する部署(健康管理室)があります。
	ハラスメント委員会が整備されています。
	女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されていま
	す。 熱地中に陸中伊本式がも 10、 原用伊本、原外用伊本と会体利用式や本土
377 -1-++->//-	敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準	指導医が 54 名在籍しています。(下記)
【整備基準 24】	内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログ
2) 専門研修プログ	
ラムの環境	医療倫理・医療安全・感染対策に関する認定共通講習を開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間
	的余裕を与えます。
	研修施設群合同カンファレンスに定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与え
	ます。
	CPCを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2019 年度実績 14
	回)
	地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えま
	す。(2019 年度実績 20 回)
認定基準	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸
【整備基準 24】	器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療
3) 診療経験の環境	
認定基準	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしています。(2019年度実績25演
【整備基準 24】	題)
4) 学術活動の環境	
指導責任者	湯澤・由紀夫
担守其正石	
	藤田医科大学病院には13の内科系診療科(救急総合内科,循環器内科、呼吸器内科・アレルギー科、消化器
	床腫瘍科、脳神経内科、認知症・高齢診療科、感染症科)があり,内科領域全般の疾患が網羅できる体制が敷
	かれています。また、救急疾患は救命救急センター (NCU, CCU, 救命 ICU, GICU, ER, 災害外傷センター) および
	各診療科のサポートによって管理されており、大学病院、特定機能病院としての専門的高度先進医療から尾
	張東部医療圏の中核病院としての一般臨床、救急医療まで幅広い症例を経験することが可能です。院内では
	各科のカンファレンスも充実しており、またキャンサーボードなど多職種合同検討会やアレルギー研究会な
	ど科を越えた勉強会検討会も数多く実施しております。
指導医数	日本内科学会指導医 54名
(常勤医)	日本内科学会総合内科専門医 55 名
	日本消化器病学会消化器専門医 33 名
	日本循環器学会循環器専門医 15 名
	日本内分泌学会専門医 6名
	日本糖尿病学会専門医 8名
	日本腎臓病学会専門医 12名
	日本肖嶼州子云等门医 12 名
	日本血液学会血液専門医 12名
	日本神経学会神経内科専門医 6名
	日本アレルギー学会専門医(内科) 5名
	日本リウマチ学会専門医 13名
	日本感染症学会専門医 6名
	日本救急医学会救急科専門医 12名
外来・入院 患者数	外来患者 3,291.0名 (1日平均)、入院患者 1,314.4名 (2019年度1日平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することが
	できます。
奴除できて世海.	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験するこ
技能	とができます。
	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
療・診療連携	
<u> </u>	

学会認定施設	日本内科学会認定制度教育病院	
(内科系)	日本リウマチ学会教育施設	i
	日本感染症学会研修施設	i
	日本甲状腺学会認定専門医施設	i
	日本消化器病学会認定施設	i
	日本呼吸器学会認定施設	
	日本糖尿病学会認定教育施設	
	日本腎臓学会研修施設	i
	日本アレルギー学会認定教育施設	i
	日本消化器内視鏡学会認定指導施設	
	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設	i
	日本老年医学会認定施設	
	日本肝臓学会認定施設	i
	日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設	
	日本透析医学会専門医制度認定施設	
	日本血液学会認定研修施設	i
	日本神経学会専門医制度認定教育施設	i
	日本脳卒中学会認定研修教育病院	i
	日本呼吸器内視鏡学会認定施設	i
	日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設	1
	ICD/両室ペーシング植え込み認定施設	i
1		

日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 日本緩和医療学会認定研修施設

日本心血管インターベンション治療学会研修施設

26. [A北海道厚生連 帯広厚生病院

26. J A 北海道厚生連	帯広厚生病院
認定基準	・初期臨床研修制度の基幹型研修指定病院です.
1) 専攻医の環境	·研修に必要な 24 時間利用できる図書館とインターネット環境があります.
	・診療医としての労務環境が保障されています.
	・メンタルストレスに適切に対処できる産業医・産業保健師が常勤しています.
	・ハラスメント相談窓口が帯広厚生病院に整備されています.
	・女性専攻医が安心して勤務できる更衣室、当直室等が整備されています.
	・帯広厚生病院の保育所が利用できます.
認定基準	・指導医が 18 名在籍しています。
2) 専門研修プログラ	・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム
ムの環境	管理委員会と連携を図ります。
2107 A 3E	・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間
	的余裕を与えます。
	・研修施設群合同カンファレンスへ定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕
	を与えます.
	・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます.
	・地域参加型のカンファレンスへ定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を
	与えます。
認定基準	カリキュラムに示す内科領域全13分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
総足基準 3)診療経験の環境	ハノコムノムにかり r 1/11 原数土 10 カガ C 左前中川 (寺口) 11 形は 北 7 数 で 砂原 し C V ' まり・
	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表(2020年度実績2演題)をし
認定基準 4)学術活動の環境	
4) 子州石助の泉児 指導責任者	でいます. 研修委員長 保前 英希
拍导貝仕名	
	【内科専攻医へのメッセージ】
	帯広厚生病院は豊富な症例を有し、幅広い臨床経験を持つ指導医による適切な指導を受けられます。当
长, 英 庄 水	施設での研修は、地域の実情に合わせた医療を実践できる内科医を育成するものです。
指導医数	日本内科学会指導医 18 名,日本内科学会総合内科専門医 17 名
(常勤医)	日本消化器病学会専門医 10 名,日本肝臓学会専門医 1 名,
	日本循環器学会循環器専門医7名,日本内分泌学会専門医1名,
	日本糖尿病学会専門医2名,日本呼吸器学会専門医3名,日本血液学会専門医3名,
	日本神経学会専門医3名,日本アレルギー学会専門2名,
	日本リウマチ学会専門医3名
外来・入院患者数	外来患者 1,376名/日 (令和6年度実績) 入院患者 543名/日 (令和6年度実績) TKなどに (本中) *** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** *
経験できる疾患群	研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験す
能	ることができます。
経験できる地域医	急性期医療だけでなく、病診・病病連携なども経験できます.
療・診療連携	
学会認定施設	日本内科学会認定医制度教育病院
(内科系)	日本アレルギー学会認定施設
	日本がん治療認定施設
	日本肝臓学会認定施設
	日本呼吸器学会認定施設
	日本呼吸器内視鏡学会認定施設
	日本甲状腺学会認定施設
	日本循環器学会認定施設
	日本消化器病学会認定施設
	日本消化器内視鏡学会認定施設
	日本神経学会認定施設
	日本心血管インターベンション治療学会認定施設
	日本透析医学会認定施設
	日本糖尿病学会認定施設
	日本内分泌学会認定施設
	日本脳卒中学会認定施設
	日本リウマチ学会認定施設など

認定基準

【整備基準 23】

1) 専攻医の環境

- 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
- ·厚生労働省(東北厚生局)による臨床研修病院等実地調査を受け、改善が必要な点などについても確実に対応しています.
- ·福島県立医科大学会津医療センター附属病院非常勤病院助手として労務環境が保障されています.
- ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります.
- ・メンタルストレスに適切に対処する部署 (事務局総務課) があります.
- ・ハラスメント委員会が福島県立医科大学附属病院ハラスメント対策委員会傘下の部門として整備されています
- ·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています. また、男女共同参画研修も行われています.
- ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です.
- ・総括的評価を行う際,専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い,その内容は福島県立医科大学会津医療センター附属病院内科専門研修プログラム管理委員会に報告されますが,そこには労働時間,当直回数,給与など,労働条件についての内容が含まれ,適切に改善を図ります.

認定基準

【整備基準23】

2) 専門研修プログラムの環境

- ・指導医は18名在籍しています(下記).
- ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修プログラム管理委員会と研修教育センターを設置しています.
- ·内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者・プログラム管理者,副統括副責任者)にて,基幹施設および連携施設に設置されている各研修委員会との連携を図ります.
- ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医には受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ·CPC を定期的に開催し、専攻医には受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます.
- ·会津医療圏における地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医には受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます.
- ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます.なお、JMECC は当院での開催を基本としますが、連携施設での開催への出席も推奨します.
- ・日本専門医機構による施設実地調査に研修教育センターが対応します.

認定基準

【整備基準 23/31】

3)診療経験の環境

- ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 12 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
- ・70疾患群のうち、少なくても64以上の疾患群について研修できます.
- ·専門研修に必要な剖検(2015年度実績3体,2016年度3体)を行っています.

認定基準

【整備基準 23】

4) 学術活動の環境

- ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています.
- ·医学研究に関する倫理委員会は、福島県立医科大学として設置されており、定期的に開催(12回/年)しています.
- ・各種治験に関しては、福島県立医科大学治験センターのサポートを受けて実施することが可能です(2014-2016年には3件の臨床治験が実施されています).
- ・日本内科学会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています.

指導責任者

鶴谷善夫 (統括責任者、医監兼副病院長、循環器內科学講座教授)

【内科、専攻医へのメッセージ】

福島県立医科大学会津医療センター附属病院は福島県会津医療圏の地域医療を担う中核的病院であり、福島県会津医療圏を中心に近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設と相互協力することで、急性期から地域医療、東洋医学および緩和ケアにおける終末期医療まで含む幅広い内科専門研修を経て人間性豊かな優れた医療人の育成を行います。これまで新しい地域医療の創造に貢献してきた実績と未曾有の大震災および原発事故の経験を踏まえ、臨床経験豊かな多くの指導医のもとで患者一人ひとりのニーズと地域社会のニーズに応え、社会から信頼される医療安全を基盤に、標準的かつ全人的な内科診療の実践に必要な知識・技能の獲得に加えて、福島県の医療事情を理解し地域の実情に合わせた実践的な医療も行える研修を当院独自のプログラムで行います。当院での内科専門研修を歓迎します。

指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 18 名,日本内科学会総合内科専門医 16 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名,日本循環器学会循環器専門医 5 名, 日本内分泌学会専門医 1 名,日本糖尿病学会専門医 2 名,日本腎臓病学会専門医 1 名,日本呼 吸器学会呼吸器専門医 1 名,日本血液学会血液専門医 2 名, 日本神経学会神経内科専門医 1 名,日本アレルギー学会専門医 1 名、日本不整脈心電学会不整 脈専門医 2 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者数 290.3 人 (内科系1日平均) 入院患者数 2,440 人 (内科系年間)
経験できる疾患群	稀な疾患を除いて,研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域,56 疾患群, 160 症例以上は幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・ 診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設(内科系)	 日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本東洋医学会指定研修施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度認定指導施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本感染症学会研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本大腸肛門病学会認定施設 日本方勝肛門病学会認定施設 日本透析医学会教育関連認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本不整脈心電学会認定施設 日本不整脈心電学会認定が設 日本不整脈心電学会認定が施設 日本力プセル内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本病態栄養学会認定栄養管理・指導実施施設 日本動脈硬化学会教育認定施設 日本動脈硬化学会教育認定施設 日本腎臓学会認定研修施設

認定基準	• 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です.
【整備基準 24】	• 研修に必要な図書館とインターネット環境があります.
1)専攻医の環境	• 筑波メディカルセンター常勤医師として労務環境が保障されています.
	• メンタルストレスに適切に対処する健康管理室があります.
	• 女性専攻医が安心して勤務できるように,休憩室,更衣室,仮眠室,シャワー室,当直室が整備されています.
	• 敷地外に院内保育所があり、利用可能です.
認定基準	指導医は 16名在籍しています.
	内科専門医プログラム研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設、連携施設に設置
	されている研修委員会との連携を図ります。
7 4 1 4 7 1 1 2 1 1	医療倫理·医療安全·感染対策講習会を定期的に開催(2024年度実績 23 回)し, 専攻医に受講を義務付け, そのため
	の時間的余裕を与えます。
	研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し,専攻医に受講を義務付け,そのための時間的余裕を与えます.
	CPCを定期的に開催(2024年度内科系:実績 6 回)し,専攻医に受講を義務付け,そのための時間的余裕を与えます.
	地域参加型カンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます.
認定基準	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち,総合内科,消化器,循環器,呼吸器,感染症,神経,アレルギーおよび
	*ガッキュノムにホッドが特徴域 13 万野の力ら、総古どが、同じ盆、循環盆、呼吸盆、燃柴症、神経、ブレルギーねよび 救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
【整備基準 24】	
3)診療経験の環境	·専門研修に必要な剖検(2024年度 8体 2023年度 5体)を行っています.
認定基準	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表を予定しています(2024年度実績1演
【整備基準 24】	題).
4)学術活動の環境	
指導責任者	仁科 秀崇
	【内科専攻医へのメッセージ】仁科 秀崇 循環器内科 副院長 統括責任者
	筑波メディカルセンター病院は茨城県の県南地域の 3 次救急救命センターを併設する急性期病院・地域がん診療連
	携拠点病院であり基幹病院としてプログラムを運営しています.
	筑波大学附属病院・東京医療センター・水戸協同病院・墨東病院・昭和大学を基幹施設とする内科専門研修プログラ
	ムの連携施設として内科専門研修を行い,臨床・研究を含めた次のステップに進むことのできる内科専門医の育成を行
	vist.
指導医数	日本内科学会指導医 16 名,日本内科学会総合内科専門医 11 名,日本消化器病学会消化器専門医 1 名,日本
(常勤医)	循環器学会循環器専門医5名,日本呼吸器学会呼吸器専門医4名,日本神経学会神経内科専門医1名,日本
	肝臓学会専門医2名,日本腎臓内科学会専門医1名,日本内分泌学会内分泌代謝科(内科)専門医1名,日本
	感染症学会専門医1名,日本アレルギー学会専門医(内科)3名,日本老年医学会老年病専門医1名,日本救急 医学会救急科専門医3名,日本緩和医療学会専門医1名 他
	医子云视忌性导门医 3 名,日本被相医原子云导门医 1 名 他 ———————————————————————————————————
外来•入院患者数	外来:内科年間外来患者数 51,559 人(222.6 人/日)
	入院:内科年間入院患者数 4,482 人(141 人/日)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて,研修手帳(疾患群項目表)にある 12 領域,63 疾患群の症例を幅広く経験することができ
	ます.
経験できる技術・	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を,実際の症例に基づきながら幅広く経験することができ
技能	tot.
経験できる地域	一般急性期医療,ドクターへリを含む3次救急医療,がん診療などの分野を中心にして病診連携,病病連携を経験する
医療•診療連携	ことができます.急性期医療だけでなく,超高齢社会に対応した地域に根ざした医療,病診・病病連携なども経験できま
	す。
W. A 277	日本内科学会認定医制度教育病院日本呼吸器学会認定施設
学会認定施設	The state of the s
(内科系)	日本アレルギー学会認定教育施設
	日本感染症科学会認定研修施設
	日本臨床腫瘍学会認定研修施設
	日本消化器病学会認定施設
	日本肝臓学会認定施設
	日本消化器内視鏡学会指導施設日本胆道学会指導施設
	日本肝臓学会認定施設
	日本がん治療学会暫定認定施設
	日本がん治療認定医機構認定研修施設日本救急医学会救急科専門医指定施設
	日本脳卒中学会認定施設・認定研修教育病院日本糖尿病学会認定教育施設
	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設日本東洋医学会研修施設
	日本神経学会教育施設
	日本腎臓学会認定施設・研修認定施設日本透析医学会認定施設
	日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設日本高血圧学会認定施設
	日本脈管学会研修関連施設
	腹部救急認定医・教育医制度認定施設など

29. 東京ベイ・浦安市川医療センター 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. 研修に必要な図書室とインターネット環境があります. 認定基準 【整備 ・東京ベイ・浦安市川医療センター専攻医として労務環境が保障されています。 基準 23】 1)専 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(総務課職員担当)があります. ・ハラスメント委員会が東京ベイ・浦安市川医療センターに整備されています。 攻医の環境 ·女性専攻医が安心して勤務できるように,休憩室,更衣室,仮眠室,シャワー室,当直室が整備されています. 職員用保育所があり,利用可能です. ・指導医は44名在籍しています。 ·内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(ともに総合内科専門医かつ指導医)にて,基幹施設,連携施設 に設置されている研修委員会との連携を図ります. ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する研修委員会と医師・研修管理室を設置しています. 医療倫理 • 医療安全 ・感染対策講習会を定期的に開催 (2022 年度実績 8 回) し,専攻医に受講を義務付け,そのための時間的余裕を 認定基準 与えます. 【整備基準 23】 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催(2022 年度実績 2 回) し,専攻医に受講を義務付け,そのための 2) 専門研修プロ 時間的余裕を与えます. グラ ムの環境 ·CPC を定期的に開催し(2022 年度実績 4 回),専攻医に受講を義務付け,そのための 時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンス(地域医療講演会,ミニ循環器学会,救急プレホスピタル勉強会,消化器病カンフ ァレンス等)を定期的に開催し,専攻医 に受講を義務付け,そのための時間的余裕を与えます. ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(2022 年度 1 回:受講者 14名)を義務付け,そのための時間的余 裕を与えます. ・日本専門医機構による施設実地調査に医師・研修管理室が対応します。 ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくても 7 分野以上)で定常的に専門研修が可能な症 認定基準 【整備 例数を診療しています. 基準 23/31】 3) ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 35 以上の疾患群)について研修できます。·専門研修に必要な剖検 診療経験の環境 平均 10 体を行っています. ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 認定基準 【整備 倫理審査委員会を設置し,定期的に開催(2022年度実績12回、審査95件)しています. 基準 23】 4)学 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 5 演題以上の学会発表(2022 年 度実績 13 演題)をしていま 術活動の環境 江原 淳 【内科専攻医へのメッセージ】 東京ベイ・浦安市川医療センターは千葉県東葛南部地区の中心的な急性期病院 です. 年間救急搬送受け入れ台数は千葉県内でもトップレベルであり、豊富な急性期疾患かつ市中病院ならでは のコモンディジーズを幅広く経験できます. 患者層も若年から超高齢者まで幅広く様々です. 当センターでは総合 指導責任者 内科チームが全ての内科系入院症例を担当し、症例ごとに各専門科がコンサルタントとしてチームに加わる体制 をとっています。初期・後期・若手指導医の屋根瓦式の教育体制に加え、さらに各チームにそれぞれ総合内科指 導医と各専門科指導医が並列で加わる 2 人指導医体制により、幅広い視野と深い考察という非常にバランスの 取れた指導を受けることができます.またこの体制により総合内科ローテートでも各科サブスペシャリティ研修 と比較して遜色のない、十分な症例経験が可能です。また専門科研修では更にサブスペシャリティに特化した研 修(手技やコンサルト業務等)を行います。 設立当初から幅広く質の高い内科研修を行うことを目的に構築され た、自信を持ってお勧めできる研修体制です。皆様のご応募をお待ちしております。 日本内科学会指導医44名,日本内科学会総合内科専門医19名,日本循環器学会循環器専門医12名,日本心血管 指導医数(常勤 インターベンション治療学会専門医 5 名,日本消化器病学会専門医 6 名,日本消化器内視鏡学会専門医 5 名,日 本消化管学会専門医3名,日本呼吸器学会呼吸器専門医2名,日本腎臓学会専門医6名,日本透析医学会専門医 医) 3名,日本救急医学会救急科専門医 11名,日本集中治療医学会専門医 5名,日本リウマチ学会専門医 2名,日 本感染症学会専門医1名 ほか 外来・入院患者 144,244 名 (年間) 入院患者 101,486 名 (延人数) 数 経験できる疾患 きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することが 群 経験できる技 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することが 術・技 能 できます.』 経験できる地域 急性期医療だけでなく,超高齢社会に対応した地域に根ざした医療,病診・病病連携な ども経験できます.。 医 療・診療連携 日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会 認定循環器専門医研修施設 日本心血管インタ^{_22}ヾンション治療学会研修施設 日本不整脈心電学会不整脈専門 学会認定施設 研修施設 日本透析医学会専門医制度教育関連施設 日本腎臓学会研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定 (内科系)

施設 日本集中治療医学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本感染症学会研修施設 日本緩和医療学会

研修施設 日本病院総合診療医学会認定施設など』

30. 鹿児島県立大島病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専門医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境がある. ・地方公務員(県立病院職員)もしくは会計年度任用職員として労務環境が保障されている.
	・地方公務員(県立病院職員)もしくは会計年度任用職員として労務環境が保障されている.
1)専門医の環境 	
	・メンタルストレスに適切に対処する部署(総務課職員担当)がある.
	・監査・コンプライアンス室が鹿児島県立病院局に整備されている.
	・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されてい
	る.
	・敷地内に院内保育所があり、利用可能である
認定基準	・指導医が4名(内科系診療科部長)在籍しています.
【整備基準 23】	・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置され
2)専門研修プログラムの	るプログラム管理委員会と連携を図る.
環境	・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時
	間的余裕を与える.
	・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余
	裕を与える.
	・地域参加型のカンファレンス等を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余
	裕を与える.
認定基準	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、呼吸器、
【整備基準 23/31】	血液、神経、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している.
3)診療経験の環境	milk, Triet, 心水血のある January
認定基準	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしている
【整備基準 23】	
4)学術活動の環境	
指導責任者	森田喜紀(総合診療科部長)
指導医数(常勤医)	4名(内科系診療科の部長/総合診療科・循環器内科・消化器内科・脳神経内科)
外来·入院患者数	外来患者 309 名(1 日平均) 入院患者 213 名(1 日平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を含めて,研修手帳(疾患群項目表)にある 9 領域,39 疾患群の症例を幅広く
	経験することができる.
経験できる技術・技能	技術・機能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経
	験することができる. 特に循環器領域においては、より高度な専門技術も習得することができる
経験できる地域医療・診	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した、地域に根ざした医療、病診・病院連携などを経験
療連携	できる
	日本内科学会認定医制度教育関連病院
学会認定施設	日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設
学会認定施設 (内科系)	
	日本消化器病学会認定施設
	日本消化器病学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設
	日本がん治療認定医機構認定研修施設
指導医数(常勤医) 外来・入院患者数 経験できる疾患群 経験できる技術・技能 経験できる地域医療・診	4名(内科系診療科の部長/総合診療科・循環器内科・消化器内科・脳神経内科) 外来患者 309名(1日平均) 入院患者 213名(1日平均) きわめて稀な疾患を含めて、研修手帳(疾患群項目表)にある 9 領域、39 疾患群の症例を幅広く 経験することができる. 技術・機能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経 験することができる.特に循環器領域においては、より高度な専門技術も習得することができる 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した、地域に根ざした医療、病診・病院連携などを経験 できる 日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設

31. HITO 病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専門医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(総務人事課担当)があります。 ・ハラスメント委員会が総務人事課に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの 環境	指導医は5名在籍しています。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 9 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表 (2019 年度実績5 演題) をしています。
指導責任者	伊藤 彰 【内科専攻医へのメッセージ】 HITO 病院は愛媛県東部の宇摩医療圏で最も多くの救急患者を受け入れしている急性期病院であり、 第一線の臨床の場で研修が可能です。
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医5名、日本内科学会総合内科専門医10名 日本消化器病学会消化器専門医6名、日本肝臓病学会専門医2名 日本循環器学会循環器専門医2名、日本糖尿病学会専門医2名、 日本内分泌学会専門医0名、日本腎臓病学会専門医0名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医0名、日本血液学会血液専門医0名、 日本神経学会神経内科専門医2名、日本アレルギー学会専門医(内科)0名、 日本リウマチ学会専門医0名、日本感染症学会専門医0名、 日本救急医学会救急科専門医1名
外来·入院患者数	外来患者 44.0 (平均/日) 入院患者 25.4 名 (平均/日) 2024 年度
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、「研修手帳(疾患群項目表)」にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	「技術・技能評価手帳」にある内科専門医に必要な技術・技能を,実際の症例に基づきながら幅広 く経験すると共に、地域における多職種協働の高齢者医療をチームで実践します。
経験できる地域医療・診 療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます. 特に DX に強みを持ち、新しいコミュニケーションのツールを使って、これらを経管できます。
学会認定施設 (内科系)	総合診療専門研修基幹施設 日本内科専門研修基幹施設 日本内科等門研修基幹施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会関連施設 日本循環器学会研修関連施設 日本框道学会指導施設 日本膵臓学会認定指導施設 日本膵臓学会認定指導施設 日本膵臓学会認定が修施設 日本接和医療学会認定研修施設 日本緩和医療学会認定が修施設 日本病院総合診療医学会認定施設 プライマリ・ケア連合学会(新・家庭医療専門研修プログラム) 日本病院会 病院総合医育成プログラム認定施 など

32. 伊東市民病院

認定基準	研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
1) 専攻医の環境	当直室の各部屋にはテレビ、冷蔵庫、ユニットバス完備。
	その他に、休憩室、更衣室、トレーニングルームを整備しています。
	敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
	院内に職員用の大浴場(源泉かけ流し)を完備しており、利用可能です。
認定基準	伊東市民病院は救急医療の充実とそれを支える各診療機能の連携を通して、伊東市ならびに
2) 専門研修プログラ	伊豆東海岸の急性期医療を担う病院として機能を高めてきました。更に地域医療振興協会関連
ムの環境	の6診療所、1病院と連携して伊豆半島の包括的医療について関わりたいと努力しておりま
	す。臨床研修ではそういった背景の中で総合的・実践的な診療の力を身につけたい方のための
	研修プログラムを実施して、地域医療で活躍できる人材の育成に力を注いでいます。
	内科は現在循環器内科と消化器内科が独立していますが、呼吸器内科、リウマチ内科、神経
	内科、内分泌内科を含め、総合内科として包括的な診療を基本としております。救急診療は年
	間 7, 263 件、救急車搬入件数年間 3, 856 件、CPA 受入数年間 109 件と、所謂"2. 5 次医療機関"
	として多種多様な疾患に対応しています。CPC を隔月で開催して、他、多職種を交えた総合カ
	ンファレンス、毎日の臨床検討会・勉強会を実施しています。
認定基準	総合内科、消化器、循環器、呼吸器、膠原病及び類縁疾患の分野で定常的に専門研修が可能な
3)診療経験の環境	症例数を診療しています。
認定基準	日本内科学会講演会ならびに、日本プライマリ・ケア連合学会学術大会での学会発表を不定期
4) 学術活動の環境	に行っております。
指導責任者	 飯笹 泰蔵
10.17.1.	
指導医数 (常勤医)	日本内科学会認定医7名、日本内科学会総合内科専門医2名、日本消化器病学会消化器専門医
	2 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、日本リウマチ学
	会リウマチ専門医1名
外来・入院患者数	外来患者 119,716名/年間延数 入院患者 71,750名/年間延数
経験できる疾患群	13 領域のうち、11 領域 37 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・	13 領域・70 疾患群のうち、研修医手帳に記載のある各疾患群に対応した技術・技能を実際の症
技能	例に基づきながら経験することができます。
経験できる	市内唯一の急性期病院であり、地域の医療・介護・福祉施設との連携を行いながら救急・入院
地域医療・診療連携	治療・リハビリ・退院支援までの一連の流れを経験できます。
× ∧ == ++++===	現在は地域医療支援病院を目指し、病診連携・病病連携にも力を入れています。
学会認定施設	日本内科学会認定制度教育関連病院
(内科系)	日本消化器病学会関連病院
	日本リウマチ学会教育施設
	日本プライマリ・ケア連合学会認定病院

認定基準	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
【整備基準 24】	·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
1)専攻医の環境	・常勤医師として労務環境が保障されています。
	・メンタルストレス・ハラスメントに適切に対処する部署(総務課)があります。
	・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室
	が整備されています。
	・敷地内に院内保育所および病児・病後児保育所があり、利用可能です。
認定基準	・指導医は19名在籍しています。
【整備基準 24】	・内科専門研修プログラム管理委員会を設置して、基幹施設、連携施設に設置されている研
2)専門研修プログラム	修委員会との連携を図ります。
の環境	・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。
	・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、その
	ための時間的余裕を与えます。
	・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための
	時間的余裕を与えます。
	·CPC を定期的に開催(2022 年度実績 11 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間
	的余裕を与えます。
	・地域参加型のカンファレンス(庄内医師集談会、庄内地域医療情報ネットワーク研究大
	会、日本海総合病院循環器連携セミナー、日本海総合病院CPC等)を定期的に開催し、専
	攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
	·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(2022 年度開催実績 1 回:受講者 6 名)を義
	務付け、そのための時間的余裕を与えます。
	・日本専門医機構による施設実地調査に対応します。
	・特別連携施設の専門研修では、電話や週1回の日本海総合病院での面談・カンファレンスな
	どにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくても 7 分野以上)で定常的に専
【整備基準 24】	門研修が可能な症例数を診療しています(上記)。
3)診療経験の環境	・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 35 以上の疾患群)について研修できます(上
	記)。
	·専門研修に必要な剖検(2020 年度 6 体、2021 年度 9 体)を行っています。
認定基準	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。
【整備基準 24】	・倫理委員会を設置し、定期的に開催(2022年度実績6回)しています。
4)学術活動の環境	・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催(随時開催)しています。
	・日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表をしています。
	(2021 年度実績:日本内科学会 6、内科系学会 8、初期研修医と内科専攻医が筆頭演者の発
	表数 5)
指導責任者	鈴木 義広
	【内科専攻医へのメッセージ】
	日本海総合病院は山形県庄内地区の中核をなす、旧県立・市立病院が統合再編して発足した
	病床数 630 床の急性期病院です。北庄内の急性期医療をほとんど一手に引き受けているた
	め、症例数は膨大であり、内科各領域の多くの疾患を経験できます。外来も経験することに
	より、鑑別診断から治療まで主治医として関わることができます。また高齢者が特に多い地
	域でもあり、地域連携も充実しており、シームレスな病病連携、病診連携も学ぶことができ
Harris and the	ます。
指導医数	日本内科学会指導医 25 名、日本内科学会総合内科専門医 19 名
(常勤医)	日本消化器病学会消化器病専門医5名、日本循環器学会循環器専門医7名、
	日本糖尿病学会糖尿病専門医1名、日本腎臓学会腎臓専門医1名、
	日本呼吸器学会呼吸器専門医4名、日本血液学会血液専門医2名、
	日本神経学会神経内科専門医1名、日本リウマチ学会リウマチ専門医3名、
	日本救急医学会救急科専門医2名、日本透析医学会透析専門医1名
	日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医5名、
	日本心血管インターベンション治療学会心血管インターベンション治療専門医 4 名、日本肝
	臓学会肝臓専門医2名、日本超音波医学会認定超音波専門医2名
公野ペキッボ中型	日本不整脈心電学会認定不整脈専門医2名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を
◇▽ E◇ → マ ナーバー ・ エエハー	幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅
勿除マキュルは中で	広く経験することができます。 22
経験できる地域医療・	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども
診療連携	経験できます。
学会認定施設	日本内科学会専門医制度研修プログラム(内科領域)基幹施設

(内科系)	日本呼吸器学会専門医制度呼吸器専門研修プログラム連携施設
	日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設
	日本腎臓学会研修施設
	日本透析医学会専門医制度認定施設
	日本リウマチ学会教育施設
	日本消化器病学会専門医制度認定施設
	日本消化器内視鏡学会指導施設
	日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設
	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
	経皮的僧帽弁接合不全修復システム実施施設
	日本心血管インターベンション治療学会研修施設
	日本精神神経学会専門医研修施設
	日本神経学会専門医制度准教育施設
	日本がん治療認定医機構認定研修施設 等

認定基準	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
心 上左手	・研修に必要な図書室と院内Wi-Fi を用いたインターネット環境があります。
【整備基準 24】	・耳原総合病院常勤医師として労務環境が保障されています。
	・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。(法人中央労働安全衛生委員
1) 専攻医の環境	会)
	・ハラスメント委員会が同仁会本部に整備されています。(法人セクハラ委員会)
	・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、 当直室が整備されています。
	・敷地に近接して院内保育所があり、利用可能です。(月曜~日曜まで対応)
認定基準	・指導医は15名在籍しています。
	・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者:総合内科専門医かつ指導医)に
【整備基準 24】	て、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。
2) 専門研修プログラムの環境	・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研 修センターを設置します。
2)専門伽修プログプムの環境	・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付
	け、そのための時間的余裕を与えます。
	・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、その
	ための時間的余裕を与えます。
	·CPC を定期的に開催(2024年度実績5回)し、専攻医に受講を義務付け、そのため
	の時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのた
	めの時間的余裕を与えます。
	・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講 (2025 年度開催) を義務付け、そのた
	めの時間的余裕を与えます。
	・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
	・特別連携施設の専門研修では、電話や耳原総合病院での面談・カンファレンスなど
認定基準	により指導医がその施設での研修指導を行います。 ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくても7分野以上)で定
的化基中	常的に専門研修が可能な症例数を診療しています(上記)。
【整備基準 24】	・70 疾患群のうちほぼ全疾患群 (少なくても35以上の疾患群) について研修できます
	(上記)。
3)診療経験の環境	・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催(2025 年度実績 12 回)しています。
【整備基準 24】	・学術委員会を設置し、年報、医報の発行を行います。
	・すでにリサーチに取り組んでいる部署のひとつとして、HPH 委員会があり、
4) 学術活動の環境	2014, 2015, 2016, 2017, 2018, 2019、2024 年連続して国際 HPH カンファレンスでの発表
	を行っています。
	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計6演題以上(2024年度実績7演題)の学会発表をしています。
指導責任者	川口真弓
指導医など (常勤医)	日本内科学会指導医 15 名、日本内科学会総合内科専門医 10 名
(2023年4月現在)	日本消化器病学会専門医3名(指導医1名)
	EVINDOM VI 1 7 VI 15 O. 1 (11 45 5 7 1)
	日本循環器学会専門医5名(指導医3名)
	日本循環器学会専門医5名(指導医3名) 日本インターベンション学会専門医1名
	日本循環器学会専門医 5 名(指導医 3 名) 日本インターベンション学会専門医 1 名 日本糖尿病学会専門医 1 名(指導医 1 名)
	日本循環器学会専門医5名(指導医3名) 日本インターベンション学会専門医1名 日本糖尿病学会専門医1名(指導医1名) 日本腎臓病学会専門医2名(指導医2名)
外来・入院患者数 (年間)	日本循環器学会専門医 5 名(指導医 3 名) 日本インターベンション学会専門医 1 名 日本糖尿病学会専門医 1 名(指導医 1 名)
外来・入院患者数 (年間) (2022 年度実績)	日本循環器学会専門医5名(指導医3名) 日本インターベンション学会専門医1名 日本糖尿病学会専門医1名(指導医1名) 日本腎臓病学会専門医2名(指導医2名) 日本透析学会専門医1名ほか
	日本循環器学会専門医5名(指導医3名) 日本インターベンション学会専門医1名 日本糖尿病学会専門医1名(指導医1名) 日本腎臓病学会専門医2名(指導医2名) 日本透析学会専門医1名ほか 外来患者11,166名(平均延数/月)入院患者11,028名(平均数/月 きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の
(2022年度実績)	日本循環器学会専門医 5 名(指導医 3 名) 日本インターベンション学会専門医 1 名 日本糖尿病学会専門医 1 名(指導医 1 名) 日本腎臓病学会専門医 2 名(指導医 2 名) 日本透析学会専門医 1 名ほか 外来患者 11,166 名(平均延数/月)入院患者 11,028 名(平均数/月
(2022年度実績)	日本循環器学会専門医 5 名 (指導医 3 名) 日本インターベンション学会専門医 1 名 日本糖尿病学会専門医 1 名 (指導医 1 名) 日本愛析学会専門医 2 名 (指導医 2 名) 日本透析学会専門医 1 名ほか 外来患者 11,166 名 (平均延数/月) 入院患者 11,028 名 (平均数/月 きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきな
(2022 年度実績) 経験できる疾患群 経験できる技術・技能	日本循環器学会専門医5名(指導医3名) 日本インターベンション学会専門医1名 日本糖尿病学会専門医1名(指導医1名) 日本腎臓病学会専門医2名(指導医2名) 日本透析学会専門医1名ほか 外来患者11,166名(平均延数/月)入院患者11,028名(平均数/月 きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
(2022 年度実績) 経験できる疾患群	日本循環器学会専門医5名(指導医3名) 日本インターベンション学会専門医1名 日本糖尿病学会専門医1名(指導医1名) 日本腎臓病学会専門医2名(指導医2名) 日本透析学会専門医1名ほか 外来患者11,166名(平均延数/月)入院患者11,028名(平均数/月 きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携
(2022 年度実績) 経験できる疾患群 経験できる技術・技能	日本循環器学会専門医5名(指導医3名) 日本インターベンション学会専門医1名 日本糖尿病学会専門医1名(指導医1名) 日本腎臓病学会専門医2名(指導医2名) 日本透析学会専門医1名ほか 外来患者11,166名(平均延数/月)入院患者11,028名(平均数/月 きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
(2022 年度実績) 経験できる疾患群 経験できる技術・技能 経験できる地域医療・診療連携	日本循環器学会専門医 5 名 (指導医 3 名) 日本インターベンション学会専門医 1 名 日本糖尿病学会専門医 1 名 (指導医 1 名) 日本透析学会専門医 2 名 (指導医 2 名) 日本透析学会専門医 1 名ほか 外来患者 11,166 名 (平均延数/月) 入院患者 11,028 名 (平均数/月 きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます
(2022 年度実績) 経験できる疾患群 経験できる技術・技能 経験できる地域医療・診療連携 学会認定施設	日本循環器学会専門医 5 名 (指導医 3 名) 日本インターベンション学会専門医 1 名 日本糖尿病学会専門医 1 名 (指導医 1 名) 日本透析学会専門医 1 名ほか 外来患者 11,166 名 (平均延数/月) 入院患者 11,028 名 (平均数/月 きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます
(2022 年度実績) 経験できる疾患群 経験できる技術・技能 経験できる地域医療・診療連携	日本循環器学会専門医 5 名 (指導医 3 名) 日本インターベンション学会専門医 1 名 日本糖尿病学会専門医 1 名 (指導医 1 名) 日本透析学会専門医 2 名 (指導医 2 名) 日本透析学会専門医 1 名ほか 外来患者 11,166 名 (平均延数/月) 入院患者 11,028 名 (平均数/月 きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます

日本腎臓学会研修施設
日本消化器内視鏡学会指導施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本糖尿病学会認定教育施設 など

認定基準 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 【整備基準 24】 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 1) 専攻医の環境 ・適切な労働環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(安全衛生管理室)があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室等が整備されてい ます。 ・敷地内に院内保育所が設置されています。また、育児、介護における短時間勤務制度及び看護、介 護休暇を導入しております。 認定基準 ・指導医は88名在籍しています。 【整備基準24】 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置され るプログラム管理委員会と連携を図ります。 2) 専門研修プロ ・研修施設群合同カンファレンス (2025 年度予定)を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そ グラムの環境 のための時間的余裕を与えます。 · CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療してい 認定基準 【整備基準24】 ます。 3) 診療経験の環 境 認定基準 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしています。 【整備基準24】 4) 学術活動の 環境 大月 道夫 指導責任者 【内科専攻医へのメッセージ】 東京女子医科大学病院の大きな特徴は高度先進医療を担う診療科が揃っており、充実した診療科と優 秀な指導医による研修システムが可能なことです。外来、入院患者数および手術件数等は国内トップ クラスであり、他の医療施設では経験できないような臨床症例も多く、診療および研究能力を高める ためには最高の研修病院であります。 より良い研修を行えるよう、スタッフ一同努力しています。誠実で慈しむ心を持ち、意欲に満ちた若 い人たちを心よりお待ちしております。 日本内科学会指導医 88 名、日本内科学会認定内科医 103 名、日本内科学会総合内科専門医 79 名、日 指導医数(常勤 本消化器病学会消化器専門医 19 名、日本肝臓学会専門医 6 名、日本循環器学会循環器専門医 36 名、 医) 日本内分泌学会専門医 7 名、日本糖尿病学会専門医 16 名、日本腎臟学会専門医 7 名、日本呼吸器学会 呼吸器専門医7名、日本血液学会血液専門医10名、日本神経学会専門医10名、日本アレルギー学会 専門医(内科)5 名、日本リウマチ学会専門医 14 名、日本感染症学会専門医 2 名 外来患者 2,736 名/日 (2024 年度) 外来・入院患 入院患者 582.6 名/日 (2024 年度) 者数 研修手帳(疾患群項目表)にある全領域、すべての疾患群を経験することができます。 経験できる疾 患群 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験 経験できる技 することができます。 術・技能 Subspecialty 分野に支えられた高度な急性期医療、多岐にわたる疾患群の診療を経験し、地域の実情 経験できる地域 に応じたコモンディジーズに対する診療を経験することができます。 医療 • 診療 連携 日本内科学会内科領域専門研修プログラム認定施設、日本消化器病学会認定施設、日本呼吸器学会認 学会認定施設 定施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本腎臓学会認定教育施設、日本アレルギー学会教育研修施 (内科系) 設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本循環器学会専門医研修施設、日本血液学会専門研修認定施 設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本肝臓学会認定施設、日本感染症学会研修施設、日本神経学会 教育施設、日本高血圧学会研修施設、日本緩和医療学会専門医研修連携施設、日本リウマチ学会専門 医教育施設、日本病理学会研修認定施設 B、日本救急医学会救急科領域専門研修プログラム認定施 設、日本がん治療認定医機構認定研修施設 他 22

36. 順天堂大学医学部附属順天堂医院 認定基準 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. 【整備基準 24】 研修に必要な図書室とインターネット環境があります. 当院就業規則として労務環境が保障されています. 1) 専攻医の環境 メンタルストレスに適切に対処する部署(本郷・お茶の水キャンパス健康管理室)があります. ハラスメントの対応とし、「本郷・御茶ノ水キャンパス ハラスメント相談窓口」として人事課、健康 管理室の2つの窓口を設置しています. 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています. 敷地内に院内保育所が用意されています. 認定基準 内科学会指導医は218名在籍しています. 【整備基準 24】 施設として全領域の専門研修委員会が設置されているほか、内科は、内科統括責任者を中心とした 2) 専門研修プロ 内科専門研修プログラム管理委員会およびプログラム管理者(内科領域教授、総合内科専門医・各 グラムの環境 領域指導医より構成)を中心に専門医研修プログラムの各種小委員会が設置しています. さらに、基 幹施設、違携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修管理委員会を 設置します. 病院医療倫理委員会(11 回)・医療安全管理委員会(17 回)・感染対策講習会(2 回)医療にかかわる安 全管理のための職員研修(20回)を定期的に開催(2024年度実績)し、専攻医に受講を義務付け、その ための時間的余裕を与えます. 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、専攻医に受講を義務付 け, そのための時間的余裕を与えます. 病院 CPC(年間実績4回) を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与 えます. 各内科における地域参加型のカンファレンス・地域講演会のほか、順天堂医学会学術集会(2024 年 度実績年2回) 医師会医学会等を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕 を与えます. プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(2024 年度開催実績 10 回:受講者 59 名)を受講する 機会を与えており、そのための時間的余裕を与えます. 日本専門医機構による施設実地調査については、当院のプログラム管理委員会、および臨床研修セ ンターが対応します. 特別連携施設の専門研修では、電話やメールでの面談・Web 会議システムなどにより指導医がその施 設での研修指導を行います 認定基準 カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療してい 【整備基準24】 ます. 70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます. 3) 診療経験の環 専門研修に必要な剖検(2022年27体、2023年28体、2024年24体の実績)を行っています. 境 認定基準 臨床研究に必要な図書室などを整備しています. 【整備基準24】 4) 学術活動の います. 環境 治験審査委員会を設置し、定期的に開催(2024年度間実績11回)しています.

順天堂大学臨床研究審査委員会を設置し、定期的に受託研究審査会を開催(2024 年度実績 12 回)して

- 医学系研究等倫理委員会を設置し、定期的に開催(2024年度実績 11回)しています.
- 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計10演題以上の学会発表をしています.

指導責任者

鈴木祐介

【内科専攻医へのメッセージ】

順天堂大学は、合計6つの附属病院を有し、それぞれの地域の協力病院と連携し、人材の育成や地域 医療の充実に向けて様々な活動を行っています。

順天堂医院は高度医療、先進医療を提供する病院として、他の医療機関と相互連携を図り、診療を行 う厚生労働省に認定された「特定機能病院」です。

当プログラムは、大学病院として、質の高い内科医を育成するばかりでなく、各人の希望に沿って、 より専門性に特化した研修内容や高度先進医療等を経験できます。一方で各附属病院や当院と関連の ある教育病院において、より地域の特性に沿った医療を行うことも可能です。

主担当医として、外来診療や入院から退院2(初診・入院~退院・通院) まで経時的に、診断・治療の流れを 通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になることを目指 します。

Г	T
	多くの専門医指導医からの指導を受けるとともに大学病院の特質となる学生教育の一端を担うことで、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスを提供する一員として、今後の医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目標にします。
指導医数(常勤 医)	日本内科学会指導医 218 名,日本内科学会総合内科専門医 114 名,日本消化器病学会専門医 37 名,日本肝臓学会専門医 19 名,日本循環器学会専門医 40 名,日本内分泌学会専門医 10 名,日本糖尿病学会専門医 26 名,日本腎臓学会専門医 13 名,日本呼吸器会専門医 31 名,日本血液学会専門医 13 名,日本神経学会専門医 35 名,日本アレルギー学会専門医 3 名,日本リウマチ学会専門医 25 名,日本感染症学会専門医 3 名,日本老年医学会専門医 4 名,日本教急医学会専門医名 3 名、消化器内視鏡学会専門医 36 名、がん薬物療法専門医 3 名
外 来 ・ 入院患 者数	外来患者 87,359 名(内科 1 ヶ月平均) 入院患者 29,374 名(内科 1 ヶ月平均)
^{日 奴} 経験できる疾 患群	研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 の症例を幅広く経験することができます. そのほかに大学病院ならでは希少な症例等幅広い症例を経験することができます.
経験できる技 術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を,実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域 医療 ・ 診療 連携	一般診療・急性期医療だけでなく、超高齢者化社会に対応した地域に根ざした医療として、近郊の医療 圏の病病・病診連携施設等で訪問診療や外来診療や離島医療なども経験できます.
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定施設 日本門職学会認定施設 日本門職学会認定施設 日本情環器学会認定循環器専門医研修施設 日本循環器学会認定預費器専門医研修施設 日本時界病学会認定研修施設 日本呼吸器学会認定研修施設 日本中での器学会認定施設 日本中での器学会認定施設 日本中経学会教育認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本メリウマチ学会教育施設 日本変に学会認定施設 日本を受会認定施設 日本を受会認定施設 日本を実験を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を

37. 亀田総合病院

認定基準 ・研修に必要な図書室とインターネット環境 【整備基準 24】 ・メンタルストレスに適切に対処するセルフケアサポートセンター ・悩みの相談をはじめ精神的なケアに専従するチャプレンや臨床心理士が常勤 1) 専攻医の環境 ハラスメント委員会の整備 ・女性専攻医も安心して勤務できるように、男女別の更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室を整備 ・敷地に隣接した保育所および病児保育施設 ・病院併設の体育館・トレーニングジム ・その他、クラブ活動、サーフィン大会など 認定基準 ・常にメールなどを通じて指導医、研修センターと連絡ができる環境。 【整備基準24】 ・連携施設での研修中であっても指導医と面談しプログラムの進捗状況の報告や相談をすることがで 2) 専門研修プロ きるようウェブ会議ができる環境。 グラムの環境 認定基準 内科領域の専門知識は、広範な分野を横断的に研修し、各種の疾患経験とその省察とによって獲得さ 【整備基準 24】 れます。内科領域を 70 疾患群 (経験すべき病態等を含む)に分類し、それぞれに提示されているいずれ かの疾患を順次経験します。この過程によって専門医に必要な知識、技術・技能を修得します。代表 3) 診療経験の環 的なものについては病歴要約や症例報告を記載します。 境 これらを通じて、遭遇することが稀な疾患であっても類緑疾患の経験と自己学習によって適切な診療 を行えるようにします。 認定基準 ①内科系学術集会や企画に年2回以上参加する(必須)。※日本内科学会本部または支部主催の生涯教 【整備基準 24】 育講演会、年次講演会 CPC および内科系 subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨する。 ②経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行う。 4) 学術活動の ③クリニカルクエスチョンを見出し臨床研究を行う。 環境 ④内科学会に通じる基礎研究を行う。 以上を通じて、化学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします。専攻医は学会発表ある いは論文発表を、筆頭者として2件以上行います。なお、専攻医が、社会人大学院など希望する場 合でも、亀田総合病院内科専門医研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持っ た研修を推奨します。 指導責任者 中路 聡 【内科専攻医へのメッセージ】 亀田総合病院では、高いレベルで幅広く総合的な内科診療能力を習得するための研修プログラムを準 備しています。 これから内科専門医研修を開始するみなさんは、一人ひとりバックグラウンドが違い ます。また、将来のビジョンも異なります。わたしたちには研修病院として長年の実績があります。 みなさんのニーズやスタイルに合わせ、かつ効率よく最短でプログラムを終了するための研修を提供 いたします。 「自由と責任」、「権利と義務」のもと、形式的ではないアウトカムを重視した内科医 として研修を行ってみませんか?内科専門医研修を開始するみなさん、ぜひ亀田総合病院で一緒に働 きましょう! 日本内科学会指導医 3名,日本内科学会総合内科専門医 22名, 指導医数(常勤 日本消化器病学会専門医 6名,日本胆道学会専門医 3名, 医) 日本消化器内視鏡学会 6名、日本循環器学会専門医 7名, 日本内分泌学会専門医 4名, 日本腎臓病学会専門医 5名, 日本呼吸器学会専門医 4名,日本血液学会専門医 2名, 日本神経学会専門医 8名,日本リウマチ学会専門医 1名, 日本感染症学会専門医4名ほか 2023 年度実績 外来患者 72, 460 名 / 入院患者 21, 556 名 外来・入院患 者数 全 70 疾患群、200 症例以上を経験することを目標とします。内科領域研修を幅広く行うため、内科領 経験できる疾 域内のどの疾患を受け持つかについては多様性がありますので、内科専門医に求められる知識・技 患群 能・態度修練プロセスを専門研修(専攻医)年限ごとに設定している。 技術・技能評価手帳参照。幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた、医療面接、身体診 経験できる技 察、検査結果の解釈、ならびに化学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します。 術・技能 病病・病診連携の両方での立場での研修を通じ、地域医療を幅広く多面的に学ぶことができます。 経験できる地域 医療 • 診療 22 連携

学会認定施設 (内科系)

- ・日本日本内科学会認定医制度における教育病院
- ・日本糖尿病学会認定教育施設 I
- 日本内分泌学会認定教育施設
- · 日本血液学会認定血液研修施設
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設
- 日本腎臟学会研修施設
- · 日本急性血液浄化学会認定指定施設
- ・日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院
- · 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡認定施設
- ・日本アレルギー学会アレルギー専門医教育施設
- · 日本消化器内視鏡学会指導施設
- · 日本消化器病学会認定施設
- · 日本胆道学会認定指導医制度指導施設認定
- ・日本不整脈・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設
- ・日本リウマチ学会教育施設

認定基準	知知吃 c T 发 则
	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です 研修に必要な図書室とインターネット環境(Wi-Fi)があります.
【整備基準 24】	- 研修に必要な図書室とインター不少ト環境 (WI-FI) がめります。 - メンタルストレスに適切に対処する部署 (研修事務担当者) 配置
1) 専攻医の環境	. ハラスメント委員会が整備されています.
	女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、
	当直室が整備されています.
	敷地内に院内保育所(きらら)があり、利用可能です。
認定基準	内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修管理し、基幹施設に設置されるプ
【整備基準 24】	ログラム管理委員会と連携を図ります.
2) 専門研修プロ	医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し専攻医に受講を義務付け、そのための時間的
グラムの環境	会裕を与えます ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕
	・ 物形地放射
	基幹施設である水戸協同病院で行う CPC、もしくは日本内科学会が企画する CPC を定期的に開催し受
	講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えています地域参加型のカンファレンス(呼
	吸器研究会、循環器研究会、消化器病研修会)は基幹病院および南部地区医師会が定期的に開催し
	ており、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています.
認定基準	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち総合内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器、および救急
【整備基準 24】	の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。救急の分野については、高度ではな
3) 診療経験の環	く、1次、2次の内科救急疾患、より一般な疾患が中心となります.
境	
認定基準	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表を予定しています
【整備基準 24】	
4) 学術活動の	
環境	
指導責任者	妹尾 真実
指導医数(常勤	
10 守心奴(市期	日本内科学会総合内科専門医3名 日本呼吸器学会専門医1名、
医)	日本內科学会総合內科専門医3名 日本呼吸器学会専門医1名、日本衛環器学会循環器専門医2名、日本透析医学会専門医1名、日本救急医学会救急科専門医6名
	日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本透析医学会専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 6 名
医) 外来・入院患	
医) 外来・ 入院患 者数	日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本透析医学会専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 6 名 外来患者数 4,815 人(月平均) 入院患者数 2,502 人(月平均)
医) 外来・入院患	日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本透析医学会専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 6 名 外来患者数 4,815 人(月平均) 入院患者数 2,502 人(月平均) 研修手帳にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験できます. 高齢者は複数の疾患を併せ持つ高齢者医
医) 外来・ 入院患 者数	日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本透析医学会専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 6 名 外来患者数 4,815 人(月平均) 入院患者数 2,502 人(月平均) 研修手帳にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験できます. 高齢者は複数の疾患を併せ持つ高齢者医療において検査・治療をどこまで行うことがその患者にとって有益かどうかという視点を常に持ちながら実施して
医) 外来・入院患 者数 経験できる疾	日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本透析医学会専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 6 名 外来患者数 4,815 人(月平均) 入院患者数 2,502 人(月平均) 研修手帳にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験できます. 高齢者は複数の疾患を併せ持つ高齢者医療において検査・治療をどこまで行うことがその患者にとって有益かどうかという視点を常に持ちながら実施して頂きます. 終末期ケア、緩和ケア、認知症ケア、褥瘡ケア、廃用症候群のケア、嚥下障害を含めた栄養管理、リ
医) 外来・入院患 者数 経験できる疾 患群	日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本透析医学会専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 6 名 外来患者数 4,815 人(月平均) 入院患者数 2,502 人(月平均) 研修手帳にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験できます. 高齢者は複数の疾患を併せ持つ高齢者医療において検査・治療をどこまで行うことがその患者にとって有益かどうかという視点を常に持ちながら実施して
医) 外来・入院患 者数 経験できる疾 患群	日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本透析医学会専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 6 名 外来患者数 4,815 人(月平均) 入院患者数 2,502 人(月平均) 研修手帳にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験できます. 高齢者は複数の疾患を併せ持つ高齢者医療において検査・治療をどこまで行うことがその患者にとって有益かどうかという視点を常に持ちながら実施して頂きます. 終末期ケア、緩和ケア、認知症ケア、褥瘡ケア、廃用症候群のケア、嚥下障害を含めた栄養管理、リハビリテーションに関する技術・技能を総合的に研修することが可能です.
医) 外来・入院患 者数 経験できる疾 患群 経験できる技 術・技能	日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本透析医学会専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 6 名 外来患者数 4,815 人(月平均) 入院患者数 2,502 人(月平均) 研修手帳にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験できます. 高齢者は複数の疾患を併せ持つ高齢者医療において検査・治療をどこまで行うことがその患者にとって有益かどうかという視点を常に持ちながら実施して頂きます. 終末期ケア、緩和ケア、認知症ケア、褥瘡ケア、廃用症候群のケア、嚥下障害を含めた栄養管理、リハビリテーションに関する技術・技能を総合的に研修することが可能です. 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験すること
医) 外来・入院患 者数 経験できる疾 患群	日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本透析医学会専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 6 名 外来患者数 4,815 人(月平均) 入院患者数 2,502 人(月平均) 研修手帳にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験できます. 高齢者は複数の疾患を併せ持つ高齢者医療において検査・治療をどこまで行うことがその患者にとって有益かどうかという視点を常に持ちながら実施して頂きます. 終末期ケア、緩和ケア、認知症ケア、褥瘡ケア、廃用症候群のケア、嚥下障害を含めた栄養管理、リハビリテーションに関する技術・技能を総合的に研修することが可能です. 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
医) 外来・入院患 者数 経験できる疾 患群 経験できる技 術・技能 経験できる地域 医療・診療	日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本透析医学会専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 6 名 外来患者数 4,815 人(月平均) 入院患者数 2,502 人(月平均) 研修手帳にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験できます. 高齢者は複数の疾患を併せ持つ高齢者医療において検査・治療をどこまで行うことがその患者にとって有益かどうかという視点を常に持ちながら実施して頂きます. 終末期ケア、緩和ケア、認知症ケア、褥瘡ケア、廃用症候群のケア、嚥下障害を含めた栄養管理、リハビリテーションに関する技術・技能を総合的に研修することが可能です. 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
医) 外来・入院患 者数 経験できる疾 患群 経験できる技 術・技能 経験できる を技能 経験できる を技能 経験できる を技能 経験できる を技能 経験できる を表 を表 を表 を表 を表 を表 を表 を表 を表 を表	日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本透析医学会専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 6 名 外来患者数 4,815 人(月平均) 入院患者数 2,502 人(月平均) 研修手帳にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験できます. 高齢者は複数の疾患を併せ持つ高齢者医療において検査・治療をどこまで行うことがその患者にとって有益かどうかという視点を常に持ちながら実施して頂きます. 終末期ケア、緩和ケア、認知症ケア、褥瘡ケア、廃用症候群のケア、嚥下障害を含めた栄養管理、リハビリテーションに関する技術・技能を総合的に研修することが可能です. 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
医) 外来・入院患者数 経験できる疾患群 経験できる技術・技能 経験できる 地域 医療・診療 連携 学会認定施設	日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本透析医学会専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 6 名外来患者数 4,815 人(月平均) 入院患者数 2,502 人(月平均) 研修手帳にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験できます. 高齢者は複数の疾患を併せ持つ高齢者医療において検査・治療をどこまで行うことがその患者にとって有益かどうかという視点を常に持ちながら実施して頂きます. 終末期ケア、緩和ケア、認知症ケア、褥瘡ケア、廃用症候群のケア、嚥下障害を含めた栄養管理、リハビリテーションに関する技術・技能を総合的に研修することが可能です. 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます. 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます.
医) 外来・入院患 者数 経験できる疾 患群 経験できる技 術・技能 経験できる を技能 経験できる を技能 経験できる を技能 経験できる を技能 経験できる を表 を表 を表 を表 を表 を表 を表 を表 を表 を表	日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本透析医学会専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 6 名外来患者数 4,815 人(月平均) 入院患者数 2,502 人(月平均) 研修手帳にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験できます. 高齢者は複数の疾患を併せ持つ高齢者医療において検査・治療をどこまで行うことがその患者にとって有益かどうかという視点を常に持ちながら実施して頂きます. 終末期ケア、緩和ケア、認知症ケア、褥瘡ケア、廃用症候群のケア、嚥下障害を含めた栄養管理、リハビリテーションに関する技術・技能を総合的に研修することが可能です. 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます. 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます.
医) 外来・入院患者数 経験できる疾患群 経験できる技術・技能 経験できる 地域 医療・診療 連携 学会認定施設	日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本透析医学会専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 6 名外来患者数 4,815 人(月平均) 入院患者数 2,502 人(月平均) 研修手帳にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験できます. 高齢者は複数の疾患を併せ持つ高齢者医療において検査・治療をどこまで行うことがその患者にとって有益かどうかという視点を常に持ちながら実施して頂きます. 終末期ケア、緩和ケア、認知症ケア、褥瘡ケア、廃用症候群のケア、嚥下障害を含めた栄養管理、リハビリテーションに関する技術・技能を総合的に研修することが可能です. 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます. 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます.
医) 外来・入院患者数 経験できる疾患群 経験できる技術・技能 経験できる 地域 医療・診療 連携 学会認定施設	日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本透析医学会専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 6 名外来患者数 4,815 人(月平均) 入院患者数 2,502 人(月平均) 研修手帳にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験できます. 高齢者は複数の疾患を併せ持つ高齢者医療において検査・治療をどこまで行うことがその患者にとって有益かどうかという視点を常に持ちながら実施して頂きます. 終末期ケア、緩和ケア、認知症ケア、褥瘡ケア、廃用症候群のケア、嚥下障害を含めた栄養管理、リハビリテーションに関する技術・技能を総合的に研修することが可能です. 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます. 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます.
医) 外来・入院患者数 経験できる疾患群 経験できる技術・技能 経験できる 地域 医療・診療 連携 学会認定施設	日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本透析医学会専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 6 名外来患者数 4,815 人(月平均) 入院患者数 2,502 人(月平均) 研修手帳にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験できます. 高齢者は複数の疾患を併せ持つ高齢者医療において検査・治療をどこまで行うことがその患者にとって有益かどうかという視点を常に持ちながら実施して頂きます. 終末期ケア、緩和ケア、認知症ケア、褥瘡ケア、廃用症候群のケア、嚥下障害を含めた栄養管理、リハビリテーションに関する技術・技能を総合的に研修することが可能です. 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます. 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます.
医) 外来・入院患者数 経験できる疾患群 経験できる技術・技能 経験できる 地域 医療・診療 連携 学会認定施設	日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本透析医学会専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 6 名外来患者数 4,815 人(月平均) 入院患者数 2,502 人(月平均) 研修手帳にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験できます. 高齢者は複数の疾患を併せ持つ高齢者医療において検査・治療をどこまで行うことがその患者にとって有益かどうかという視点を常に持ちながら実施して頂きます. 終末期ケア、緩和ケア、認知症ケア、褥瘡ケア、廃用症候群のケア、嚥下障害を含めた栄養管理、リハビリテーションに関する技術・技能を総合的に研修することが可能です. 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます. 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます.

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プロ グラムの環境	
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環 境	
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の 環境	
指導責任者	
指導医数(常勤 医)	
外来・入院患 者数	
経験できる疾 患群	
経験できる技 術・技能	
経験できる地域 医療 ・ 診療	
連携 学会認定施設 (内科系)	

39. 沖縄県立北部病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・研修医用に研修医宿舎を整備しています。月額1万5,000円程度1LDK ・沖縄県の規定に準じて労務環境が保障されています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プロ グラムの環境	・指導医は4名在籍しています。今後指導医は増やしていく予定です。・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。・医療倫理・医療安全・感染症対策講習会を定期的に開催します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環 境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、神経、内分泌、代謝、感染、アレルギー、膠原病及び 救急の分野で定常的に専門研修が可能な病例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の 環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表を予定しています。 ・2024年度実績2演題
指導責任者	【内科専攻医へのメッセージ】星野 慎一 当院は、沖縄北部地域を医療圏とする 327 床の一般総合病院です。当院の特徴の一つとして、入院患者の 70%が救急外来からであること、1-3 次までのさまざまな急性期内科疾患を経験することができます。また当院には循環器内科、消化器内科、腎臓内科の専門分野があり、全科ローテートすることになりますが、いずれのグループにおいても、一般内科の診療をしながら、なおかつ専門分野の診療を行うというのが当院のスタンスです。急性期疾患、内科全般を診れる力をつけたい方にとっては、うってつけの病院です。
指導医数(常勤 医)	・日本内科学会総合内科専門医 5名 ・循環器専門門医 1名
外来 ・ 入院患 者数	外来患者 (2,469名) 入院患者 (224名) ※ともに 1 ヶ月平均 (実人数)
経験できる疾 患群	・技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる技 術・技能	・技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域 医療・診療	・急性期医療だけでなく、超高齢者に対応した地域に根ざした医療、病診・病院連携なども経験できます。
連携学会認定施設(内科系)	 ・日本内科学会認定医制度教育関連病院 ・日本循環器専門医研修関連施設 ・日本透析医学会教育関連施設 ・救急科専門医指定施設 ・日本救急医学会救急科専門医指定施設 ・日本がん治療認定医機構認定研修施設 ・日本消化器病学会関連施設

3) 専門研修特別連携施設

1. 県北医療センター高萩協同病院

認定基準 整備基準 24】 1)専攻医の環境	・協力型臨床研修病院です。・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。・常勤医師として労務環境が保障されています。・メンタルストレスに適切に対処する部署(健康管理室職員担当)があります。・ハラスメント対応部署が病院庶務課・厚生連本部に整備されています。
指導責任者	渡辺重行
外来・入院 患者 数	外来患者 434 名/日 入院患者 120 名/日
経験できる地域医 療・診療連携	厚生連病院として、県北地域の農家組合員、その関係者のみならず地域住民の生活習慣病をはじめとする疾患の早期発見・早期治療に取り組み、地域の中核病院として機能しています。

2. 那珂記念クリニック

認定基準	・日本糖尿病学会認定教育施設です。
整備基準 24】	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
1) 専攻医の環境	・職員(常勤)として労務環境が保障されています。
	・専攻医が安心して勤務できるように、医局、休憩室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されてい
	ます。
認定基準	・日本糖尿病学会指導医は 1 名在籍しています。
整備基準 24】	・日本糖尿病専門プログラムに基づく研修をします。
2) 専門研修プログ	・専攻医の希望する講習会等に参加できるよう時間的余裕を与えます。
ラムの環境	
認定基準	・内科領域の主に内分泌・代謝分野において定常的な専門研修が可能な症例数を診療しています。
整備基準 24】	
3) 診療経験の環境	
認定基準	・治験事務局を設置し、定期的に治験審査委員会を開催(2018 年度 12 回)しています
整備基準 24】	・倫理委員会を設置し、不定期に開催しています。
4) 学術活動の環境	・図書室を設置しています。
	・臨床研究室を設置し、臨床研究のサポートを行っています。
	・日本糖尿病学術集会あるいは同地方会で積極的に学会発表(2018 年度 2 演題、2017 年度 9 講
114) 24 - 14 - 14	演)をしています。
指導責任者	遅野井 健 【メッセージ】
	那珂記念クリニックは常勤 1 名、非常勤 8 名 合計 9 名の先生により医療法人健清会那珂記念ク
	リニックを設置し、診療を行っております。 (非常勤の内 2 名、
	小沼 富男先生・・・日本老年期 DM の権威
松道医粉 (農料)	八木橋 操六先生・・・糖尿病末梢神経障害・膵ランゲルハンス島の権威)
指導医数(常勤)	日本糖尿病学会専門医・指導医 1 名 (1) B E E E E E E E E E E E E E E E E E E
外来・入院患者数	外来患者 3,800 名(1 ヶ月平均) 入院患者 150 名(1 ヶ月平均) 糖尿病・生活習慣病関連全般
経験できる疾患群	
経験できる技術・技 能	糖尿病診療に必要な技術・技能を、多くの症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医	糖尿病患者の県内外の医療機関との診診連携など。
療・診療連携	
学会認定施設	日本糖尿病学会認定教育施設
内科系)	
経験できる疾患群	糖尿病・生活習慣病関連全般
経験できる技術・技	糖尿病診療に必要な技術・技能を、多くの症例に基づきながら幅広く経験することができます。
能	
経験できる地域医	糖尿病患者の県内外の医療機関との診診連携など。
療・診療連携	
学会認定施設	日本糖尿病学会認定教育施設
内科系)	22
	44

3. 隠岐広域連合立隠岐島前病院

認定基準 ・臨床研修病院の協力型施設です。 ・院内は、Wi-Fi環境が整備されており、どこでもインターネットの利用ができるように整備してありま 【整備基準 24】 す。また宿舎にも Wi-Fi ルータの貸し出しなどを行います。 1) 専攻医の環境 ・常勤医師としての労務環境は十分保証されています。 ・メンタルストレス、ハラスメントに対処する担当者を配置しています。 ・院内には病児保育室が整備されており、状況に応じて利用可能です。また町内の保育施設に関しても利 用できるよう調整が可能です。 浴室を備えた当直室があり、休憩室としても利用も可能です。 認定基準 ・指導医は4名在籍しています。 ・研修プログラム管理者(院長・内科医)にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携 【整備基準24】 を図ります。 2) 専門研修プログ ・医療安全、感染対策講習会は、定期定期に開催されており、全職員(専攻医を含む)に受講を義務付け、 ラムの環境 そのための時間的余裕を確保しています。 ・地域参加型のカンファレンスは月に2回、ウェブカンファレンスは週に2回開催しており、専攻医も参 加が義務であり、その他の時間的余裕も確保しています。 ・特別連携施設(浦郷診療所、知夫診療所、へき地三度診療所)の専門研修も可能で、当院の常勤医による ブロック制での勤務も経験可能です。研修指導は当院指導医が行います。 ・カリキュラムに示す内科領域全分野で定常的に専門研修が可能です。特に地域総合内科Ⅱの高齢者郡の研 認定基準 修は多く経験可能です。 【整備基準 24】 ・70 疾患郡の概ね全疾患について研修できます。 3) 診療経験の環境 認定基準 ・学会参加の義務付けは行っていませんが、興味のある学会への参加は特に制限がありません。また発表に 対する予演、指導、助言は適宜可能です。 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境 指導責任者 福田 聡司 【研修責任者より内科専攻医へのメッセージ】 当院は西ノ島、中ノ島、知夫里島の3島からなる島前地区で唯一の入院病床を持つ、島前地区の基幹病院と して約6,000人、高齢化率45%以上の方々を対象として診療を行っています。本土まで高速船2時間、フェ リーで3時間という物理的な距離があるため、出来る限りの医療を島内で完結できるように必要な検査機 器、診療技術、知識をそろえて対応しています。 対象となる患者は、0歳から100歳まで、対象としている疾患は、内科・外科にとらわれず、耳鼻科や 眼科、皮膚科も含め、受診した患者の全てに対応しています。 当院での研修は地域医療、総合診療の最先端を学ぶことができると自負しております。総合診療の「診」 は診断、「寮」は治療です。診断から治療、さらにはその経過 follow まで、小児から高齢者まで、外来・入院 問わず全てを主治医として関わり、コメディカルと強調して本当の意味でのチーム医療を展開できる能力を 養うことができます。離島の小さな病院なので、MRI や PET-CT といった高価な機械はありませんが、超音波 診療にとても力を入れており、エコー診療の知識や技術を学ぶこともできます。 当院は毎年100人以上の研修医、医学生、看護学生、リハ学生、薬学部学生、高校生の見学や実習を受入 れています。島根県のへき地である隠岐島前という離島にこれだけたくさんの実習生が来られるのはそれで 学べることが多くあるからだと思います。ぜひ一度当院での研修も検討してみてはいかがでしょうか。 指導医数(常勤) 外来・入院 患者数 |外来患者 118 名(1 日平均) 入院患者数 40 名(1 日平均) 経験できる疾患群 ・いわゆる一般的に common disease と呼ばれる疾患は幅広く経験可能です。また、自分自身で診断し、治療 を選択して、経過を見るという外来診療を常勤医の指導の下経験することが可能です。 ・高齢化率の非常に高い地域であるため、高齢者疾患を経験することができます。 経験できる技術・ ・診療から治療、経過 follow を行うという外来診療、入院管理、さらには退院調整、在宅診療、施設嘱託医 技能 業務などありとあらゆる診療の技術、技能を経験可能です。 ・超音波診療に力を入れているため、心臓・腹部・頸動脈に留まらず、運動器、皮膚・感覚器、産婦人科、 新生児などの超音波診療技術、技能の経験ができます。 経験できる地域医 ・いわゆる地域医療としてイメージされるありとあらゆるものは経験できます。さらに院内外に MSW がい 療・診療連携 るわけではないので、退院調整、退院後の生活調整なども自分でしなければなりません。近隣の診療所とは WEB 型電子カルテで常に情報を共有していますので、連携は非常にスムーズです。また施設も島内に限られ た数しかなく、当院の医師がそれぞれの嘱託医も務めており、カルテも共有しているため、施設との連携も スムーズです。 ・ケアマネやヘルパーも事業所が限られているため、すぐに顔の分かる関係を作ることができ、非常にシー ムレスな地域医療、診療連携を経験するこ22ができます。 学会認定施設 (内科系)

4. 公立久米島病院

認定基準	施設内に研修に必要なインターネット・図書の環境が整備されています
【整備基準 24】	衛生委員会などで適切な労務環境が保障されています
1) 専攻医の環境	メンタルストレスに適切に対処する部署、委員会があります
	ハラスメント委員会が整備されています
	女性専攻医が安心して勤務できるような休憩室、更衣室、シャワー室、当直室等が配慮されています
	島内に保育施設等が利用可能です
認定基準	指導医は1名在籍しています
【整備基準 24】	施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ることが
2) 専門研修プログ	できる
ラムの環境	医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催しており、専攻医に受講を義務付け、そのための時間
	的余裕を与えている
	開催が困難な場合には、基幹施設で行う上記講演会の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与
	えている
	研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与え
	ている
	CPC は開催が困難なため、基幹施設で行う CPC、もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専攻医に義務
	付け、そのための時間的余裕を与えている
	地域参加型のカンファレンスを定期的に参画し、専攻医に参加を促し、義務付け、そのための時間的余裕を
	与えている
認定基準	カリキュラムに示す内科領域 13 分野の多くを研修可能な症例数を診療している
【整備基準 24】	70 疾患群の極めて稀、あるいは稀な疾患を除き、研修可能である
3) 診療経験の環境	
認定基準	臨床研究に必要なインターネット、図書の環境が整備されています
【整備基準 24】	倫理委員会を設置し、適宜開催しています
	内科系関連学会で年間で計1演題以上の学会発表をしています
指導責任者	並木宏文 (なみきひろふみ)
指導医数	日本内科学会指導医1名
(常勤医)	
	外来 180 名/日、入院患者数 20-30 名/日 (2023 年度実績)
経験できる疾患群	極めて稀、稀な疾患を除き、研修手帳にある 13 領域 70 疾患群の症例を幅広く経験可
経験できる技術・	 極めて稀な技術・手技を除き、研修手帳にある 13 領域 70 疾患群の症例を幅広く経験可
技能	
経験できる地域医	 離島医療における急性期~慢性期病院医療、在宅医療等のすべてを経験でき、地域医療・診療連携を体験・
療・診療連携	実践することができる
学会認定施設	日本病院総合診療医学会
(内科系)	日本的院配日彦原医子云 日本在宅医療連合学会
(1717环)	

20.水戸協同病院総合内科専門研修プログラム管理委員会

(令和6年3月現在)

筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター・総合病院水戸協同病院

佐藤浩昭(プログラム統括責任者,呼吸器内科) 小林裕幸(プログラム管理委員長,総合診療科)

外山昌弘(JMECC 担当,循環器内科) 野牛宏晃(内分泌代謝・糖尿病内科)

萩原將太郎 (血液内科教授)

鹿志村純也 (消化器内科准教授)

福家聡美 (事務)

オブザーバーチーフレジデント (専攻医代表)

連携施設担当委員

筑波大学附属病院

茨城県立中央病院

水戸医療センター

水戸済生会総合病院

茨城西南医療センター病院

島根大学医学部附属病院

県北医療センター高萩協同病院

総合病院 土浦協同病院

帝京大学ちば総合医療センター

八戸市立市民病院

獨協医科大学埼玉医療センター

株式会社日立製作所ひたちなか総合病院

沖縄協同病院

都立多摩総合医療センター

虎の門病院分院

那珂記念クリニック

岡山大学病院

川崎幸病院

麻生飯塚病院

長崎大学病院

JA 北海道厚生連帯広厚生病院

埼玉医科大学総合医療センター

隠岐広域連合立隠岐島前病院

公立陶生病院

藤田医科大学病院

沖縄県立北部病院

国際医療福祉大学成田病院

東京医科大学茨城医療センター

独協医科大学病院

福島県立医科大学会津医療センター

鹿児島県立大島病院

東京女子医科大学附属病院

日本海総合病院

久米島病院

耳原総合病院